

第8回淑徳大学学生生活 実態調査報告書



2021年 12月

淑 徳 大 学

刊行にあたって

淑徳大学では、「自己点検・評価の一環として、淑徳大学に学ぶ学生の皆さんが、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考えるうえでの基礎データを収集すること」を目的として、1993年に第1回学生生活実態調査を実施しました。その後4年に1回の調査を重ね、今年2021年に第8回調査を実施し、ここに報告書を刊行するに至りました。

調査対象は、4つのキャンパス（6つの学部、11の学科）に在籍するすべての学生であります。調査方法ですが、前はS-Naviを用いたWeb上での実施でしたが、今回は学生がより回答しやすいように携帯電話で回答できる方法を採用しました。調査時期の7月は、コロナ禍によりキャンパスに登校している学生が少ないため回答率が心配でしたが、全体の有効回答率は80.4%と目標に達し、第7回調査の81.4%に近い回答率でした。

大学では定期的に「授業評価アンケート」や「授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査」を実施しておりますが、学生生活の全体像を掘り下げて全学の学生を対象に調査する機会は、この「学生生活実態調査」を除いてはありません。今回も大学生活の状況、学生生活への満足度、要望・意見を含んだ大学への評価等、学生生活全般についての具体的なデータを得ることができました。

また、今回は学生が本学に対して評価していることや高校生に薦めたいこと、すなわち「学生の皆さんが淑徳大学の強みと感じていること」を調査結果から示しました。「多くの学生が親切、優しい、温かい89.3%」「専門的な学びの機会が充実している86.0%」「建学の精神である『利他共生』にもとづいた教育が実践されている84.9%」「仲間や友人から得られる学びが大きい84.4%」等と回答してくれました。

本報告書は、これらの貴重なデータを分析・整理して、教職員や学生、広く学外に公開するものです。私たち教職員は今後、学生皆さんの生活実態や要望に対しての改善・改革の具体策を検討してまいります。可能なところから順次着手し、学生サービスの一層の向上に努めることを約束します。

最後になりますが、今回の学生生活実態調査にご協力いただいた学生の皆さんに心より厚く御礼申し上げます。また、第8回学生生活実態調査委員会の皆さんには、多大のご尽力をいただきました。心より感謝いたします。

学 長 山 口 光 治

目 次

I. 調査の概要

(1) 調査の目的	2
(2) 調査対象	2
(3) 調査の方法及び実施期間	2
(4) 有効回答率	3

II. 調査結果

(1) 志望の状況	6
(2) 学生生活の状況	10
(3) 日常生活の習慣.....	13
(4) アルバイトの実施状況	15
(5) 情報端末の所持、使用状況	18
(6) 友人関係及び教職員との関係	23
(7) 教育環境の満足度	25
(8) 淑徳大学の強み、薦めたい点	36
(9) 淑徳大学、学生生活の総合満足度	49
(10) 淑徳大学への要望や意見（自由記述回答より）	51

III. 要望・意見に対する「各キャンパスの回答」	52
---------------------------------	----

IV. 「第8回淑徳大学学生生活実態調査」調査票	71
--------------------------------	----

Ⅰ．調 査 の 概 要

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、自己点検・評価の一環として、学部生が日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学（以下、本学とする）のあり方を考える上での基礎データを収集することを目的とする。

(2) 調査対象

2021年7月5日（調査開始 [学内広報]）時点の休学者を除く正課程の学部学生を対象とした。対象者は、4,757名であった。（表 I - 1）

表 I - 1 在学学生数

（2021年7月5日現在）

	総合福祉学部				看護栄養学部			コミュニティ政策学部
	社会福祉学科	教育福祉学科	実践心理学科	学部計	看護学科	栄養学科	学部計	コミュニティ政策学科/学部計
1 年次	199	158	109	466	107	84	191	101
2 年次	217	151	103	471	113	50	163	105
3 年次	188	143	91	422	105	79	184	93
4 年次	188	137	97	422	96	68	164	119
計	792	589	400	1,781	421	281	702	418

	経営学部			教育学部	人文学部			大学計
	経営学科	観光経営学科	学部計	こども教育学科/学部計	歴史学科	表現学科	学部計	
1 年次	111	89	200	124	65	93	158	1,240
2 年次	108	91	199	148	63	87	150	1,236
3 年次	104	88	192	101	56	82	138	1,130
4 年次	112	84	196	90	76	84	160	1,151
計	435	352	787	463	260	346	606	4,757

(3) 調査の方法及び実施期間

2021年7月5日（月）～7月28日（水）まで、株式会社マクロミルのオープンリサーチ・システムを使用し、Web 調査により実施した。

実施に際しては、複数回にわたる S-Navi の配信、学内へのポスター掲示による依頼や授業時に教員からの口頭による依頼等を行い回答率の向上に努めた。

(4) 有効回答率

今回の回答者数は、総合福祉学部 1,218 人、看護栄養学部 668 人、コミュニティ政策学部 314 人、経営学部 669 人、教育学部 413 人、人文学部 543 人であった。全体で 3,825 人の回答があった。

有効回答率は、総合福祉学部 68.4%、看護栄養学部 95.2%、コミュニティ政策学部 75.1%、経営学部 85.0%、教育学部 89.2%、人文学部 89.6%であった。全体の有効回答率は、80.4%であった。(表 I - 2)

大学全体を学年別にみると 1 年次 91.6%、2 年次 80.7%、3 年次 75.3%、4 年次 73.0%となっていて、上位学年になるほど回答率が低下している。学部別の学年をみると総合福祉学部では、1 年次 86.9%、2 年次 66.0%、3 年次 61.4%、4 年次 57.6%となっている。看護栄養学部では、1 年次 95.8%、2 年次 93.3%、3 年次 98.4%、4 年次 92.7%とすべての学年で 90%以上の回答率となっている。コミュニティ政策学部では、1 年次 94.1%、2 年次 78.1%、3 年次 69.9%、4 年次 60.5%、経営学部では、1 年次 93.5%、2 年次 92.5%、3 年次 76.0%、4 年次 77.6%、教育学部では、1 年次 92.7%、2 年次 90.5%、3 年次 85.1%、4 年次 86.7%、人文学部では、1 年次 95.6%、2 年次 90.0%、3 年次 82.6%、4 年次 89.4%であった。

S-Navi (アンケート機能) を用いて実施した前回 (2017 年実施) の調査と比較すると、総合福祉学部のみ回答率が低下し、その他の学部は回答率が上昇している。この結果、大学全体では、81.4%から 80.4%と回答率が微減した。

表 I - 2 有効回答者数・回答率

〔上段：有効回答者数
下段：有効回答率〕

	総合福祉学部				看護栄養学部			コミュニティ政策学部
	社会福祉学科	教育福祉学科	実践心理学科	学部計	看護学科	栄養学科	学部計	コミュニティ政策学科 / 学部計
1 年次	179 89.9%	144 91.1%	82 75.2%	405 86.9%	109 101.9%	74 88.1%	183 95.8%	95 94.1%
2 年次	135 62.2%	86 57.0%	90 87.4%	311 66.0%	102 90.3%	50 100.0%	152 93.3%	82 78.1%
3 年次	128 68.1%	87 60.8%	44 48.4%	259 61.4%	103 98.1%	78 98.7%	181 98.4%	65 69.9%
4 年次	132 70.2%	69 50.4%	42 43.3%	243 57.6%	90 93.8%	62 91.2%	152 92.7%	72 60.5%
計	574 72.5%	386 65.5%	258 64.5%	1,218 68.4%	404 96.0%	264 94.0%	668 95.2%	314 75.1%

	経営学部			教育学部	人文学部			大学計
	経営学科	観光経営学科	学部計	こども教育学科 / 学部計	歴史学科	表現学科	学部計	
1 年次	102 91.9%	85 95.5%	187 93.5%	115 92.7%	66 101.5%	85 91.4%	151 95.6%	1,136 91.6%
2 年次	109 100.9%	75 82.4%	184 92.5%	134 90.5%	59 93.7%	76 87.4%	135 90.0%	998 80.7%
3 年次	77 74.0%	69 78.4%	146 76.0%	86 85.1%	51 91.1%	63 76.8%	114 82.6%	851 75.3%
4 年次	84 75.0%	68 81.0%	152 77.6%	78 86.7%	72 94.7%	71 84.5%	143 89.4%	840 73.0%
計	372 85.5%	297 84.4%	669 85.0%	413 89.2%	248 95.4%	295 85.3%	543 89.6%	3,825 80.4%

II. 調 査 結 果

II. 調査結果

(1) 志望の状況

本学を選んだ理由は「専門的な勉強をしたい」が1位（51.9%）

1) 淑徳大学を選んだ動機

淑徳大学を選んだ動機について、「その他」を含む18の選択肢を提示し、回答を得た。

大学全体の傾向をみると、「所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった」51.9%、「免許や資格を取得できると思った」47.2%、「将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった」44.8%が上位3位となる。

およそ半数の学生が、「専門的な勉強をし、免許や資格を取得すること」によって、「希望通りに就職する」ために本学を選んだ、と回答している。これは、前回（第7回）や前々回（第6回）の調査結果と変わらない。

また、4位～9位をみると、「自宅から通学できる」29.0%、「自分の勉強したい科目がある」26.7%、「オープンキャンパスに参加し、印象が良かった」21.9%、「実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた」17.5%、「自分の学力に合っていた」17.5%、「就職率が高い、もしくは就職先が良い」10.9%であった。

10位から18位では、「高校や予備校の先生にすすめられた」、「専門以外の科目も勉強できると思った」、「キャンパスの施設、設備が気に入った」、「サークル活動や課外講座に魅力を感じた」、「家族や親類にすすめられた」、「伝統や建学の精神に魅力を感じた」、「友人や先輩にすすめられた」、「海外留学・研修に魅力を感じた」であり、これらの項目における選択率は10.0%未満である。

表Ⅱ-1に、各動機（複数回答可）の選択割合を全体および学部別に示す。

学部別にみると「所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった」が1位になった学部は、経営学部、人文学部である。

「免許や資格を取得できると思った」が1位になった学部は、総合福祉学部、看護栄養学部、教育学部である。

「自宅から通学できる」が1位になった学部は、コミュニティ政策学部である。コミュニティ政策学部は、大学全体で2位となった「免許や資格を取得できると思った」を選択する学生が少ない一方で、「自分の学力にあった」や「サークル活動や課外活動に魅力を感じた」を選択する学生が多いなど、特徴的な傾向があった。

図にはないが「その他」は2.8%であり、自由記述として、「他の大学に落ちたため」・「滑り止め」・「入りたい部活があった」・「合格したから」「自宅から近い」等の回答が目立った。

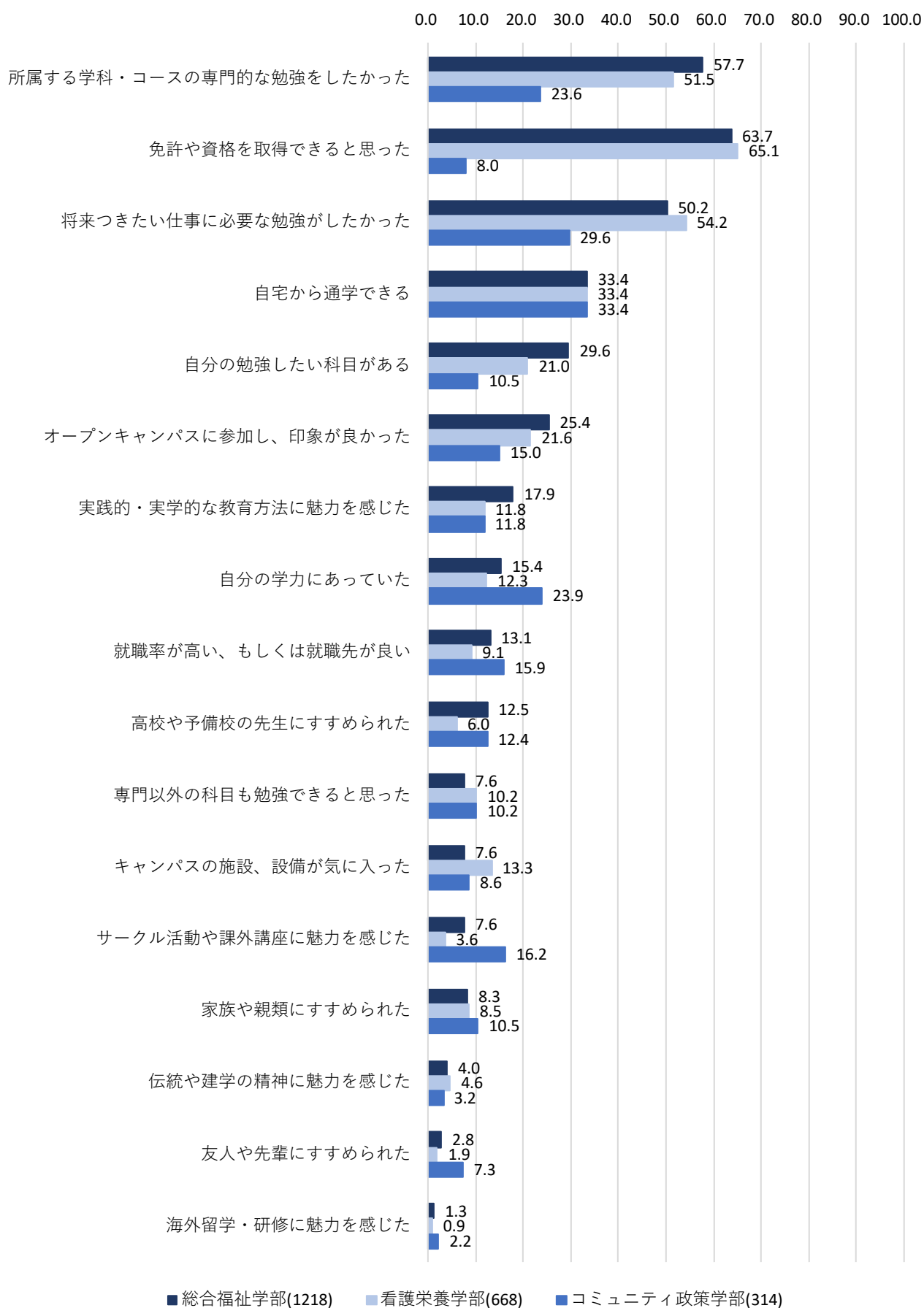


図 1-1 淑徳大学を選んだ動機（複数回答％）千葉・第二キャンパス

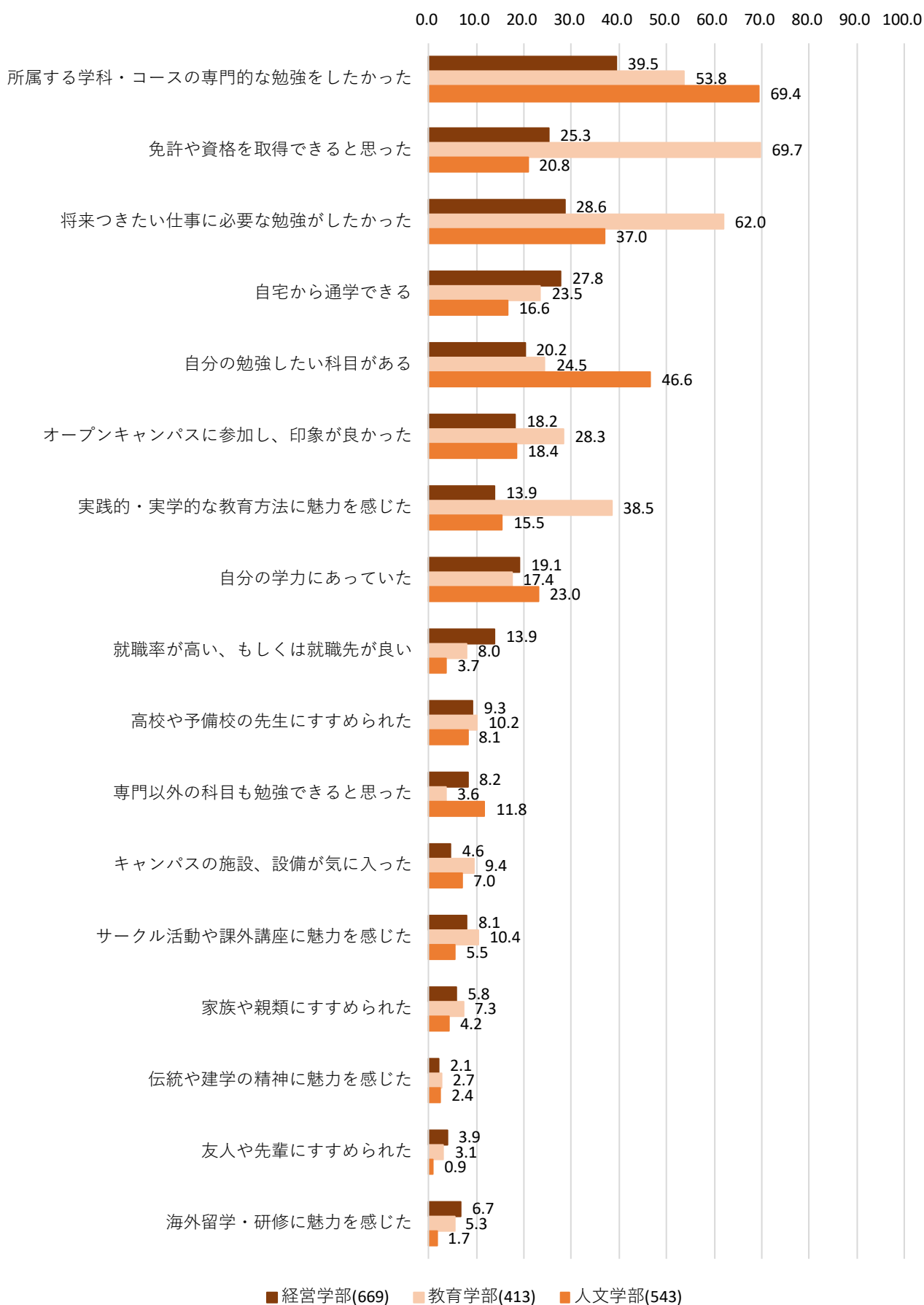


図 1-2 淑徳大学を選んだ動機（複数回答％）埼玉・東京キャンパス

表Ⅱ-2 淑徳大学を選んだ動機（複数回答％）

	所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった	免許や資格を取得できると思った	将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった	自宅から通学できる	自分の勉強したい科目がある	オープンキャンパスに参加し、印象が良かった	実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた	自分の学力にあった	就職率が高い、もしくは就職先が良い	高校や予備校の先生にすすめられた	専門以外の科目も勉強できると思った	キャンパスの施設、設備が気に入った	サークル活動や課外講座に魅力を感じた	家族や親類にすすめられた	伝統や建学の精神に魅力を感じた	友人や先輩にすすめられた	海外留学・研修に魅力を感じた	その他の動機（自由記述）
全体(3825)	51.9	47.2	44.8	29.0	26.7	21.9	17.5	17.5	10.9	9.9	8.5	8.3	7.7	7.4	3.3	3.0	2.7	2.8
総合福祉学部(1218)	57.7	63.7	50.2	33.4	29.6	25.4	17.9	15.4	13.1	12.5	7.6	7.6	7.6	8.3	4.0	2.8	1.3	1.4
看護栄養学部(668)	51.5	65.1	54.2	33.4	21.0	21.6	11.8	12.3	9.1	6.0	10.2	13.3	3.6	8.5	4.6	1.9	0.9	1.9
コミュニティ政策学部(314)	23.6	8.0	29.6	33.4	10.5	15.0	11.8	23.9	15.9	12.4	10.2	8.6	16.2	10.5	3.2	7.3	2.2	5.1
経営学部(669)	39.5	25.3	28.6	27.8	20.2	18.2	13.9	19.1	13.9	9.3	8.2	4.6	8.1	5.8	2.1	3.9	6.7	5.4
教育学部(413)	53.8	69.7	62.0	23.5	24.5	28.3	38.5	17.4	8.0	10.2	3.6	9.4	10.4	7.3	2.7	3.1	5.3	1.7
人文学部(543)	69.4	20.8	37.0	16.6	46.6	18.4	15.5	23.0	3.7	8.1	11.8	7.0	5.5	4.2	2.4	0.9	1.7	3.7

2) 志望の状況

本学が第一希望は 65.5%

淑徳大学の志望順位について、回答を得た。大学全体の傾向をみると、「第一志望」65.5%、「第二志望」16.0%、「第三志望以下」18.6%、であった。第一志望入学者の割合が高い順に、総合福祉学部 76.3%、コミュニティ政策学部 63.1%、教育学部 60.8%、経営学部 60.4%、看護栄養学部 60.2%、人文学部 58.9%となっている。人文学部の同割合は前回調査では 68.4%であり、今回調査では大幅減となったが、入学定員が前回調査より増えていることもその一因であると考えられる。

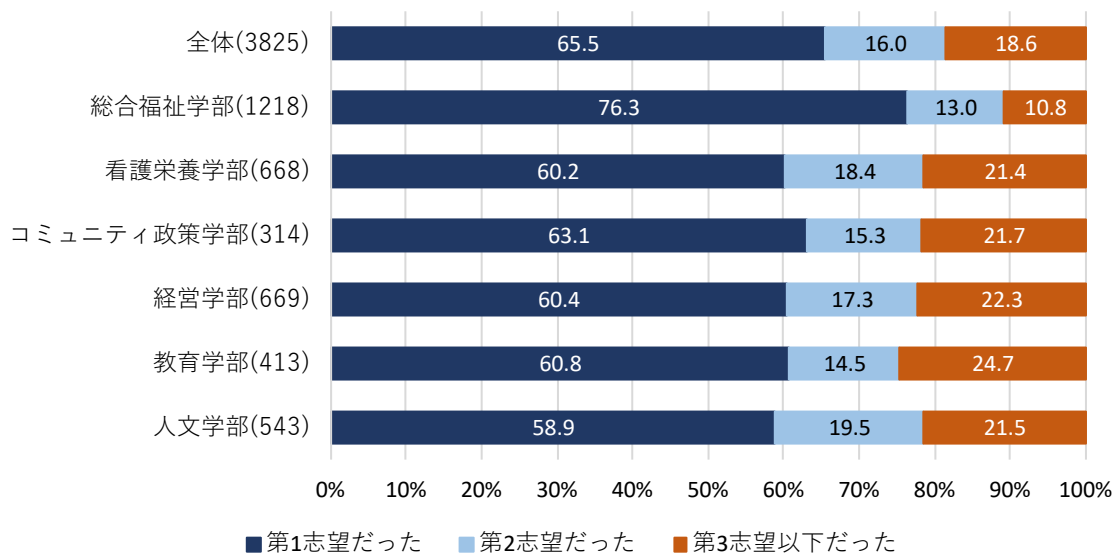


図 1-3 志望の状況（学部別）

(2) 学生生活の状況

1) 「授業期間中はひとり暮らし（学生寮等を含む）である」

ひとり暮らしである学生は、大学全体では 21.6%であった。

学部別にみると、ひとり暮らしの割合が高い順に、人文学部 26.3%、教育学部 24.2%、総合福祉学部 21.7%、経営学部 19.9%、看護栄養学部 19.2%、コミュニティ政策学部 18.2%であった。

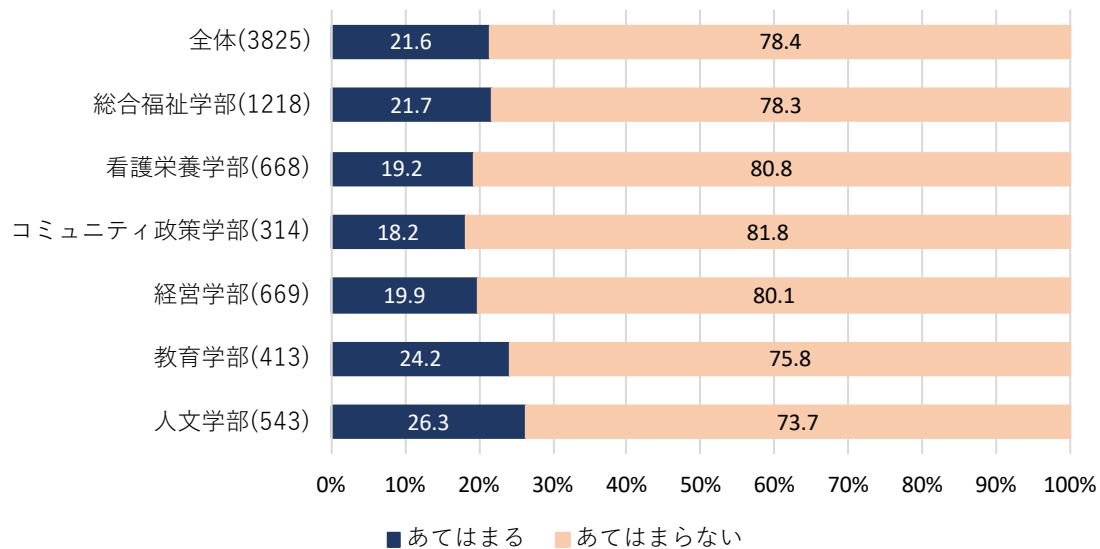


図 2-1 授業期間中はひとり暮らし（学生寮等を含む）である

2) 「部活・サークルに加入している」

部活・サークルに加入している割合は、大学全体で 46.5%であった。

学部によるバラツキが大きく、最も加入している割合が高い教育学部が 63.2%であるのに対し、最も低い看護栄養学部では 28.7%であった。

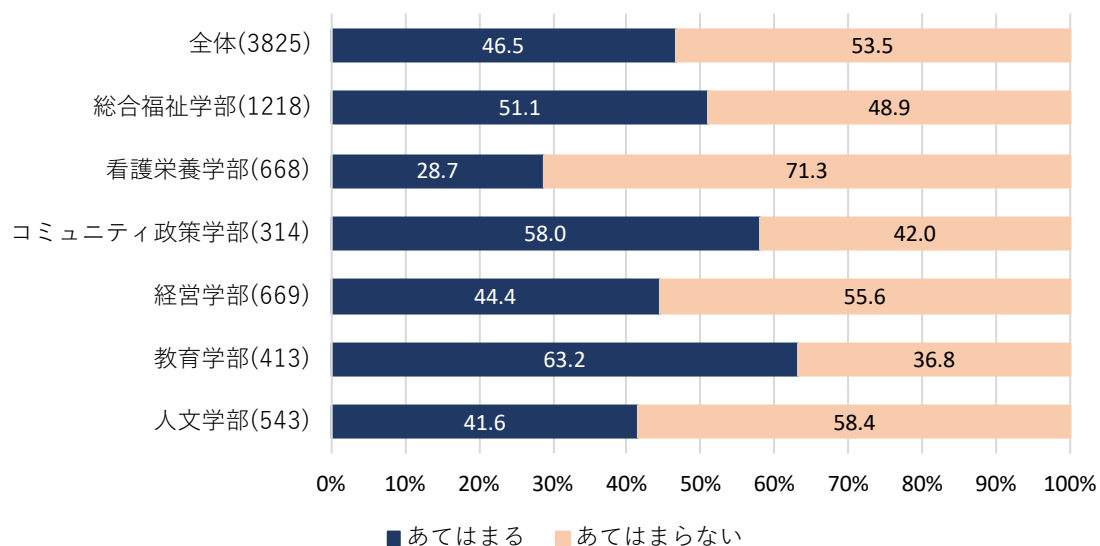


図 2-2 部活・サークルに加入している

3) 「大学の成績はよい方だと思う」

大学の成績はよい方だと思う学生の割合は、大学全体で「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて43.1%であった。

学部別にみると、看護栄養学部以外の学部は、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると40～50%であった。看護栄養学部は26.5%で、唯一30%を下回った。

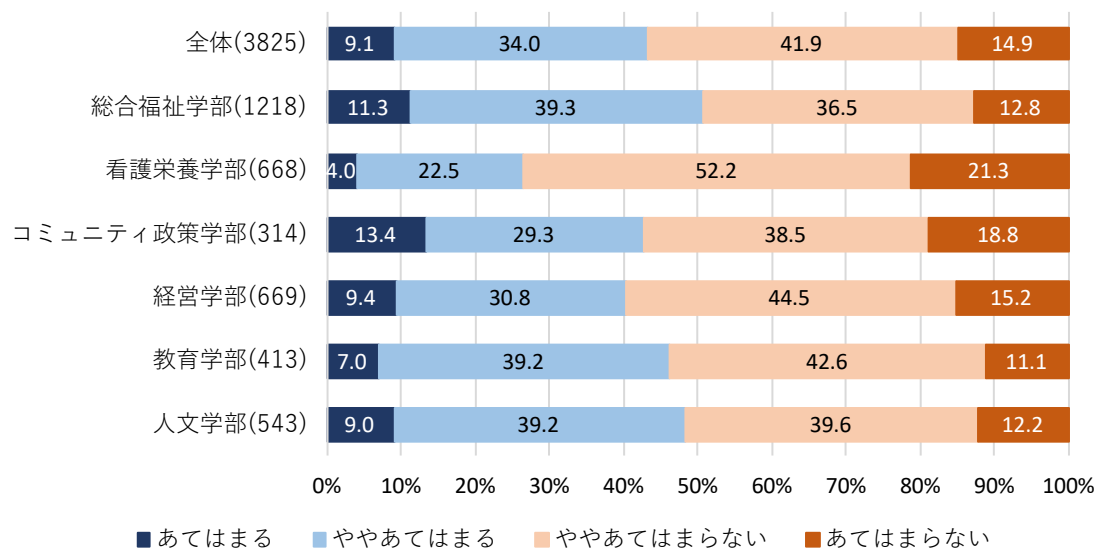


図 2-3 大学の成績はよい方だと思う

4) 「同じ学科の同学年の人と比べて、勉強時間は長い方だと思う」

同じ学科の同学年の人と比べて、勉強時間は長い方だと思っている学生の割合は、大学全体でみると、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて22.1%であった。

学部別にみると、「あてはまる」と「ややあてはまる」の比率が変化するものの、両者を合わせた割合はどの学部でも20%前後であった。

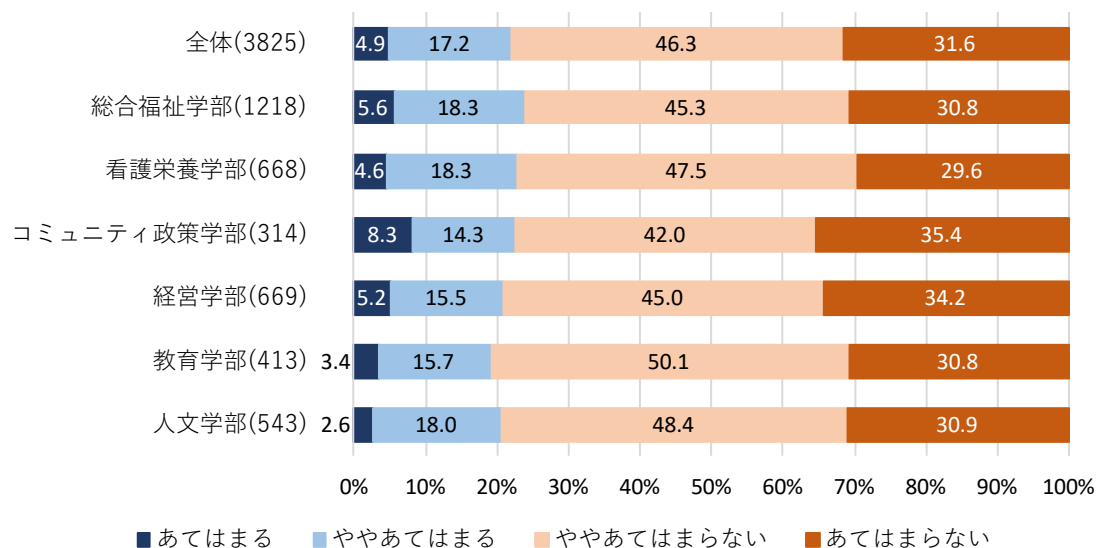


図 2-4 同じ学科の同学年の人と比べて、勉強時間は長い方だと思う

5) 「大学を退学・休学したいと思ったことがある」

大学を退学・休学したいと思ったことがある学生の割合は、大学全体でみると「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生を合わせて28.2%であった。

学部別にみると、看護栄養学部32.3%、コミュニティ政策学部32.2%で、退学・休学したいと思った学生の割合が3割を超えた。最も割合が低かったのは教育学部23.9%であった。

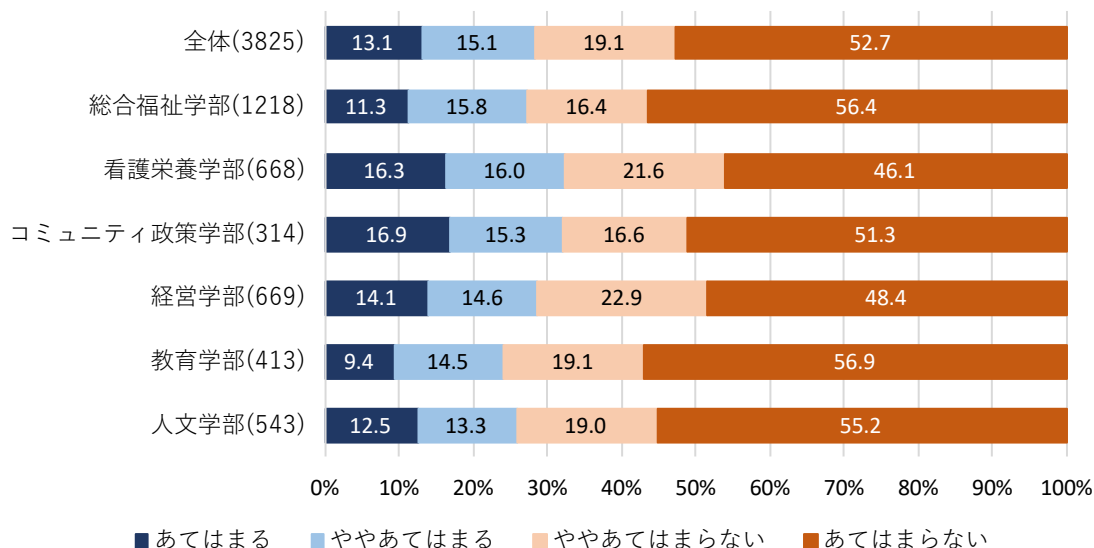


図 2-5 大学を退学・休学したいと思ったことがある

6) 「大学にハラスメントの相談窓口があることを知っている」

大学にハラスメントの相談窓口があることを知っている学生の割合は、大学全体でみると61.3%であり、前回調査の46.4%から大幅に増加した。

学部別にみると、看護栄養学部69.5%、教育学部69.7%、人文学部69.8%で約7割の学生が窓口の存在を知っており、最も割合の低い総合福祉学部でも半数の学生は知っていた。前回調査と比較すると、看護栄養学部が71.4%から69.5%に低下した以外は、総合福祉学部39.5%から50.2%、コミュニティ政策学部29.3%から53.5%、経営学部52.2%から65.2%、教育学部57.8%から69.7%、人文学部23.3%から69.8%というように軒並み増加している。特に、人文学部の増加幅が大きかった。

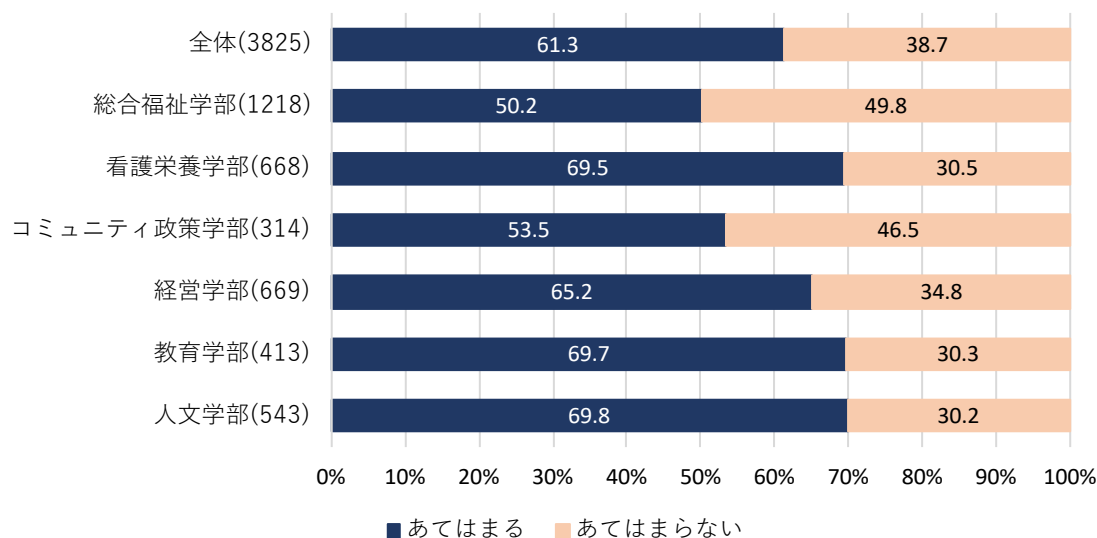


図 2-6 大学にハラスメントの相談窓口があることを知っている

(3) 日常生活の習慣

朝食習慣 72.8% 運動習慣 44.4% 喫煙習慣 7.3%

1) 「朝食を毎日食べている」

「朝食を毎日食べている」という設問に対し、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生は、大学全体で72.8%、「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答した学生は27.2%であった。

学部別では、看護栄養学部は「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生が79.1%と最も多く、最も少ない経営学部69.2%との間には10%の開きがあった。

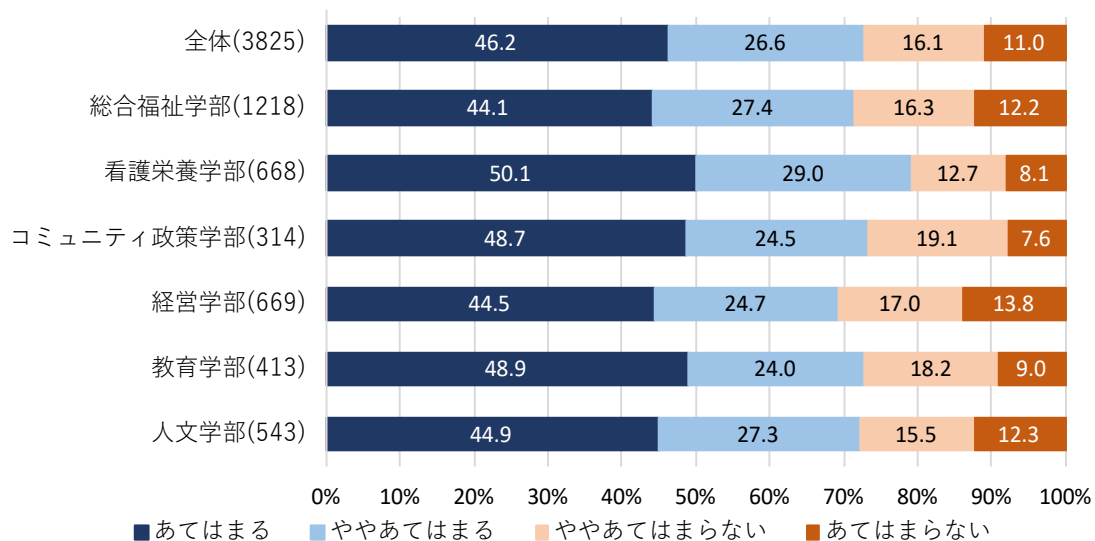


図 3-1 朝食を毎日食べている（学部別）

2) 「運動の習慣がある」

「運動の習慣がある」という設問に対して、大学全体では「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生は44.4%、「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答した学生は55.6%であった。

学部による差は大きい。看護栄養学部では、63.7%の学生が「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答しているのに対し、コミュニティ政策学部では、63.7%の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。

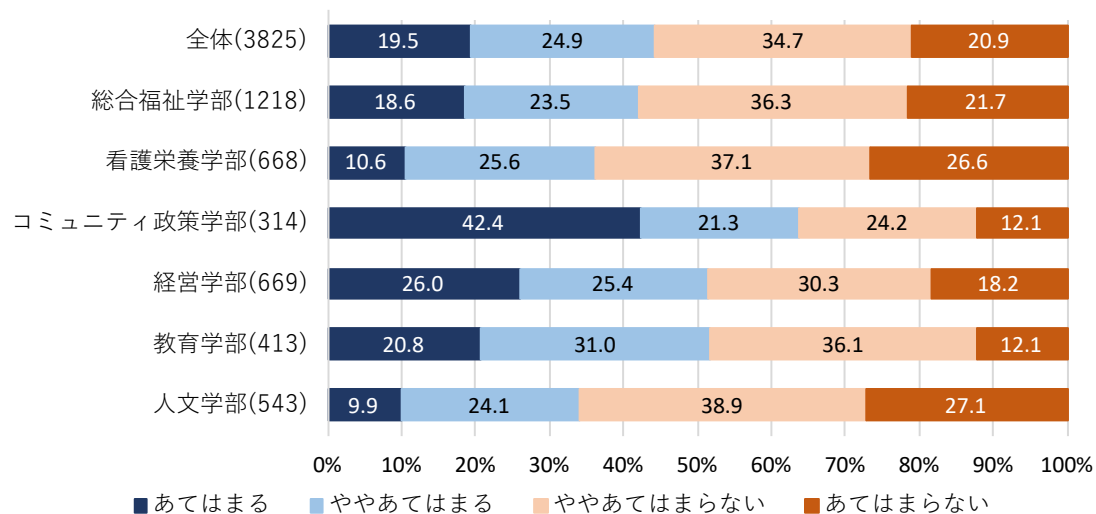


図 3-2 運動の習慣がある（学部別）

3) 「喫煙の習慣がある」

「喫煙の習慣がある」という設問に対して、大学全体では 92.7%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答している。「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生は 7.3%であり、喫煙率は低い。

学部別にみると、最も喫煙率が低いのは看護栄養学部で、96.7%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答していた。一方、経営学部では 13.3%、コミュニティ政策学部では 11.1%、の学生が「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答しており、他の学部比べると喫煙率が若干高い傾向があった。

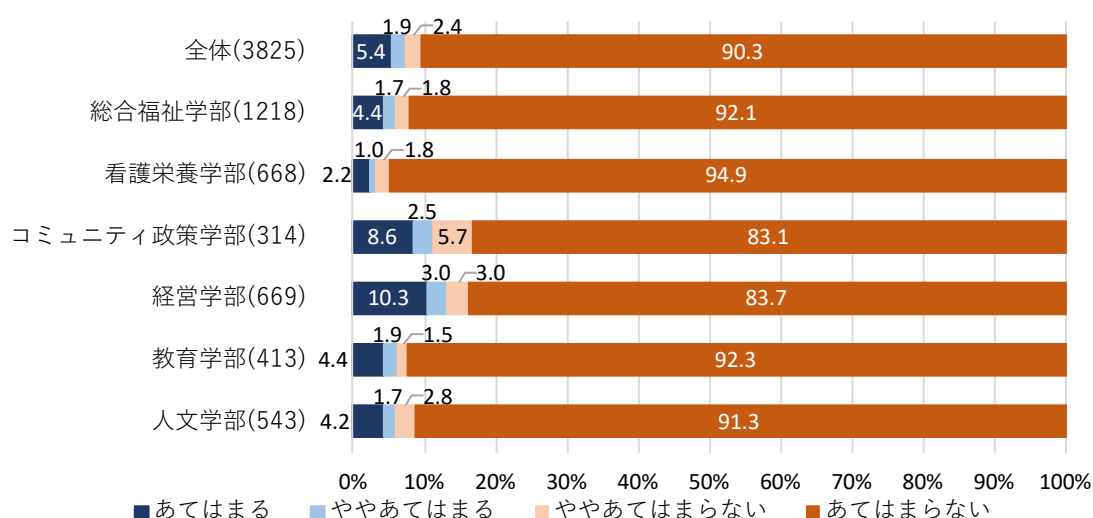


図 3-3 喫煙の習慣がある（学部別）

4) 「飲酒の習慣がある」

「飲酒の習慣がある」という設問に対して、大学全体では 79.3%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答している。

学部別にみると、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した、飲酒習慣がある学生がもっとも多いのは経営学部の 27.8%、次いでコミュニティ政策学部の 25.4%であった。

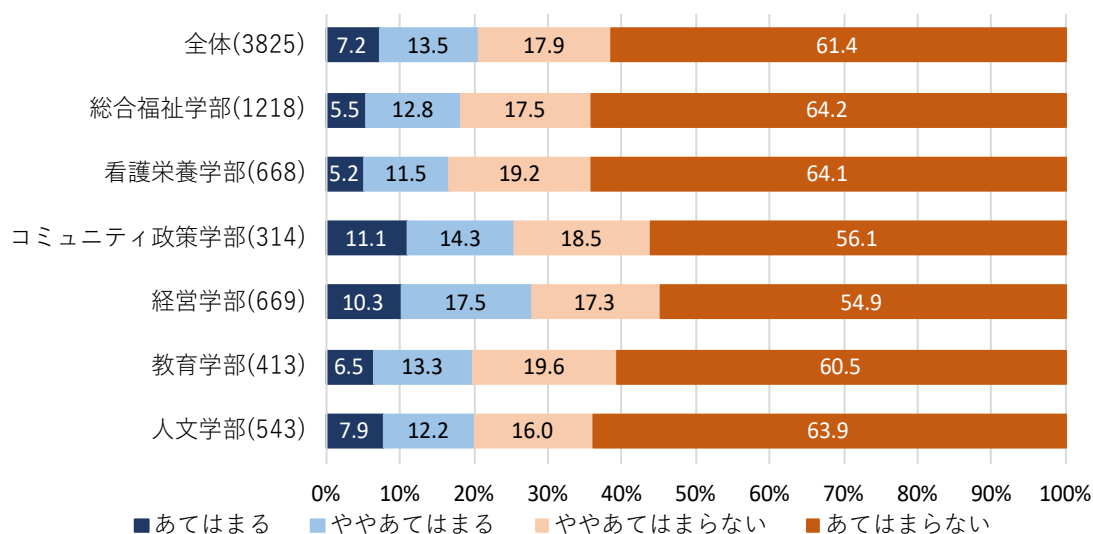
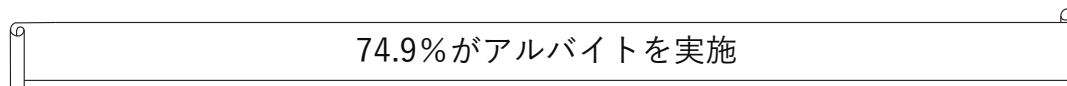


図 3-4 飲酒の習慣がある（学部別）

(4) アルバイトの実施状況



1) アルバイトの実施状況

現在アルバイトを「している」と回答した学生は、大学全体で2,866人（74.9%）であった。

学部別にみると、総合福祉学部が915人（75.1%）、看護栄養学部が481人（72.0%）、コミュニティ政策学部が248人（79.0%）、経営学部が524人（78.3%）、教育学部が337人（81.6%）、人文学部が361人（66.5%）であり、教育学部が最も多く、人文学部でやや少ない傾向がみられた。（図4-1）

学年別にみると、アルバイトをしている学生の割合は、1年次757人（66.6%）、2年次767人（76.9%）、3年次695人（81.7%）と、3年次までは学年が上がるにつれ増加しているが、4年次は647人（77.0%）と3年次よりも減少している（図4-2）

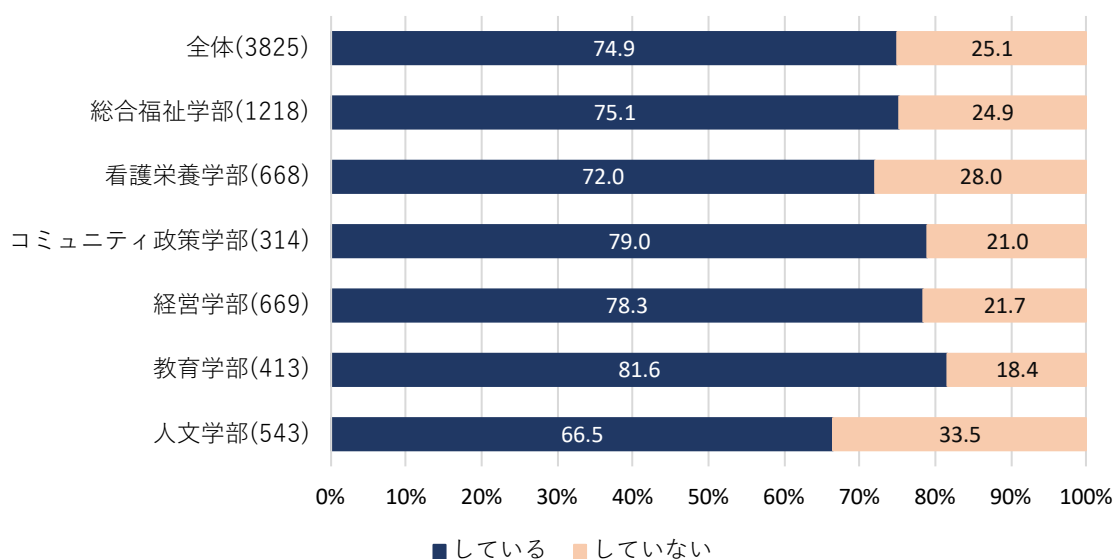


図 4-1 アルバイトの実施状況（学部別）

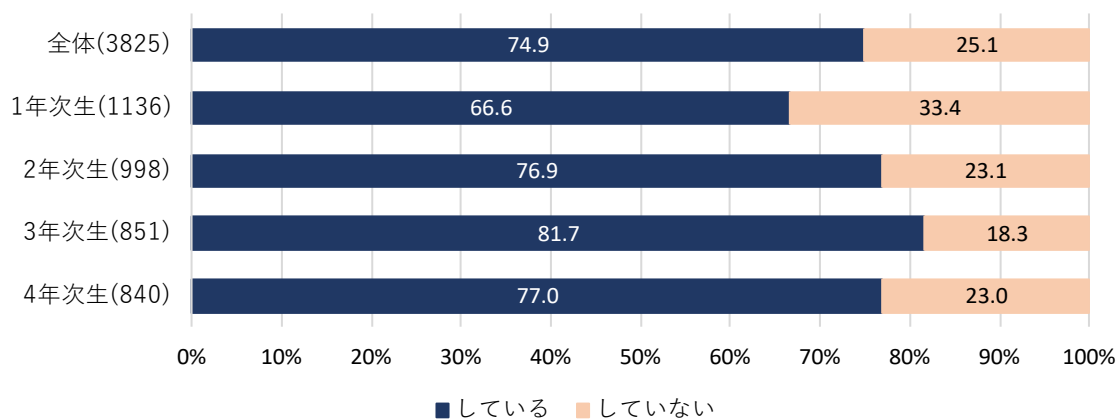


図 4-2 アルバイトの実施状況（学年別）

2) アルバイト時間

アルバイトをしていると回答した学生に対し、授業期間（4～7月）における週あたりの平均アルバイト時間について尋ねたところ、全体では「10 時間以上～20 時間未満」という学生が 1,514 人（52.8%）で最も多く、次いで「10 時間未満」が 771 人（26.9%）、「20 時間以上～30 時間未満」が 445 人（15.5%）、「30 時間以上」が 136 人（4.7%）という結果であった。

大学全体について、前回調査と比べると、「10 時間未満」は 18.7%から 26.9%、「10 時間以上～20 時間未満」は 52.4%から 52.8%、「20 時間以上～30 時間未満」は 21.6%から 15.5%、「30 時間以上」は 6.6%から 4.7%となっており、10 時間未満が増加し 20 時間以上が減少している傾向があった。

学部別では、経営学部の学生のアルバイト時間が最も長く、看護栄養学部の学生に短い傾向がみられた。（図 4-3）

学年別では、2 年次、3 年次、4 年次と、学年があがるにつれて「20 時間以上～30 時間未満」および「30 時間以上」が緩やかに増える傾向がみられた。（図 4-4）

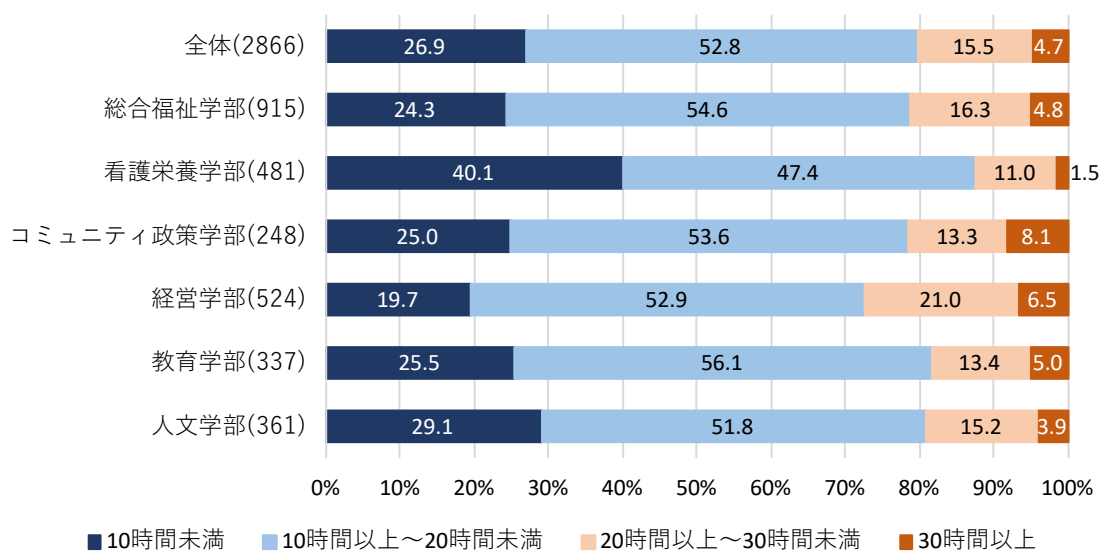


図 4-3 アルバイト時間（学部別）

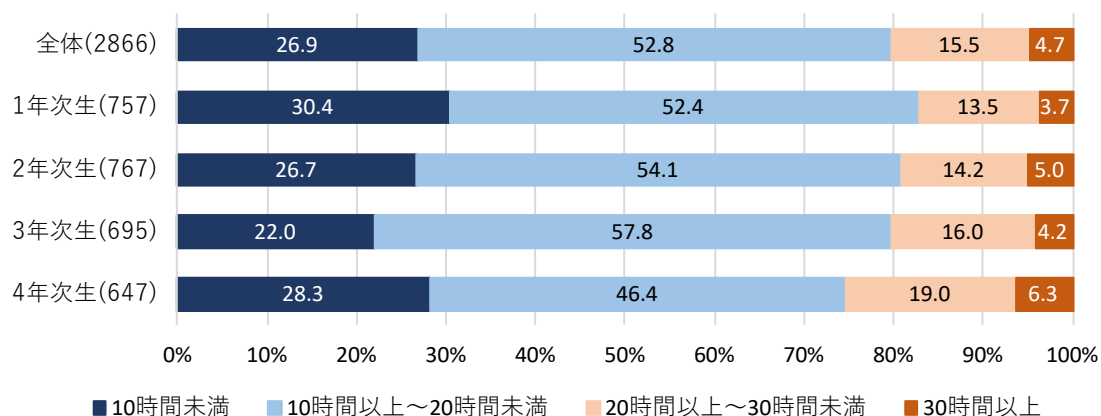


図 4-4 アルバイト時間（学年別）

3) アルバイトの収入

アルバイトをしている学生がアルバイト得ている月収は、全体では「4～7万円未満」が1,187人(41.4%)で最も多く、次に「1～4万円未満」が809人(28.2%)、「7～10万円未満」が665人(23.2%)と続いた。

学部別では、経営学部はアルバイト収入が高い傾向があり、「7～10万円未満」が32.4%と最多、加えて「10万円以上」が8.0%であった。看護栄養学部はアルバイト収入が低い傾向があり、「1万円未満」と「1～4万円未満」をあわせた4万円未満の学生が45.1%であり、他の学部には比べかなり多かった。(図4-5)

学年別では、1年次、2年次、3年次とアルバイト収入が増加し、4年次で3年次よりも若干下がる傾向がみられた。(図4-6)

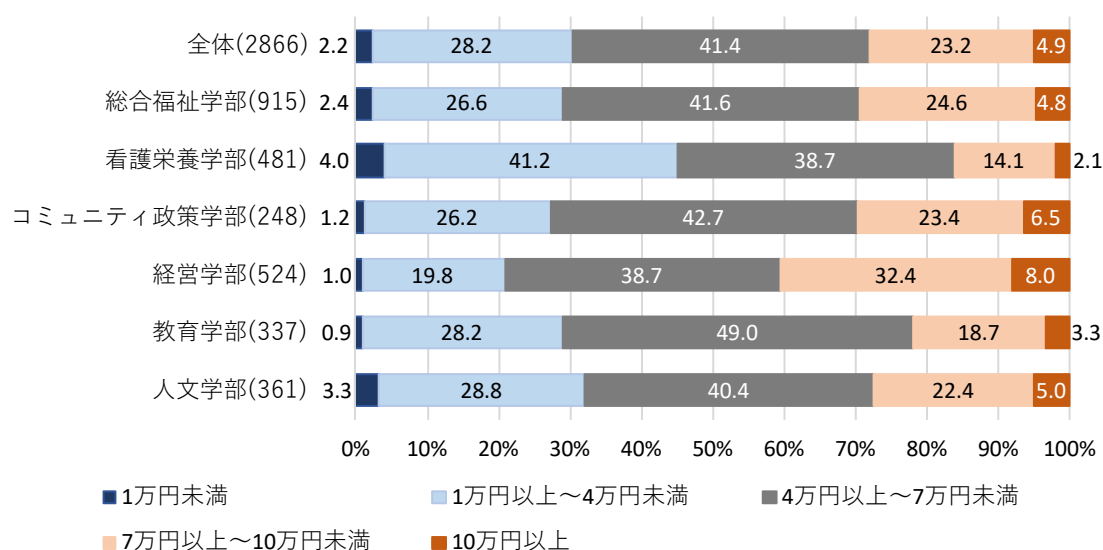


図4-5 月額のアバイト代（学部別）

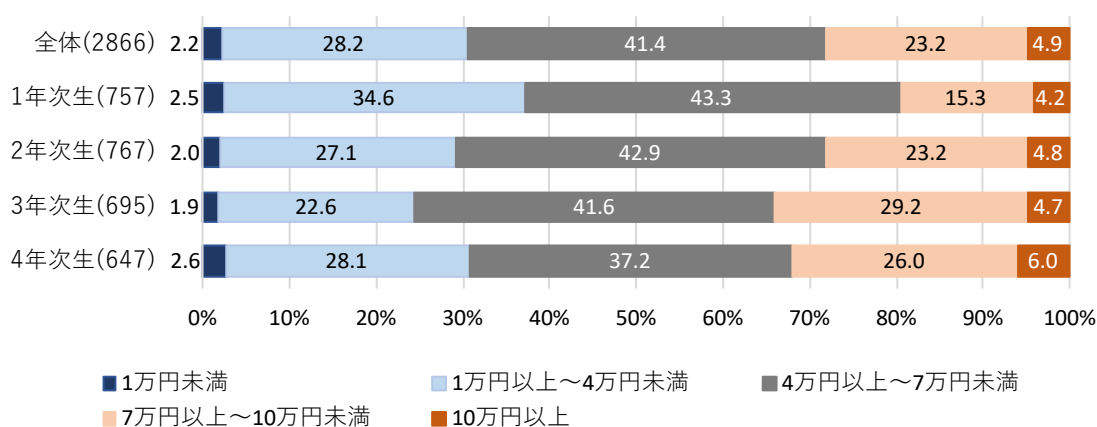


図4-6 月額のアバイト代（学年別）

(5) 情報端末等の所持、使用状況

スマートフォン 99.7% パソコン 97.9% タブレット 34.3% が所持

1) スマートフォンの所持状況

「スマートフォンを持っている」と回答した学生は、大学全体で 99.7%であった。図 5-1 に示す通り、どの学部でも 100.0%に近い学生がスマートフォンを所持している。

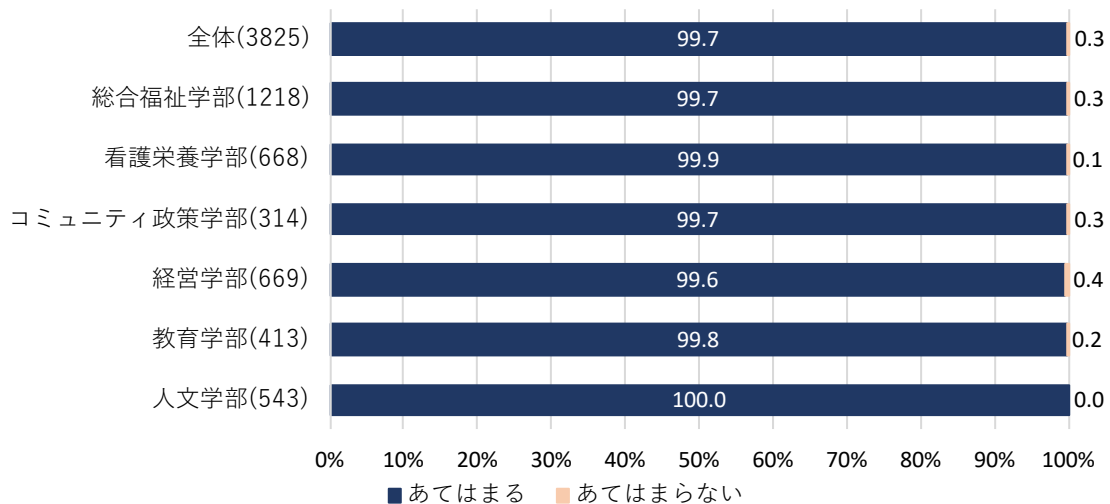


図 5-1 スマートフォンの所持状況（学部別）

2) パソコンの所持状況（自分専用、家族と共有）

「自分専用のパソコンがある」と回答した学生は、大学全体で 85.3%であった。学部別にみると、最も多い人文学部で 90.1%、最も少ないコミュニティ政策学部で 79.6%であった。（図 5-2）

「家族と共有のパソコンがある」と回答した学生は、大学全体で 47.2%であった。学部別にみると教育学部が最も多く 50.8%、最も少ないのは経営学部で 42.3%であった。（図 5-3）

所有形態を問わずパソコンを所有している学生は、97.9%であった。自分専用パソコン・家族共有パソコンの両方がある学生が 34.6%、自分専用パソコンのみがある学生が 50.7%、家族共有パソコンのみがある学生が 12.5%、パソコンを所持していない学生が 2.1%であった。（図 5-4）

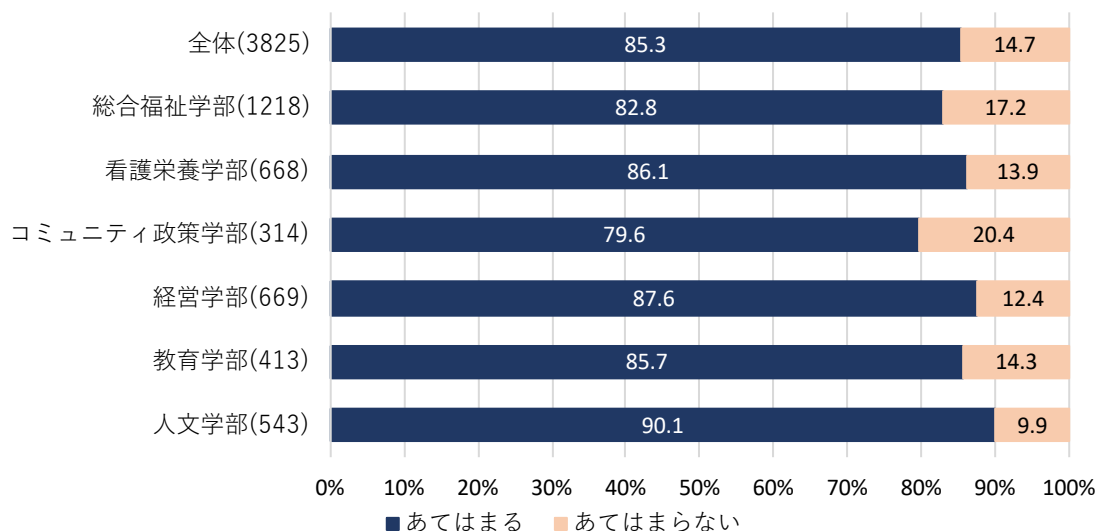


図 5-2 自分専用パソコンの所持状況（学部別）

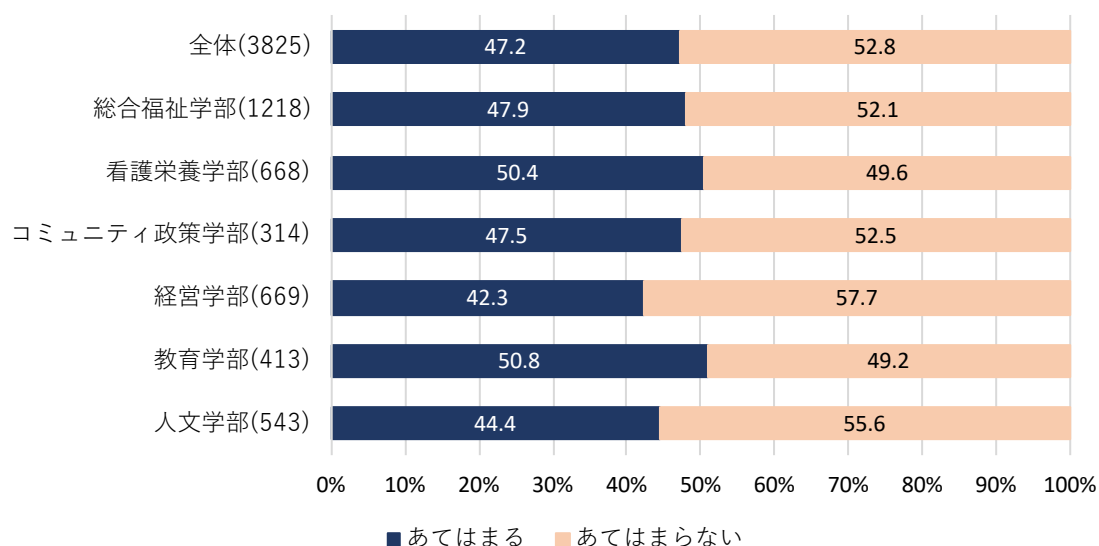


図 5-3 家族共用パソコンの所持状況（学部別）

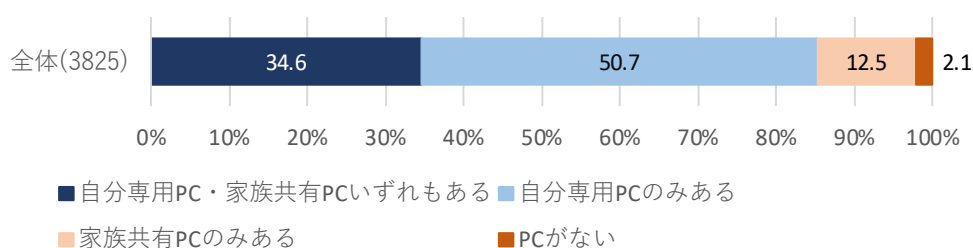


図 5-4 パソコンの所持状況

3) タブレットの所持状況（自分専用、家族と共用）

「自分専用のタブレットがある」と回答した学生は、大学全体で 20.6%であった。

学部別にみると、人文学部の 26.2%が最も多く、総合福祉学部の 15.5%が最も少なかった。（図 5-5）

「家族と共有のタブレットがある」と回答した学生は、大学全体で 18.5%であった。学部別にみると、教育学部の 22.5%が最も多く、看護栄養学部の 15.7%が最も少なかった。（図 5-6）

所有形態を問わずタブレットを所有している学生は、大学全体で 34.3%であった。自分専用タブレット・家族共有タブレットの両方がある学生が 4.7%、自分専用タブレットのみがある学生が 15.8%、家族共有タブレットのみがある学生が 13.7%、タブレットを所持していない学生が 65.7%であった。（図 5-7）

なお、所有形態を問わずパソコンもタブレットも所持していない学生は、大学全体で 50 人（1.3%）であった。

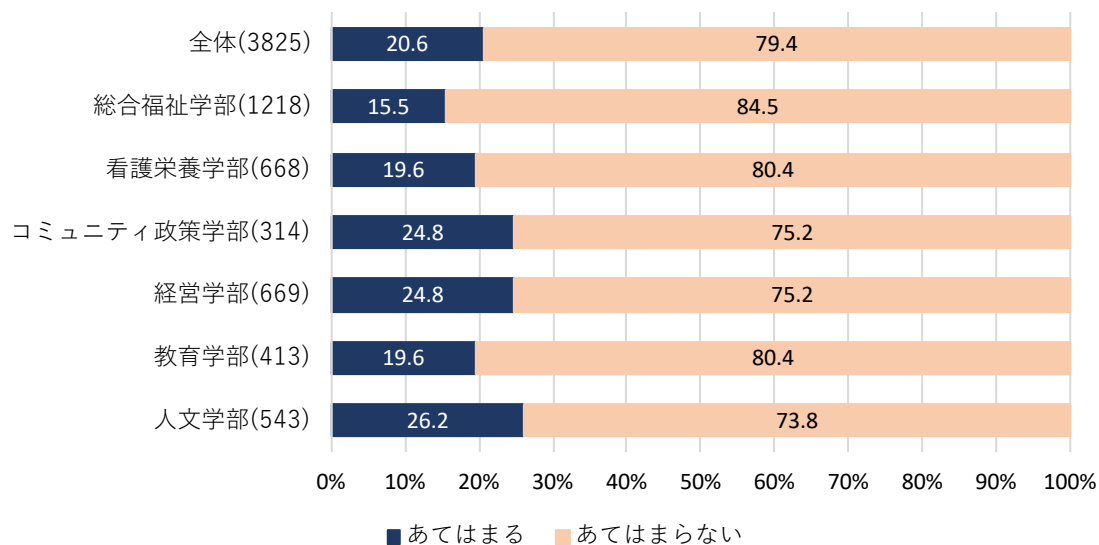


図 5-5 自分専用タブレットの所持状況（学部別）

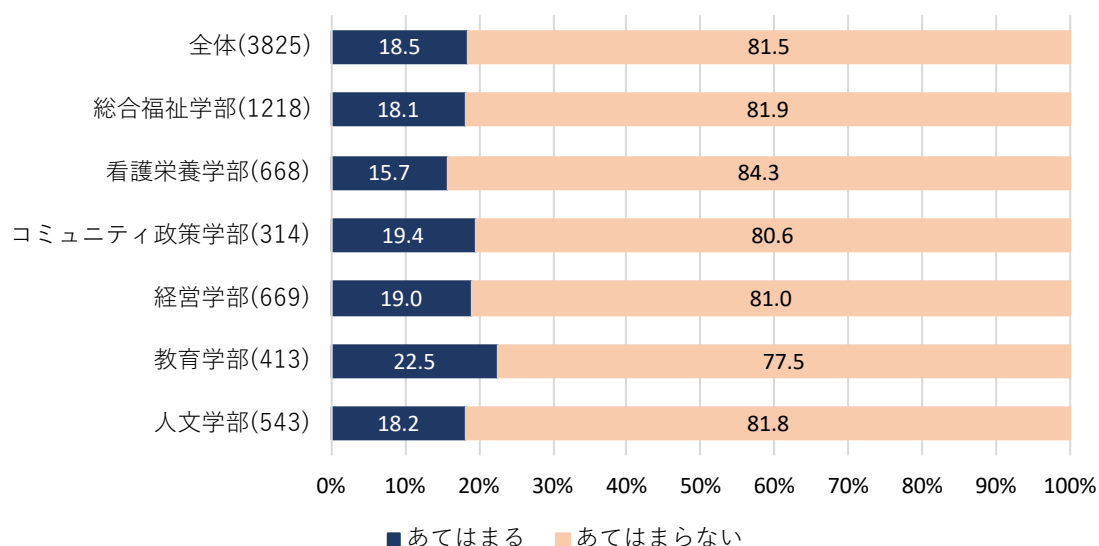


図 5-6 家族共用タブレットの所持状況（学部別）

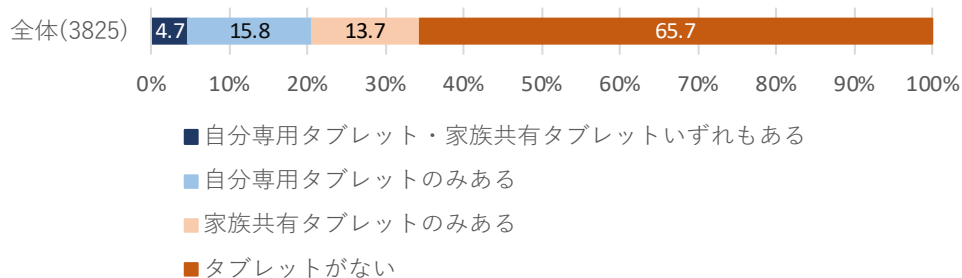


図 5-7 タブレットの所持状況

4) 「自宅に常時接続のネット回線（有線・無線）がある」

「自宅に常時接続のネット回線（有線・無線）がある」と回答した学生は、大学全体で 97.7%であった。学部による差は見られず、ほとんどの学生が自宅にネット回線を有している。

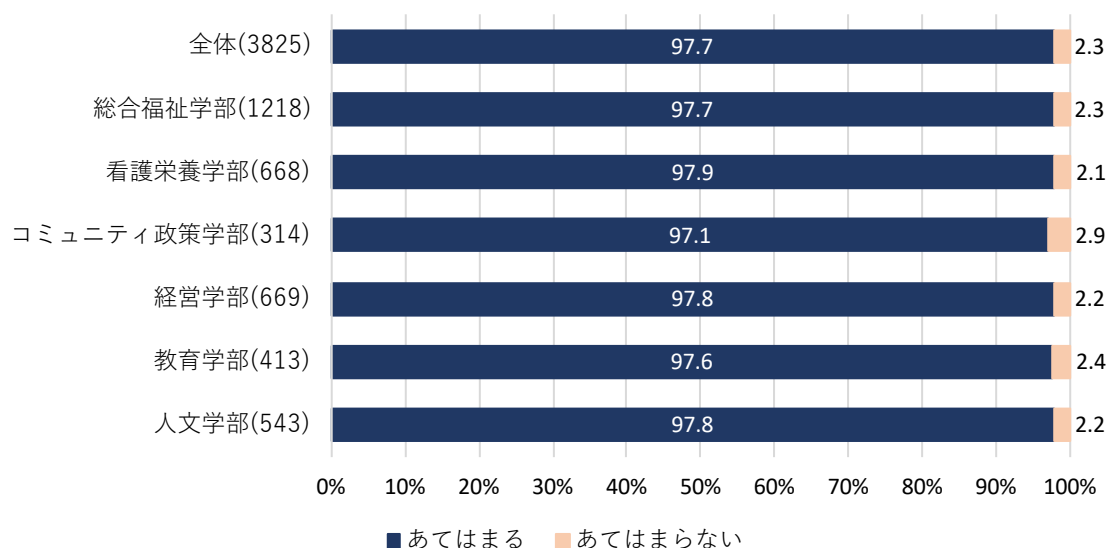


図 5-8 自宅に常時接続のネット回線（有線・無線）がある（学部別）

5) 「S-Navi のメールは必ず目をとおしている」

「S-Navi のメールは必ず目をとおしている」と回答した学生は、大学全体で「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて 72.5%であった。

学部別にみると、この割合が最も多かったのは総合福祉学部で 79.2%、次いで多かったのは看護栄養学部で 76.4%であった。最も少なかったのは経営学部で 61.6%であった。

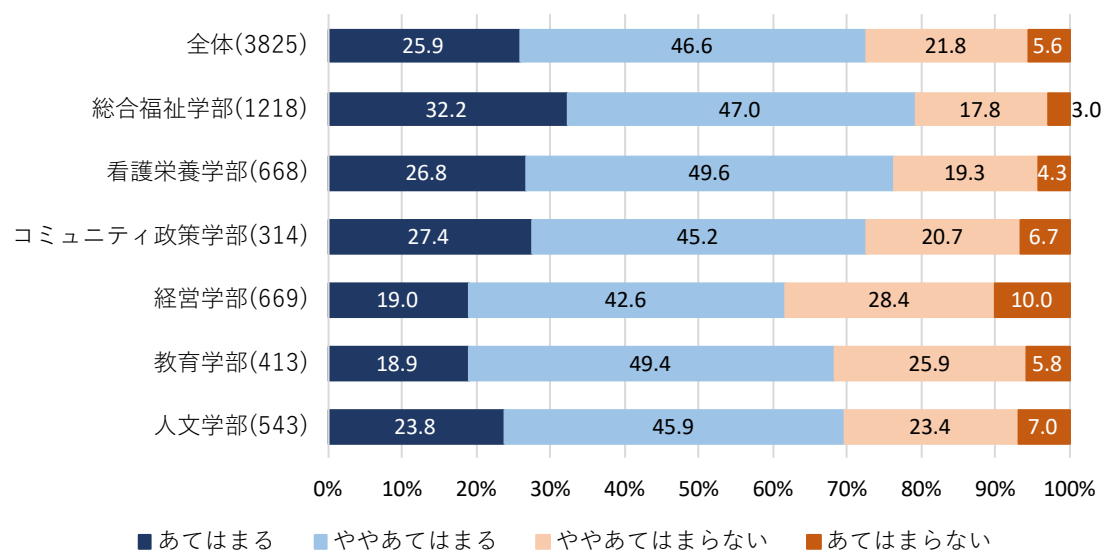


図 5-9 S-Navi のメールは必ず目をとおしている（学部別）

6) 「自宅では新聞を購読している」

「自宅では新聞を購読している」と回答した学生は、大学全体で 28.6%であった。
学部別にみると、人文学部の 32.4%が最も多く、看護栄養学部の 26.3%が最も少なかった。

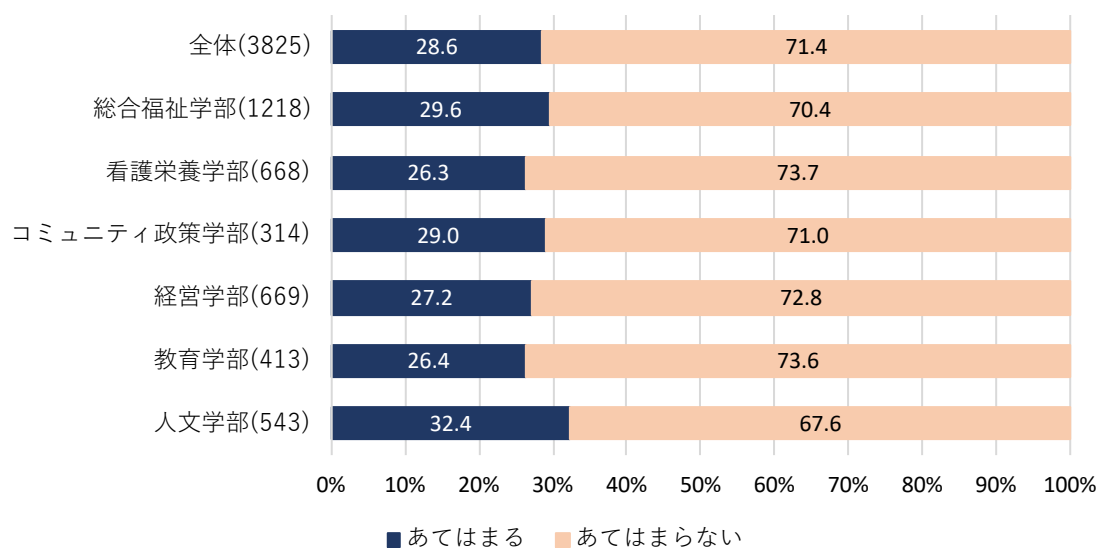


図 5-10 自宅では新聞を購読している（学部別）

7) 「テレビのニュースをよく見ている」

「テレビのニュースをよく見ている」と回答した学生は、大学全体で 52.5%であった。
学部別にみると、コミュニティ政策学部の 59.2%が最も多く、最も少ないのは看護栄養学部の 49.9%であった。

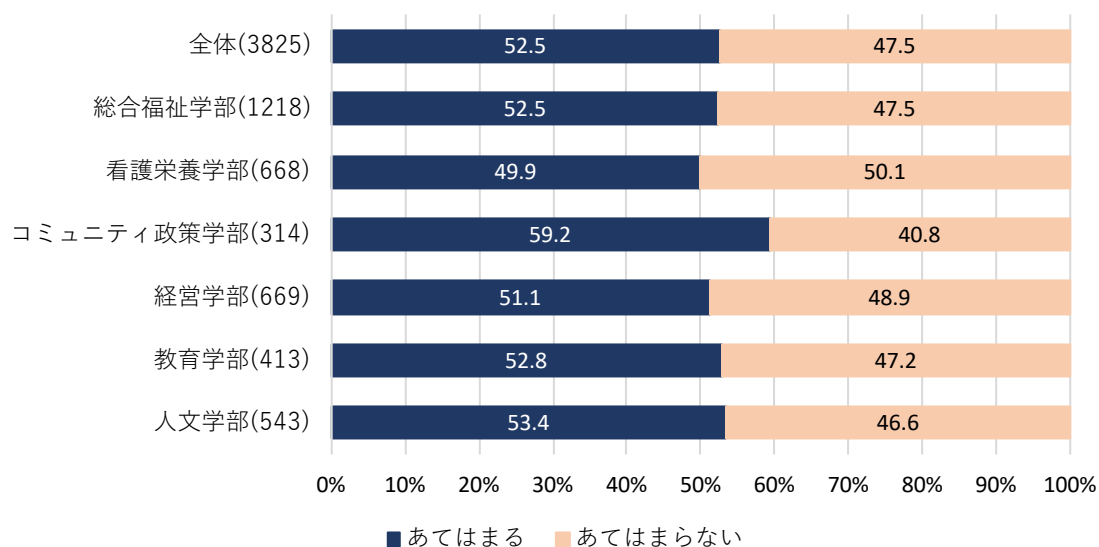


図 5-11 テレビのニュースをよく見ている（学部別）

(6) 友人関係及び教職員との関係

学内に悩みごとを相談できる友人がいる 77.8%
学内に悩みごとを相談できる教職員がいる 45.8%

1) 「大学に入学後、新しい友人ができた」

「大学で新しい友人ができた」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生を合わせると、大学全体では94.9%であった。

「あてはまる」「ややあてはまる」を学部別でみると、総合福祉学部95.0%、看護栄養学部98.0%、コミュニティ政策学部90.4%、経営学部93.2%、教育学部97.1%、人文学部93.2%であった。

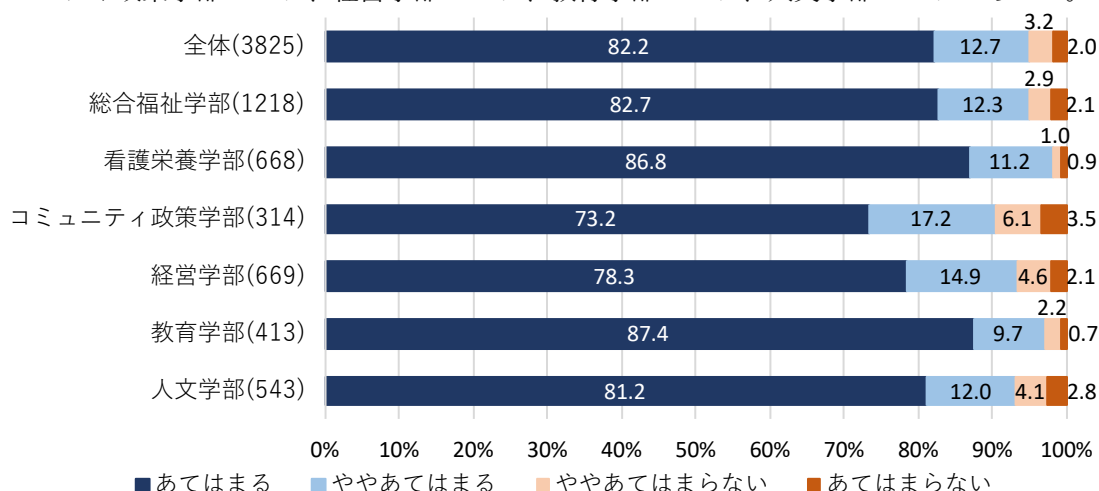


図 6-1 大学で新しい友人ができた（学部別）

2) 「大学内の友人関係に悩みがある」

「大学内の友人関係に悩みがある」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体では22.1%であった。前回調査の27.5%からは減少している。

「あてはまる」「ややあてはまる」を学部別でみると、総合福祉学部23.1%、看護栄養学部20.5%、コミュニティ政策学部19.1%、経営学部19.3%、教育学部25.2%、人文学部25.0%であった。前回調査で、唯一3割を超えていた人文学部が35.1%から10.1%減少したこと等により、前回調査で見られた学部差は今回調査ではさほど見られなかった。

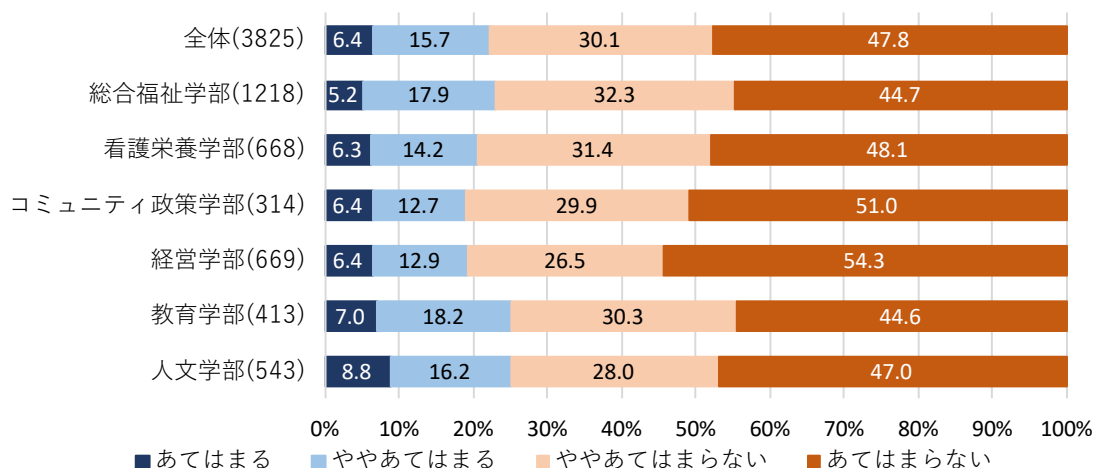


図 6-2 大学内の友人関係に悩みがある（学部別）

3) 「大学内に悩みごとを相談できる友人がいる」

「大学内に、悩みごとを相談できる友人がいる」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生の割合は大学全体では77.8%であり、前回調査から大きな変化はなかった。

「あてはまる」「ややあてはまる」を学部別でみると、総合福祉学部75.6%、看護栄養学部82.3%、コミュニティ政策学部69.7%、経営学部77.9%、教育学部85.7%、人文学部75.9%であった。

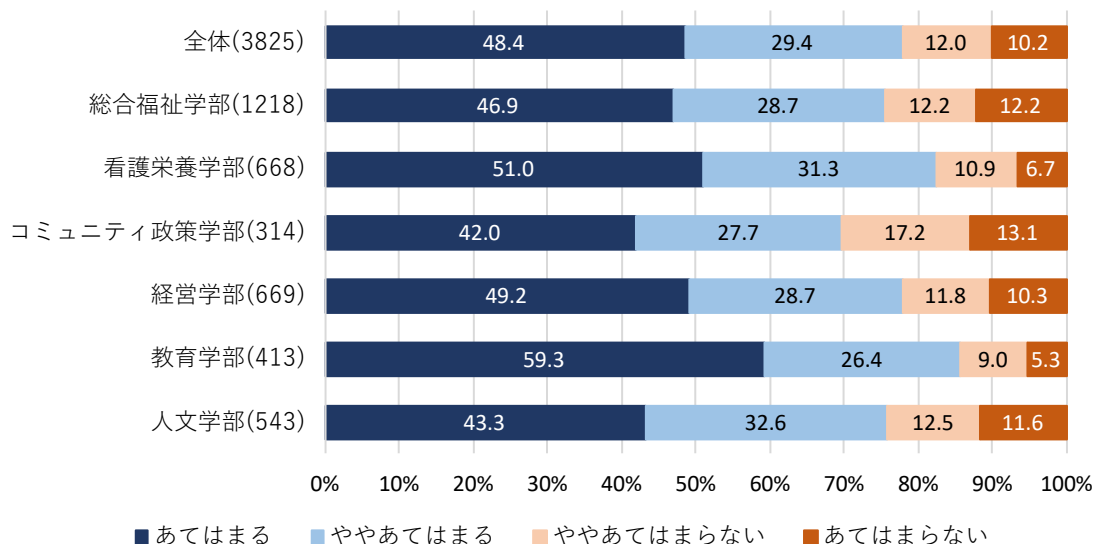


図 6-3 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる（学部別）

4) 「大学内に悩みごとを相談できる教職員がいる」

「大学内に、悩みごとを相談できる教職員がいる」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体では45.8%であった。前回調査に比べ、8.6%増加した。

「あてはまる」「ややあてはまる」を学部別でみると、総合福祉学部37.7%、看護栄養学部43.7%、コミュニティ政策学部42.1%、経営学部50.2%、教育学部54.7%、人文学部55.9%であった。学部別に前回調査と比較すると、総合福祉学部（前は32.7%）、看護栄養学部（同30.5%）、経営学部（同36.7%）、教育学部（同45.1%）が増加、人文学部（同56.0%）が横ばい、コミュニティ政策学部（同43.5%）では微減という結果であった。

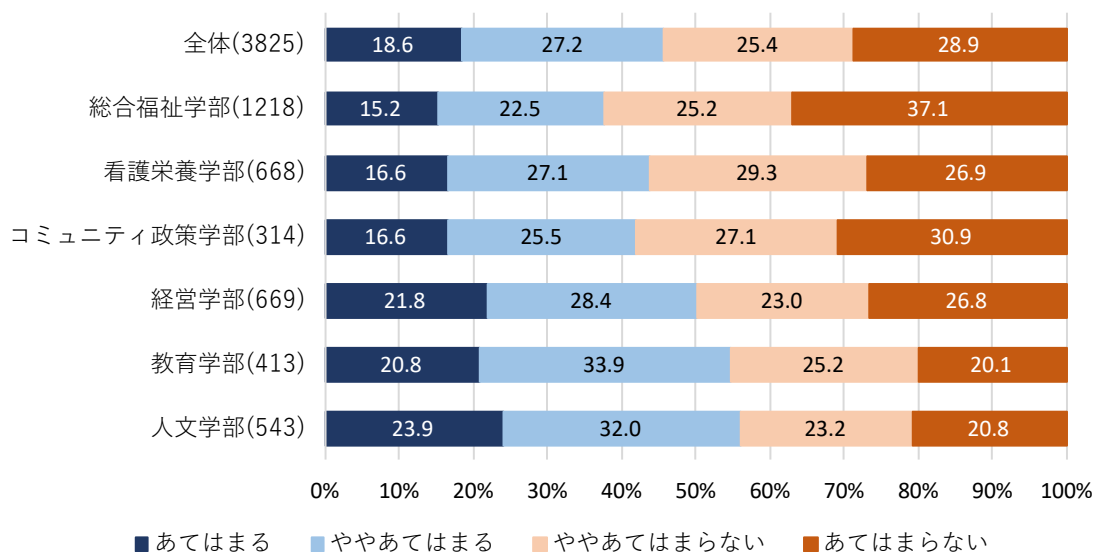
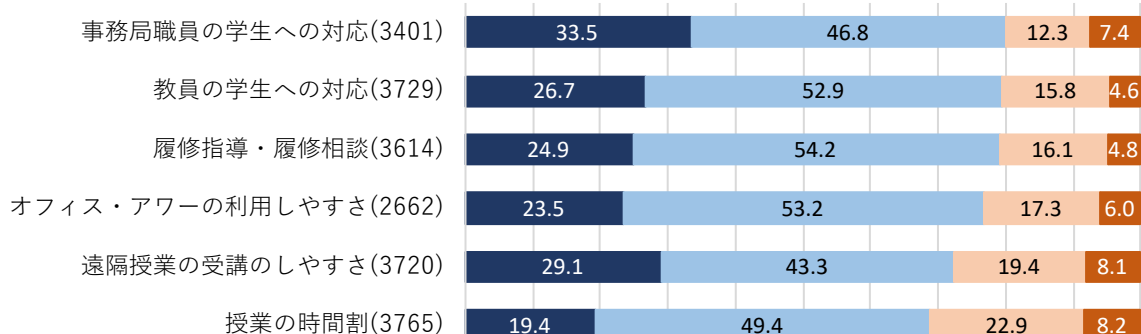


図 6-4 大学内に悩み事を相談できる教職員がいる（学部別）

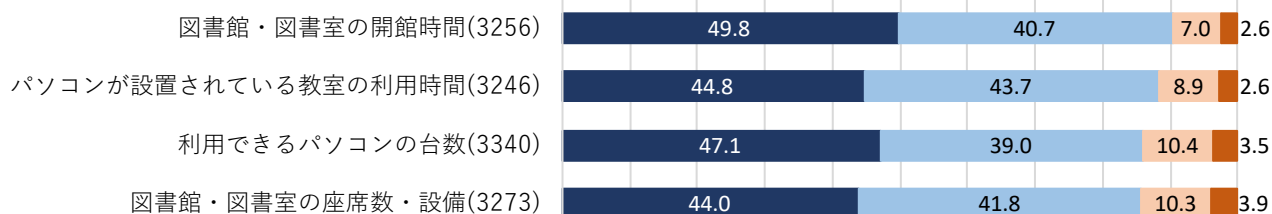
(7) 教育環境の満足度

図 7-1 の 20 項目について、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」および「該当しない（一度も利用していない等）」の 5 水準で尋ねた。図 7-1 では、20 項目を内容別に 4 グループに分類し、各グループ内で、「該当しない」という回答を除いた上で「満足」もしくは「やや満足」と回答した割合の高い順に並べ替え、全体の傾向を俯瞰した。いずれの項目も満足側の回答割合が多いが、「スクールバスの使いやすさ」は不満側の回答割合も高くなっていることがわかる。

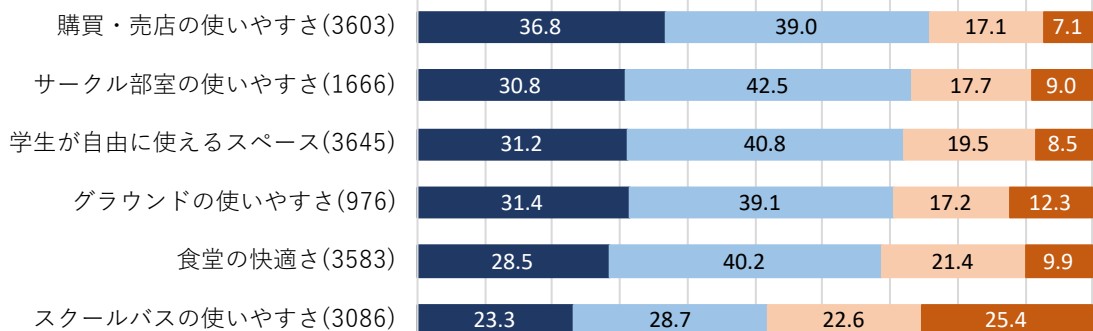
教職員の対応、履修・受講しやすさ



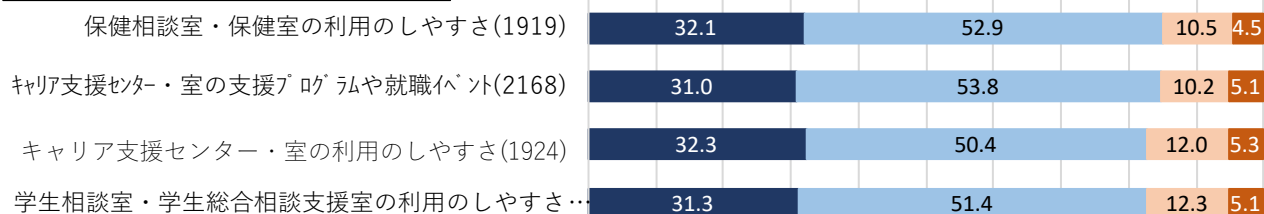
図書・パソコン環境



売店・食堂・自由スペース等



保健室・キャリア支援・学生相談室等



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ 満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 不満

図 7-1 教育環境の満足度（大学全体）

(7)-1. 教職員の対応、履修・受講しやすさ

教職員の対応は、7割以上が満足（前回調査より増加）

1) 「授業の時間割」

「授業の時間割」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は大学全体で67.7%であった。

学部別にみると、「満足」「やや満足」と回答した割合は、総合福祉学部71.1%、看護栄養学部55.8%、コミュニティ政策学部74.5%、経営学部68.0%、教育学部66.6%、人文学部71.6%であった。看護栄養学部は、「やや不満」「不満」と回答した割合が43.0%と高かった。

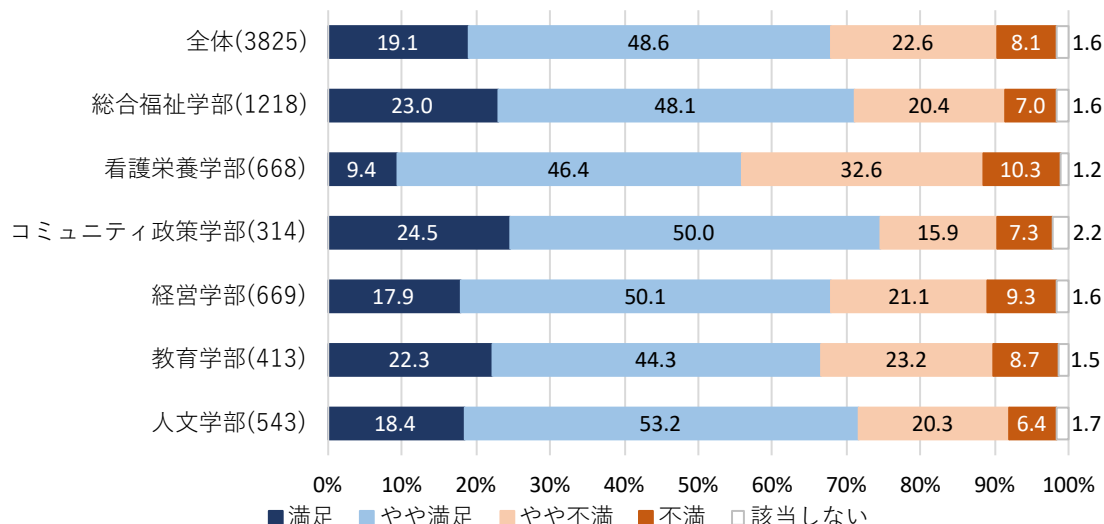


図 7-2 授業の時間割（学部別）

2) 「履修指導・履修相談」

「履修指導・履修相談」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で74.7%であった。前回調査は62.6%であり、大幅に増加している。

学部別にみると、総合福祉学部74.6%、看護栄養学部70.0%、コミュニティ政策学部72.9%、経営学部76.5%、教育学部80.8%、人文学部75.0%であった。学部でばらつきはあるもののすべての学部で7割を超えており、いずれの学部においても前回調査に比べて増加している。

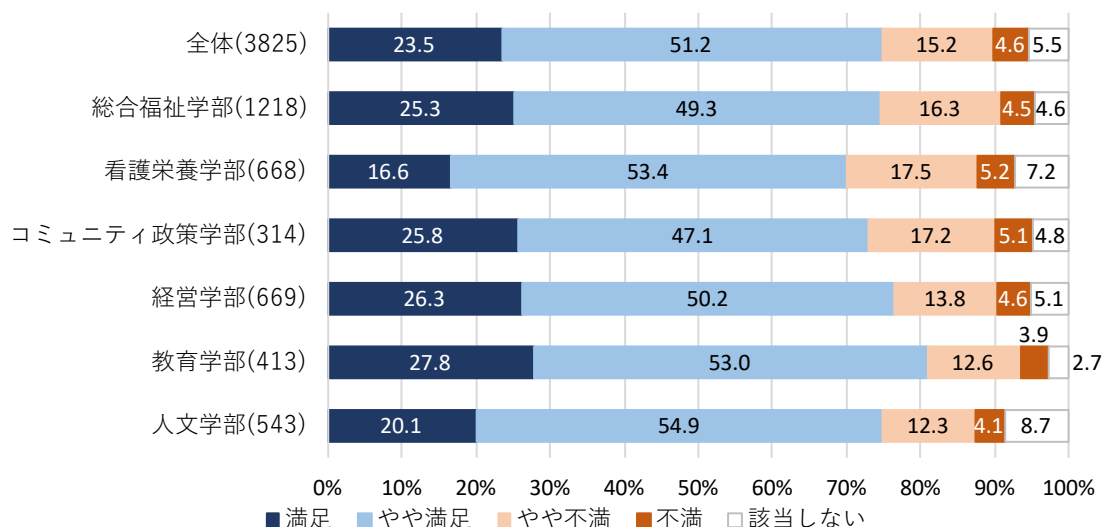


図 7-3 履修指導・履修相談（学部別）

3) 「遠隔授業の受講のしやすさ」

「遠隔授業の受講のしやすさ」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で 70.4%であった。

学部別でみると、総合福祉学部 65.9%、看護栄養学部 73.7%、コミュニティ政策学部 65.0%、経営学部 81.4%、教育学部 73.4%、人文学部 64.2%であり、人文学部は 10.1%が「該当しない」である。

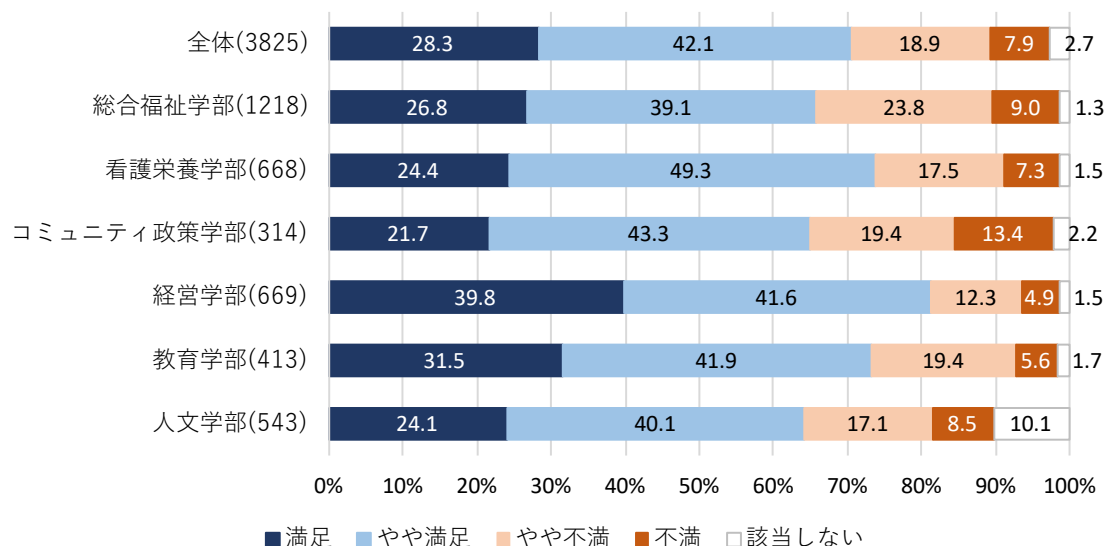


図 7-4 遠隔授業の受講のしやすさ（学部別）

4) 「教員の学生への対応」

「教員の学生に対する対応」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で 77.7%であった。前回調査は 67.9%であり、9.8%増加している。

学部別でみると、「満足」「やや満足」と回答した割合は、総合福祉学部 75.5%、看護栄養学部 75.7%、コミュニティ政策学部 74.6%、経営学部 78.8%、教育学部 82.3%、人文学部 81.4%であり、教育学部と人文学部では 8 割を超えた。前回調査に比べ、すべての学部で増加している。

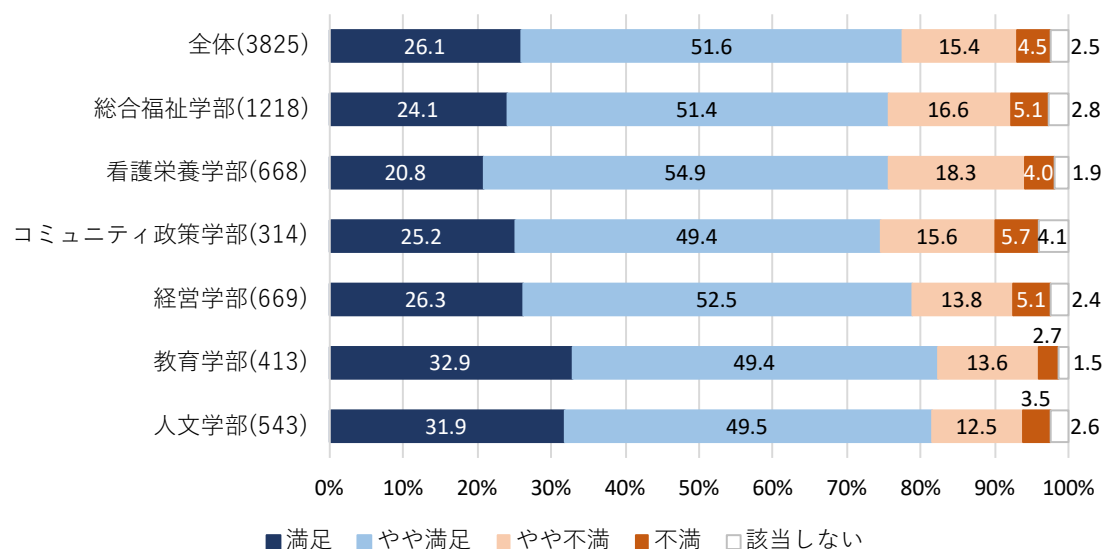


図 7-5 教員の学生に対する対応（学部別）

5) 「オフィス・アワーの利用しやすさ」

「オフィス・アワーの利用しやすさ」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で53.4%であった。「該当しない」と回答した1,163人(30.4%)を除いて算出した「満足」「やや満足」と回答した学生の割合は、76.7%である。

満足側の回答割合が最も高かったのは経営学部の59.2%、次いでコミュニティ政策学部57.3%、人文学部55.3%、教育学部54.2%、看護栄養学部54.2%、総合福祉学部47.7%であった。

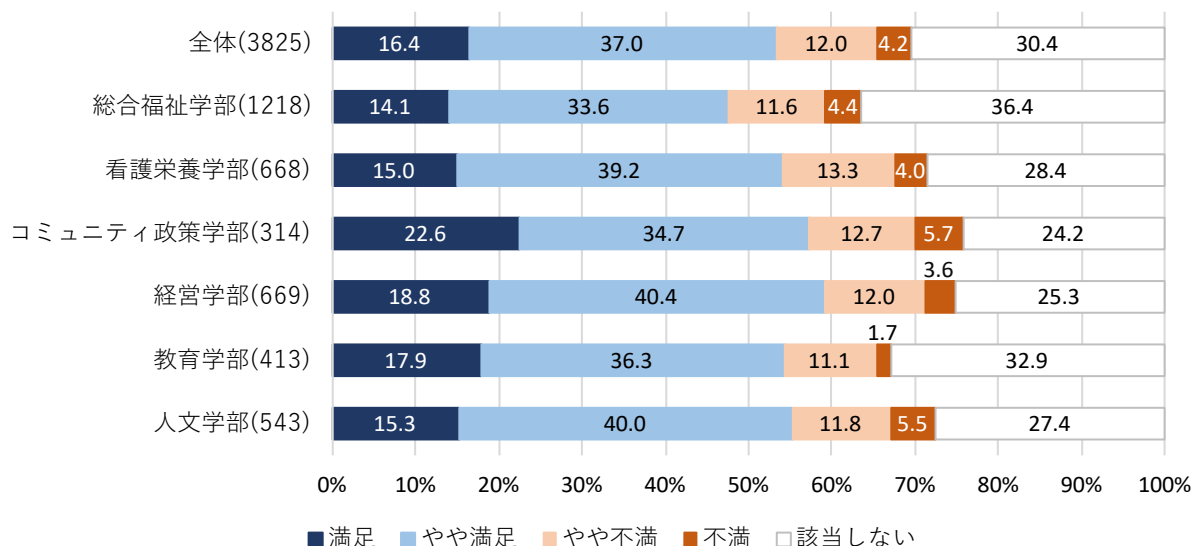


図 7-6 オフィス・アワーの利用しやすさ（学部別）

6) 「事務局職員の学生への対応」

「事務局職員の学生に対する対応」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では71.4%であった。

学部別にみると、総合福祉学部は70.7%、看護栄養学部は69.0%、コミュニティ政策学部は70.1%、経営学部は76.2%、教育学部は74.1%、人文学部は68.1%であった。経営学部では満足度が若干高い傾向が、看護栄養学部では「該当しない」との回答の割合が低いという傾向がある。

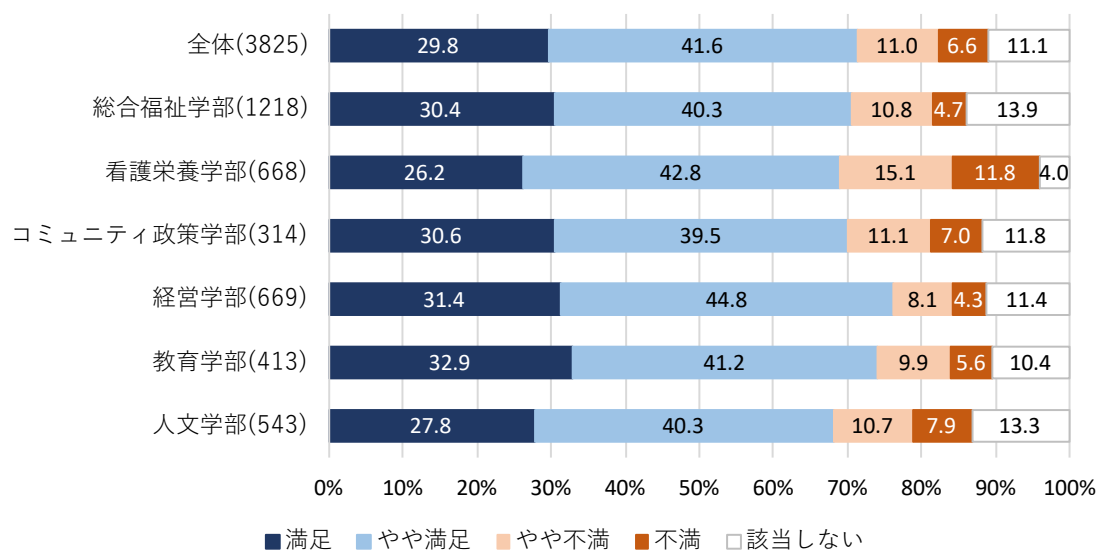


図 7-7 事務局職員の学生に対する対応（学部別）

(7)-2. 図書・パソコン環境

図書館・パソコン教室等は7割以上が満足

7) 「図書館・図書室の開館時間」

「図書館・図書室の開館時間」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で77.0%であった。

学部別にみると、教育学部が85.2%と最も高く、コミュニティ政策学部が63.0%と最も低い。

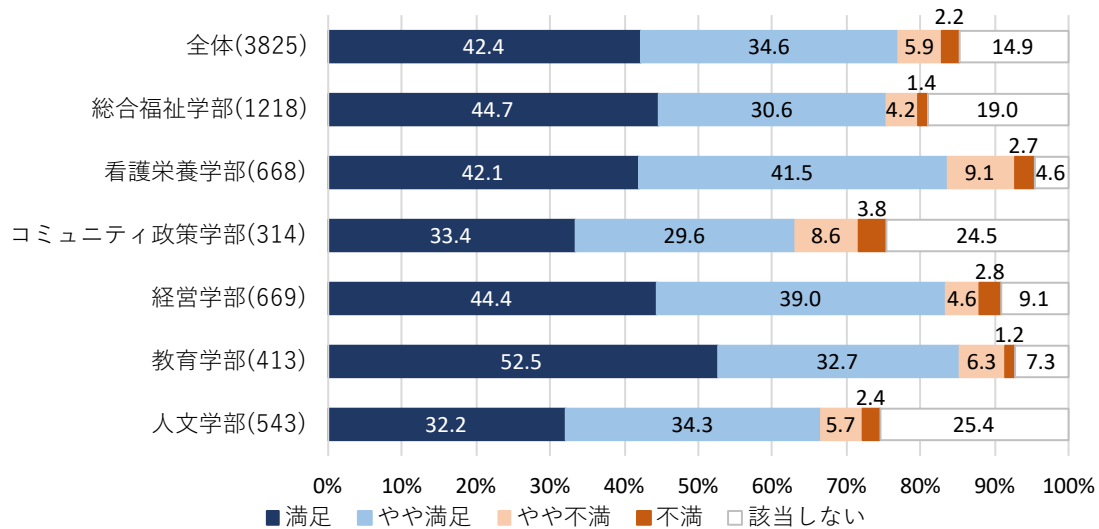


図 7-8 図書館（室）の開館時間（学部別）

8) 「図書館・図書室の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）」

図書館（室）の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で73.5%となり、「図書館（室）の開館時間」とともに7割を上回った。

学部別にみると、最も高い看護栄養学部で80.4%、最も低い人文学部で61.1%であるが、「該当しない」を除外すると学部間の差は小さい。

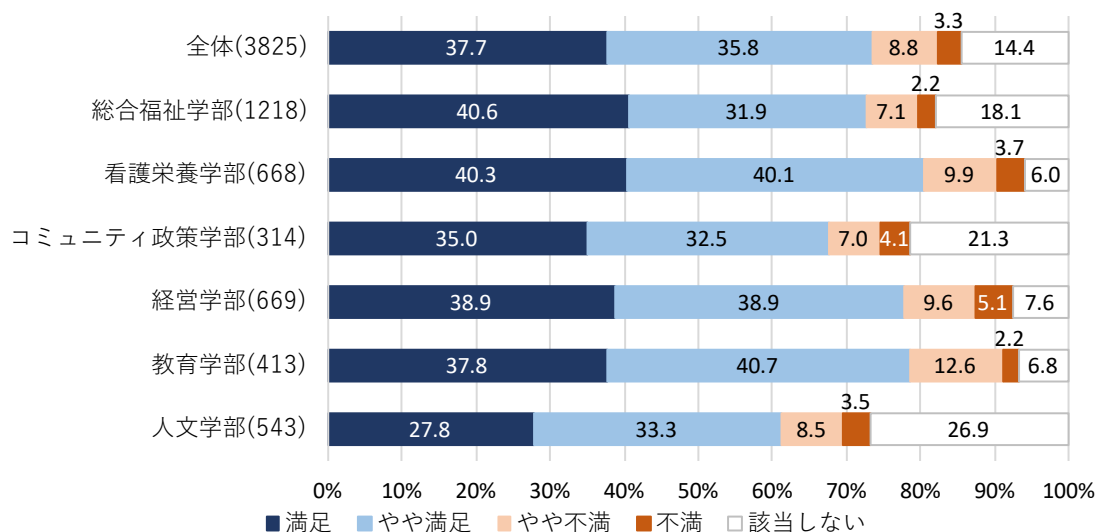


図 7-9 図書館（室）の座席数・設備（学部別）

9) 「パソコンが設置されている教室の利用時間」

「パソコンが設置されている教室の利用時間」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では 75.0%であった。

学部別にみると、「満足」「やや満足」という回答の割合が高かったのは、コミュニティ政策学部（78.7%）、総合福祉学部（78.5%）、経営学部（78.3%）である。看護栄養学部では、「不満」「やや不満」が 16.9%と若干高いが、「該当しない」は低く、利用率が高いことがうかがえる。

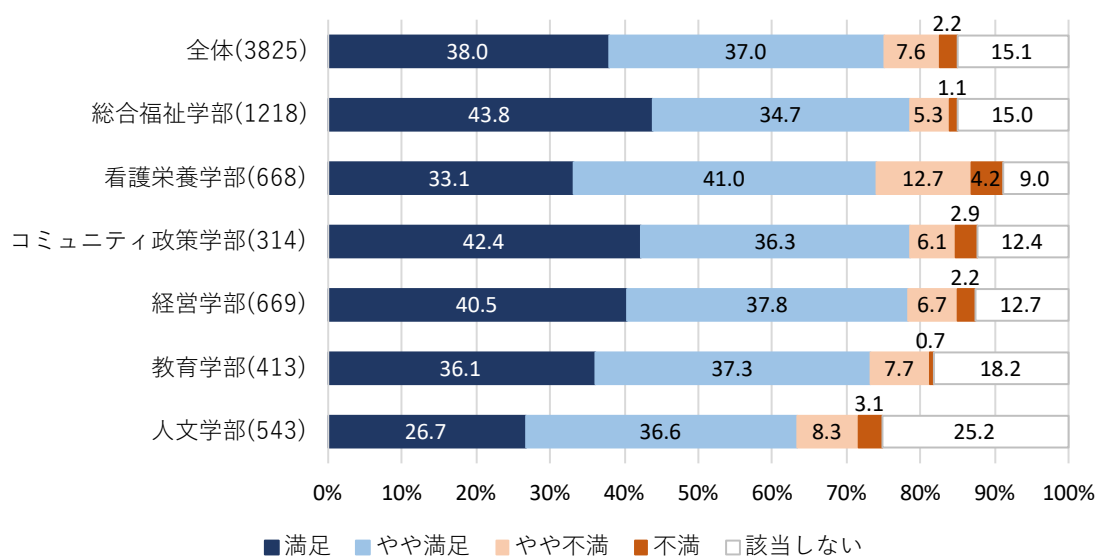


図 7-10 パソコンが設置されている教室の利用時間（学部別）

10) 「利用できるパソコンの台数」

「利用できるパソコンの台数」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で 75.1%であった。前回調査は 57.2%であり、大幅に増加した。

学部別でみると、「満足」「やや満足」という回答の割合は、「該当しない」と回答した学生が 2 割強である人文学部を除き、すべての学部で 7 割以上であった。

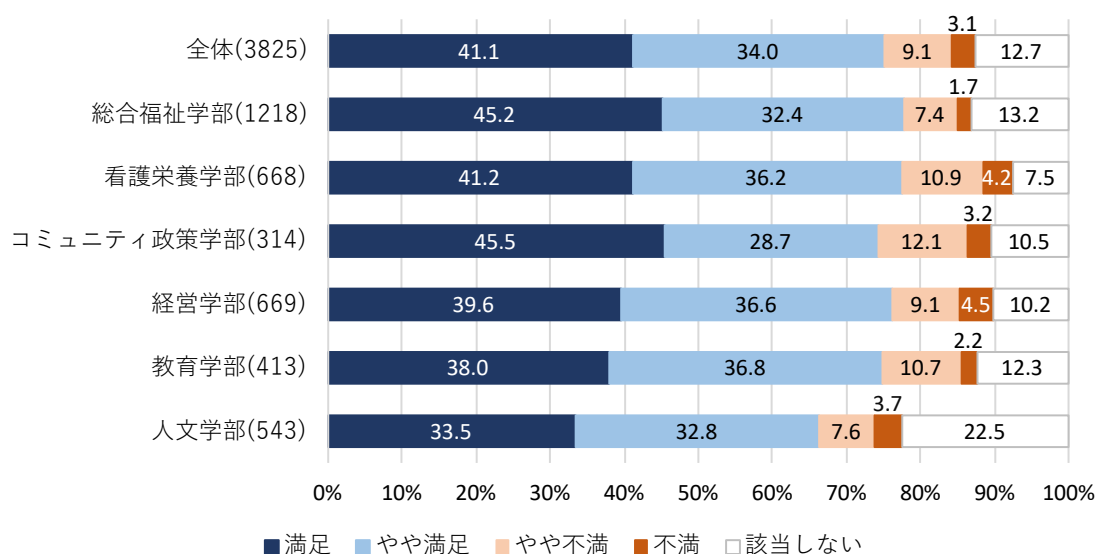


図 7-11 利用できるパソコンの台数（学部別）

(7)-3. 売店・食堂・自由スペース等

食堂の快適さは、6割強が満足（前回調査より増加）
スクールバスの不満は約5割

11) 「食堂の快適さ」

「食堂の快適さ」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では64.3%であった。前回調査では53.6%であり、10.7%増加している。

学部別にみても増加しており、総合福祉学部は前回調査の54.4%から66.7%、看護栄養学部は63.1%から70.9%、コミュニティ政策学部は48.1%から62.4%、経営学部は52.5%から56.4%、教育学部は56.7%から54.8%、食堂が新設された人文学部は34.8%から69.3%と大幅に増加した。

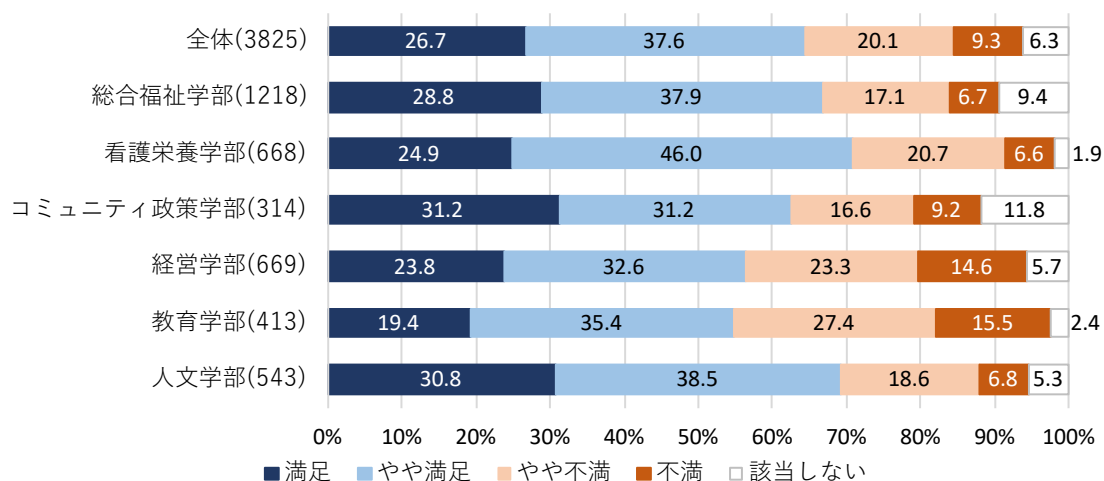


図 7-12 食堂の快適さ（学部別）

12) 「学生が自由に使えるスペース」

「学生が自由に使えるスペース」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では68.6%であった。

学部別でみると、「満足」「やや満足」の割合が多い学部は人文学部（71.5%）であった。人文学部は前回調査で全学部中最低の52.3%であったところ19.2%の大幅増加となったが、学生が自由に使えるスペースが実際に増えたことの反映と考えられる。他の学部でも、満足側の割合は65%以上である。

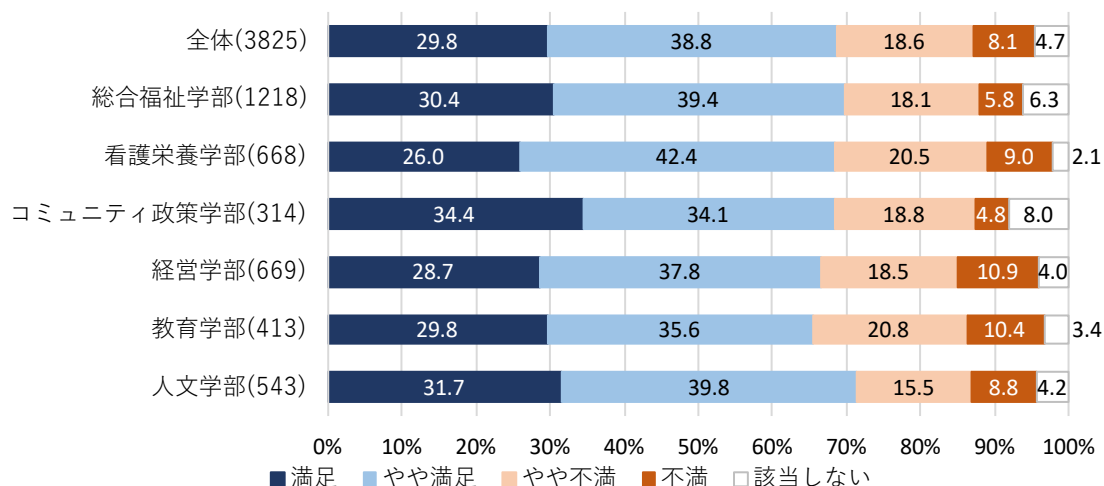


図 7-13 学生が自由に使えるスペース（学部別）

13) 「購買・売店の使いやすさ」

「購買・売店の使いやすさ」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、全体で71.4%であった。前回調査は59.2%であり、12.2%の増加となった。

「満足」「やや満足」の割合は学部別にみても増加しており、総合福祉学部は63.2%から70.8%、看護栄養学部は47.7%から71.0%、コミュニティ政策学部は56.9%から63.4%、経営学部は62.4%から71.0%、教育学部は71.2%から74.6%、人文学部は46.2%から75.9%となった。前回調査で最下位であった人文学部の満足度が最も高いが、購買・売店が新しくなったことの反映と考えられる。

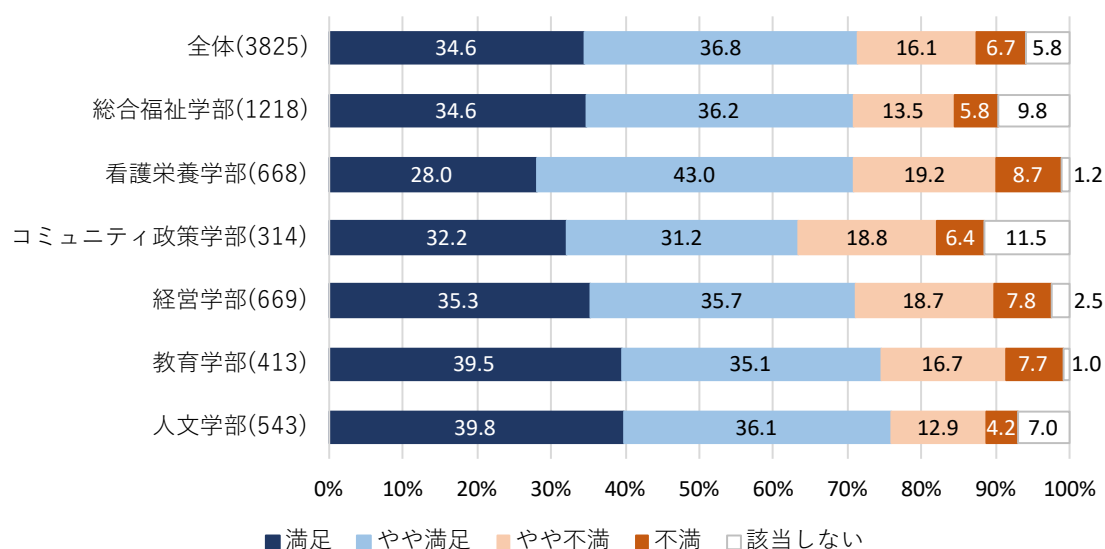


図 7-14 購買・売店の使いやすさ（学部別）

14) 「サークル部室（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ」

「サークルの部室の使いやすさ」では「該当しない」と回答した割合が多かった。大学全体では56.4%であり前回調査の44.1%より増えているが、コロナ禍の影響が考えられる。同割合がとくに多かったのは、人文学部（90.2%）と看護栄養学部（64.8%）である。「満足」もしくは「やや満足」の割合は大学全体で31.9%であった。「該当しない」を除外した「満足」「やや満足」は73.3%である。

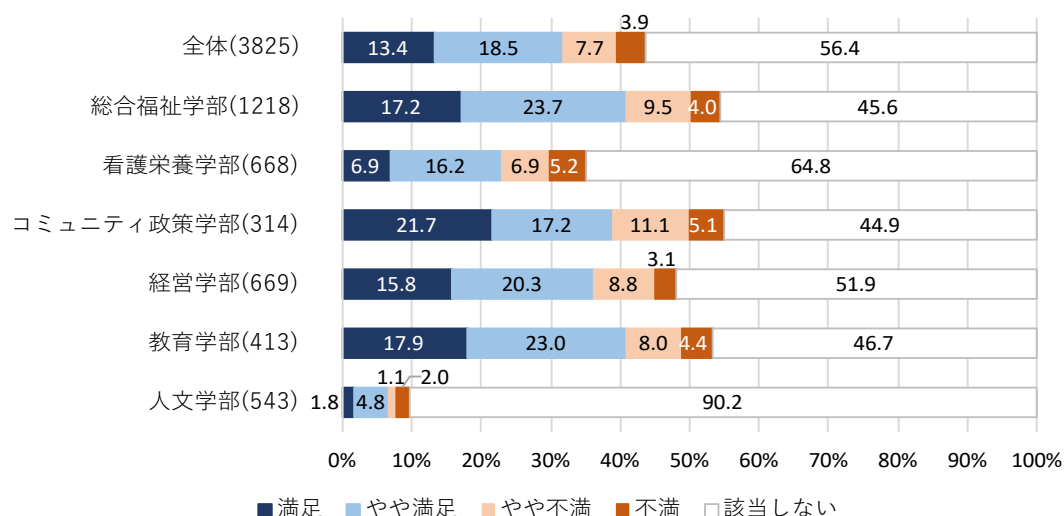


図 7-15 サークル部室（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ

15) 「グラウンド（更科・生実町・埼玉・坂戸）の使いやすさ」

「グラウンドの使いやすさ」でも「該当しない」と回答した割合が多かった。大学全体では74.5%であり前回調査の62.2%より増えているが、部室の使いやすさと同様、コロナ禍の影響が考えられる。同割合がとくに多いのは、人文学部（92.4%）と看護栄養学部（84.4%）である。「満足」もしくは「やや満足」の割合は、大学全体で18.0%であった。「該当しない」を除外すると「満足」「やや満足」の回答割合は約7割となり、グラウンドを利用している学生の多くが満足しているといえる。

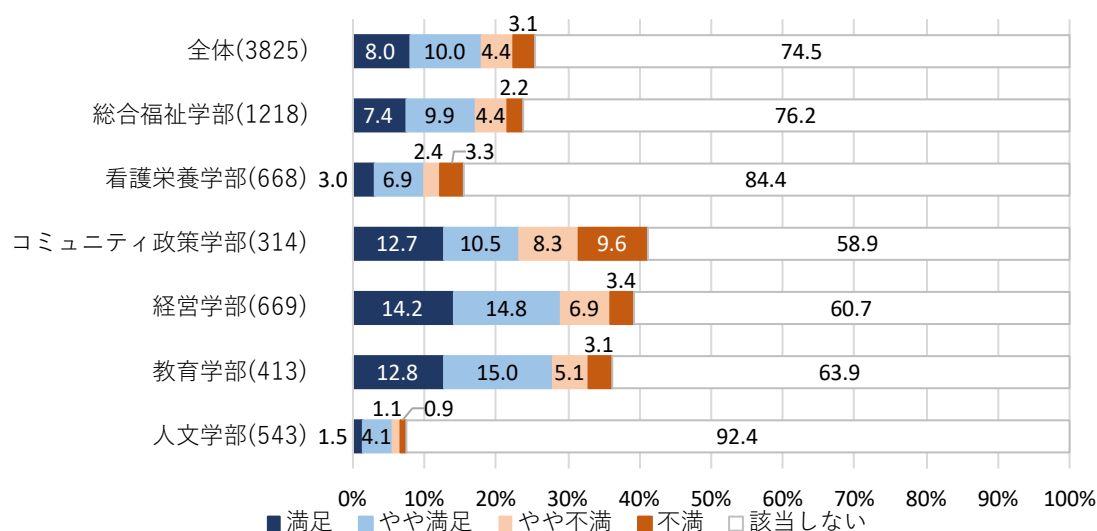


図 7-16 グラウンド（更科・生実町・埼玉・坂戸）の使いやすさ

16) 「スクールバス（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ」

「スクールバスの使いやすさ」について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で42.0%であった。

学部によって大きな差がみられた。「満足」「やや満足」と回答した割合が多かったのは、総合福祉学部（71.0%）、コミュニティ政策学部（70.7%）であったが、その他の学部では「やや不満」「不満」と回答した割合が過半数となった。とくに看護栄養学部は「不満」の割合が61.7%と非常に高く、「やや不満」を合わせると83.7%が不満側の回答であった。

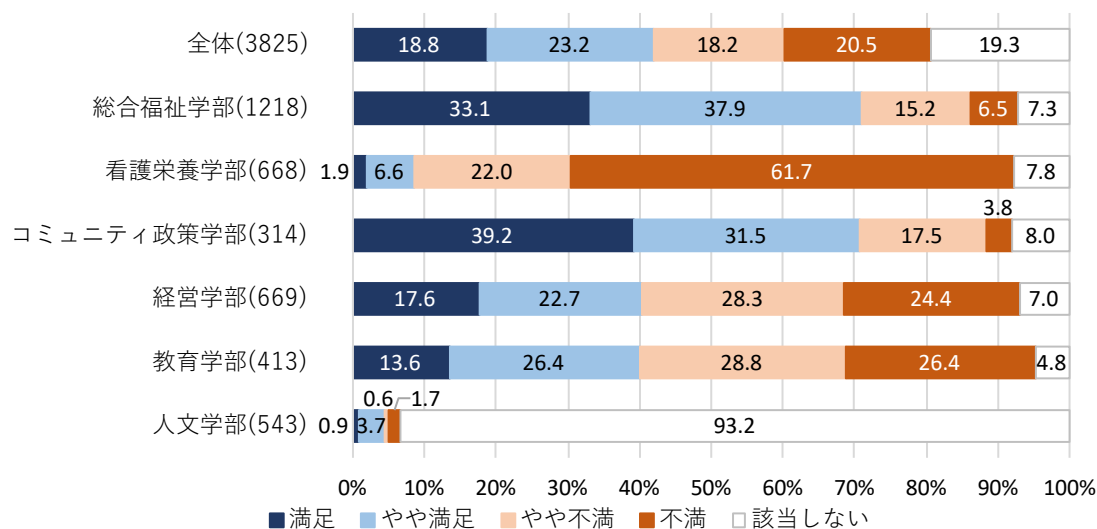


図 7-17 スクールバス（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ

(7)-4. 保健室・キャリア支援・学生相談室等

キャリア相談等 利用者の大部分は満足

17) 「保健相談室（千葉・埼玉・東京）・保健室（千葉第二）の利用のしやすさ」

「保健相談室・保健室の利用のしやすさ」について、「該当しない」という回答の割合は、大学全体では49.8%であった。学部による差があり、看護栄養学部以外でこの割合が高かった。

「満足」もしくは「やや満足」という回答の割合は、大学全体では42.6%であった。もっとも利用者が多いと考えられる看護栄養学部では、「該当しない」を除く70.1%のうち60.3%が「満足」もしくは「やや満足」と回答している。「満足」「やや満足」という回答の割合は、「該当しない」を除外した場合は大学全体で85.0%、各学部ではコミュニティ政策学部（77.9%）を除き、8割台であった。

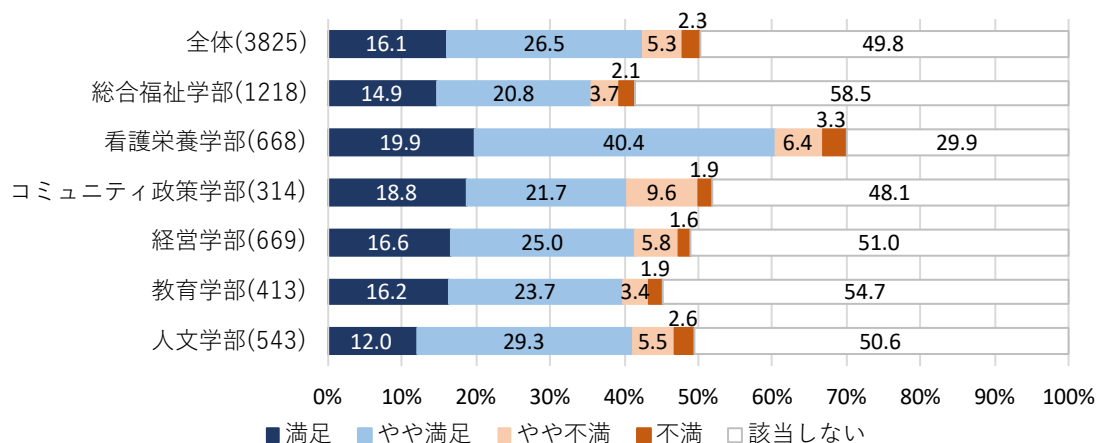


図 7-18 保健相談室（千葉・埼玉・東京）・保健室（千葉第二）の利用のしやすさ

18) 「学生相談室（千葉・千葉第二・東京）・学生総合相談支援室（埼玉）の利用のしやすさ」

学生相談室と学生総合相談支援室は仕組みが異なるが、前回と同様に一項目として調査対象とした。

大学全体で、「満足」「やや満足」という回答の割合は41.5%、「やや不満」「不満」という回答の割合は8.7%であった。49.7%の「該当しない」を除くと、学生相談室・学生総合相談支援室を利用した学生のおよそ8割が「満足」「やや満足」となる。

学部別にみても、どの学部も「満足」「やや満足」の割合が多い。最も多かったのは、経営学部で48.0%、最も少なかったのは総合福祉学部で33.9%であった。「該当しない」除くと、どの学部でも8割前後の学生が「満足」「やや満足」となる。

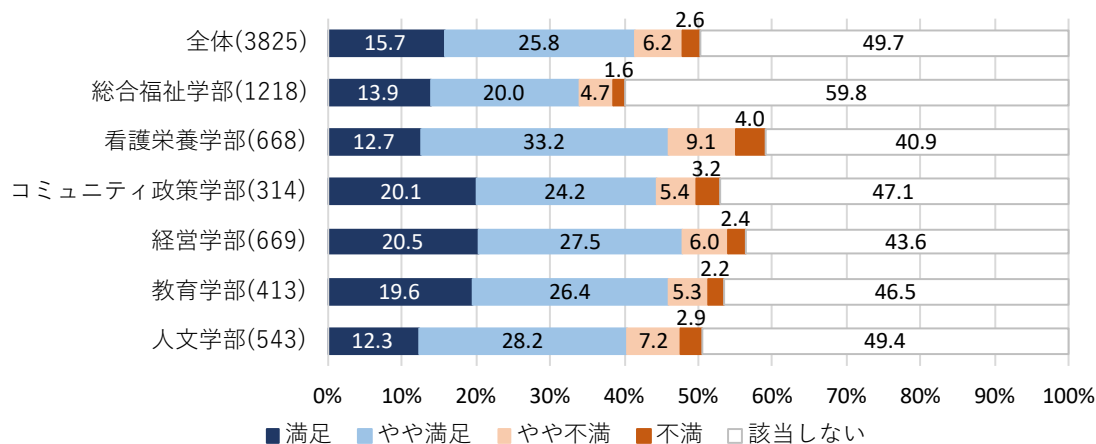


図 7-19 学生相談室（千葉・千葉第二・東京）・学生総合相談支援室（埼玉）の利用のしやすさ

19) 「キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の利用のしやすさ」

「キャリア支援センター・キャリア支援室の利用のしやすさ」について、「該当しない」の割合は、大学全体で39.3%であった。「満足」もしくは「やや満足」の割合は50.2%、「やや不満」「不満」の割合は10.5%である。「該当しない」という回答を除くと、82.7%の学生が「満足」「やや満足」となる。

学部別にみると、「満足」「やや満足」という回答割合が最も高かったのは経営学部で55.3%、最も低かったのは人文学部で45.7%である。「該当しない」という回答を除くと、教育学部では約9割、その他の学部でも76.7%～85.3%が「満足」「やや満足」となる。

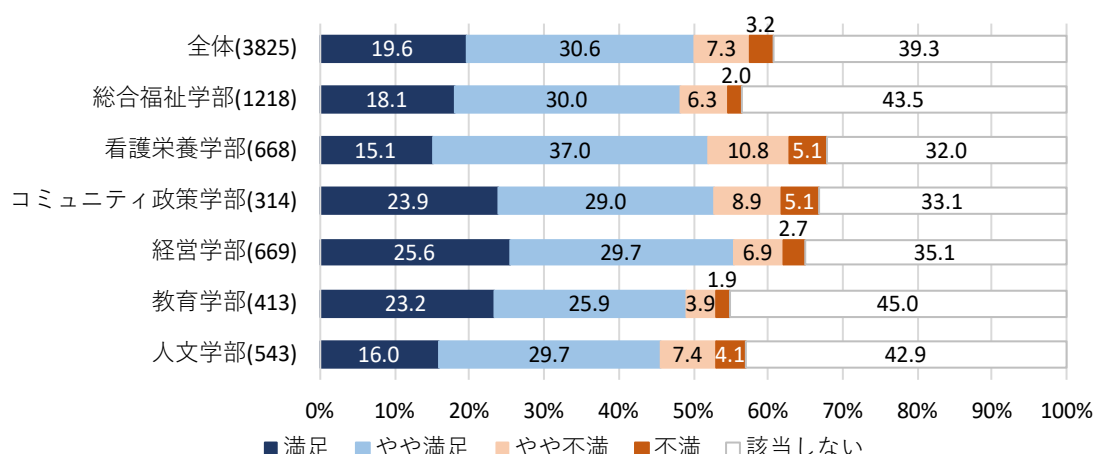


図 7-20 キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の利用のしやすさ

20) 「キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の支援プログラムや就職イベント」

「キャリア支援センター・キャリア支援室の支援プログラム・就職イベント」について、「該当しない」と回答した学生が、大学全体では43.3%であった。

大学全体では、「満足」もしくは「やや満足」という回答の割合は48.0%、「やや不満」もしくは「不満」は8.7%であった。「該当しない」という回答を除くと、「満足」「やや満足」の割合は84.7%となる。大学全体および学部別の傾向は、「キャリア支援センター・室の利用しやすさ」とほぼ同様であるといえる。

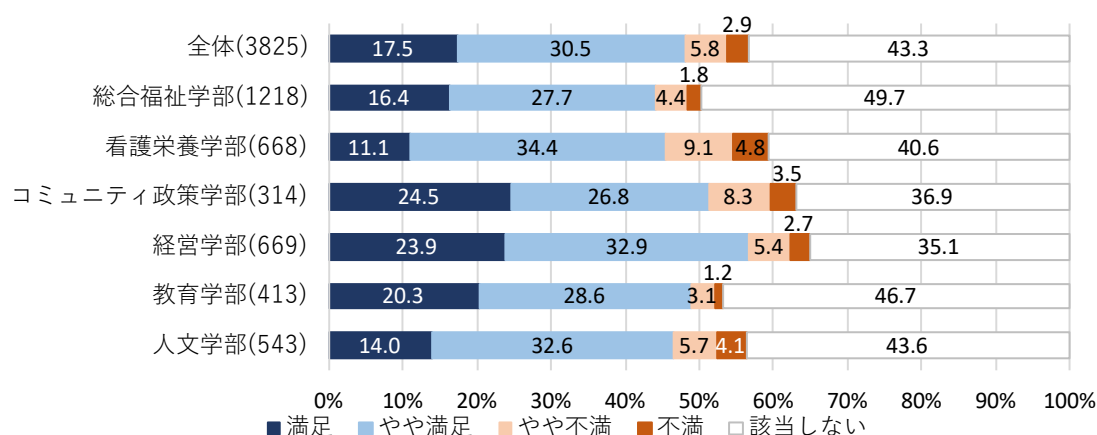


図 7-21 キャリア支援センター(千葉)・総合キャリア支援室(埼玉)・キャリア支援室(千葉第二・東京)の支援プログラムや就職イベント

(8) 淑徳大学の強みや良い点、高校生等に薦めたい点

図 8-1 は、「淑徳大学の強みや良い点、高校生等に薦めたい点」として「あてはまる」～「あてはまらない」の 4 水準で尋ねた 23 項目について、内容別に「教職員」「学習内容・学習環境」「学生・友人・サークル」「キャンパス・雰囲気・建学の精神」の 4 グループに分類し、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した割合の高い順に並べ替えて示した。いずれの項目も「あてはまる」「ややあてはまる」という回答の割合が高く、さまざまな点が評価されていることがわかる。

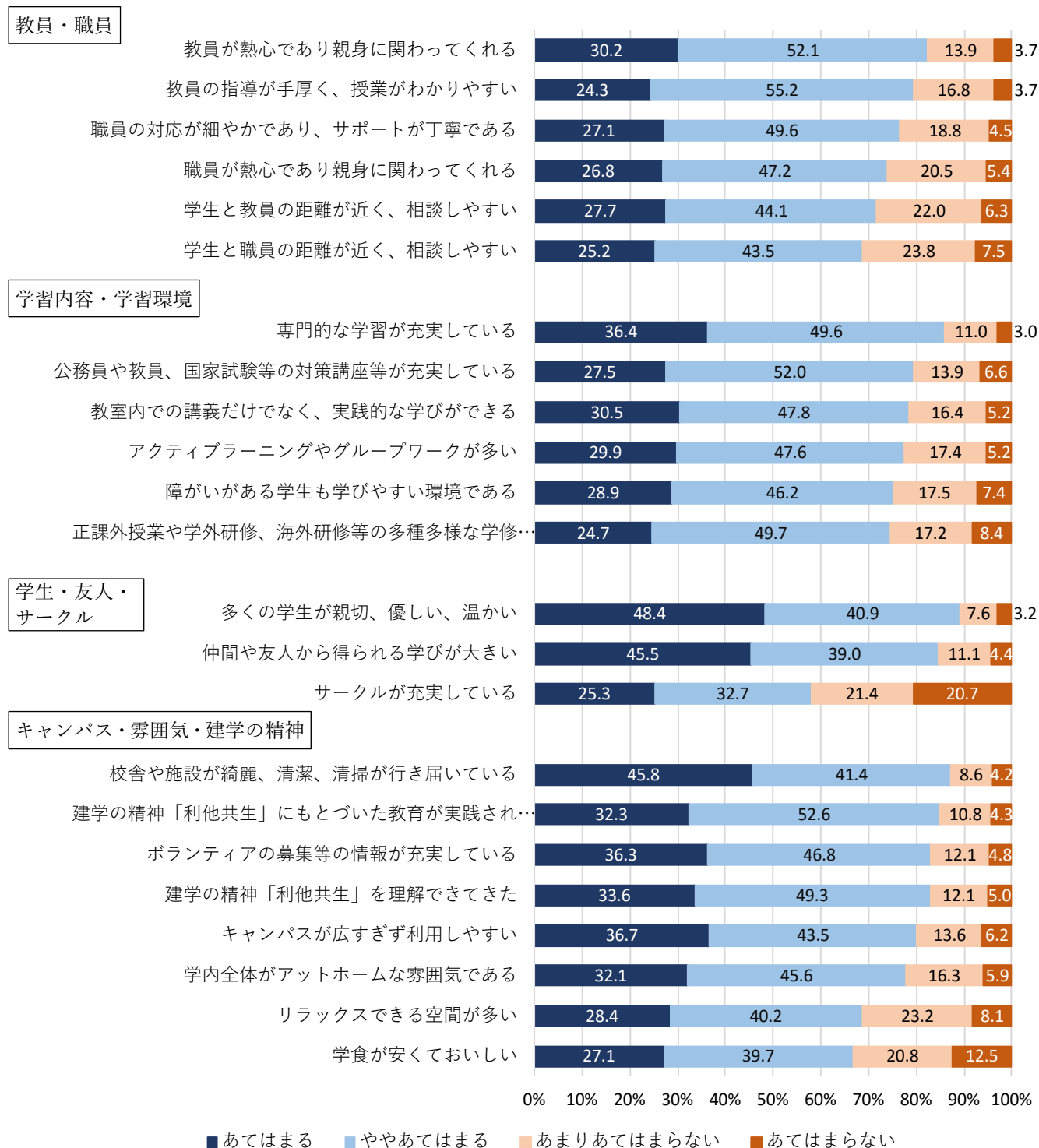


図 8-1 淑徳大学の強み、薦めたい点（大学全体）

(8)-1. 教員・職員

「教員が熱心であり親身に関わってくれる」が強みと感じる学生 82.3%

1) 「教員が熱心であり親身に関わってくれる」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「教員が熱心であり親身に関わってくれる」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 82.3%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部 90.4%、教育学部 86.9%、看護栄養学部 83.2%、経営学部 80.1%、総合福祉学部 79.6%、コミュニティ政策学部 76.1%であった。

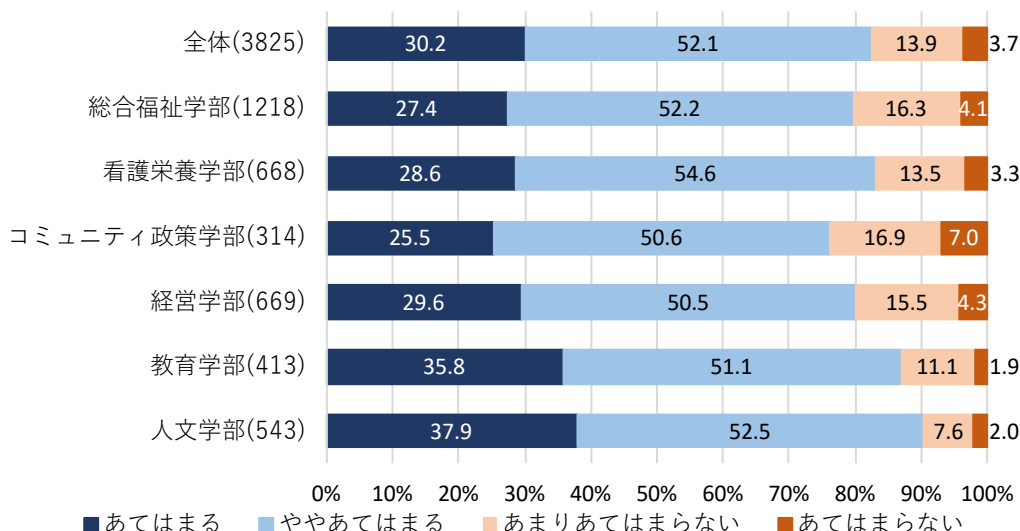


図 8-2 教員が熱心であり親身に関わってくれる（学部別）

2) 「教員の指導が手厚く、授業がわかりやすい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「教員の指導が手厚く、授業がわかりやすい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 79.5%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部 86.9%、教育学部 80.4%、看護栄養学部 79.8%、総合福祉学部 79.3%、経営学部 76.9%、コミュニティ政策学部 71.4%であった。

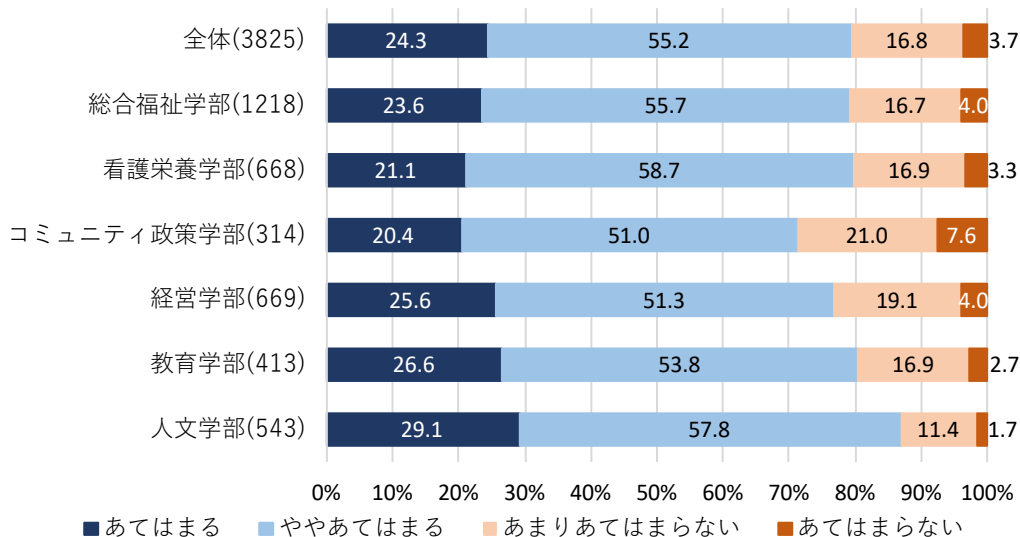


図 8-3 教員の指導が手厚く、授業がわかりやすい（学部別）

3) 「学生と教員の距離が近く、相談しやすい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「学生と教員の距離が近く、相談しやすい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で71.8%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部 87.3%、教育学部 77.5%、経営学部 73.1%、コミュニティ政策学部 70.7%、看護栄養学部 70.3%、総合福祉学部 63.2%であった。

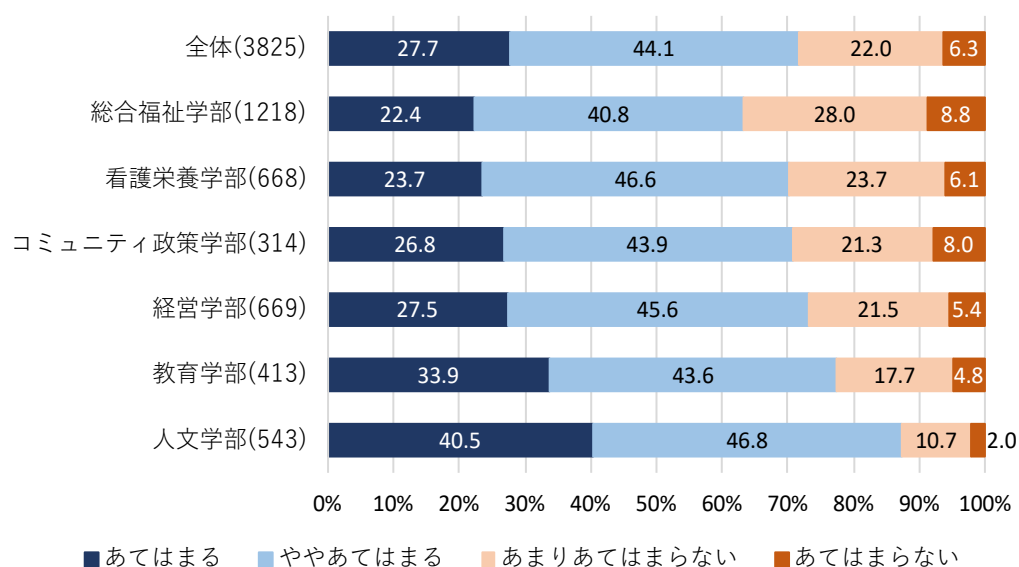


図 8-4 学生と教員の距離が近く、相談しやすい（学部別）

4) 「職員が熱心であり親身に関わってくれる」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「職員が熱心であり親身に関わってくれる」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で74.0%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部 83.9%、教育学部 80.6%、看護栄養学部 73.6%、経営学部 73.4%、コミュニティ政策学部 70.1%、総合福祉学部 69.2%であった。

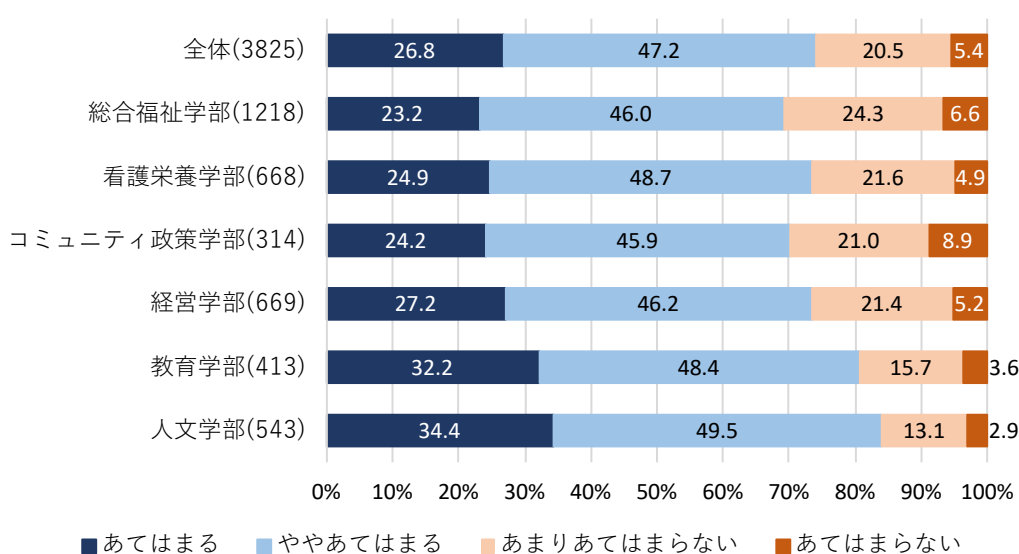


図 8-5 職員が熱心であり親身に関わってくれる（学部別）

5) 「職員の対応が細やかであり、サポートが丁寧である」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「職員の対応が細やかであり、サポートが丁寧である」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した割合は、大学全体で76.7%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部84.0%、教育学部80.9%、経営学部78.5%、看護栄養学部75.3%、総合福祉学部73.0%、コミュニティ政策学部72.0%であった。

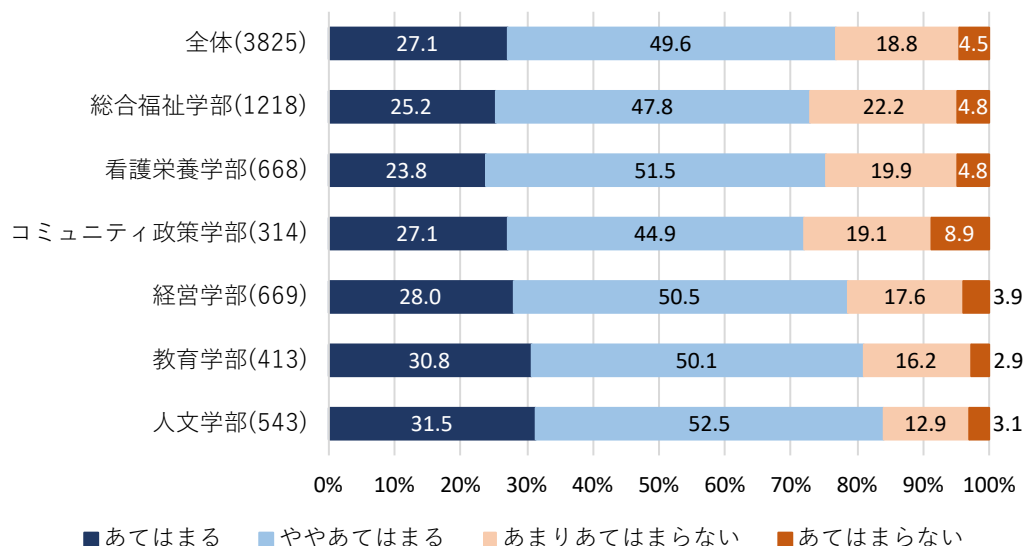


図 8-6 職員の対応が細やかであり、サポートが丁寧である（学部別）

6) 「学生と職員の距離が近く、相談しやすい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「学生と職員の距離が近く、相談しやすい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で68.7%であった。

学部別にみると、高い順に、人文学部81.2%、教育学部74.8%、経営学部72.9%、看護栄養学部68.0%、コミュニティ政策学部66.9%、総合福祉学部59.6%であった。

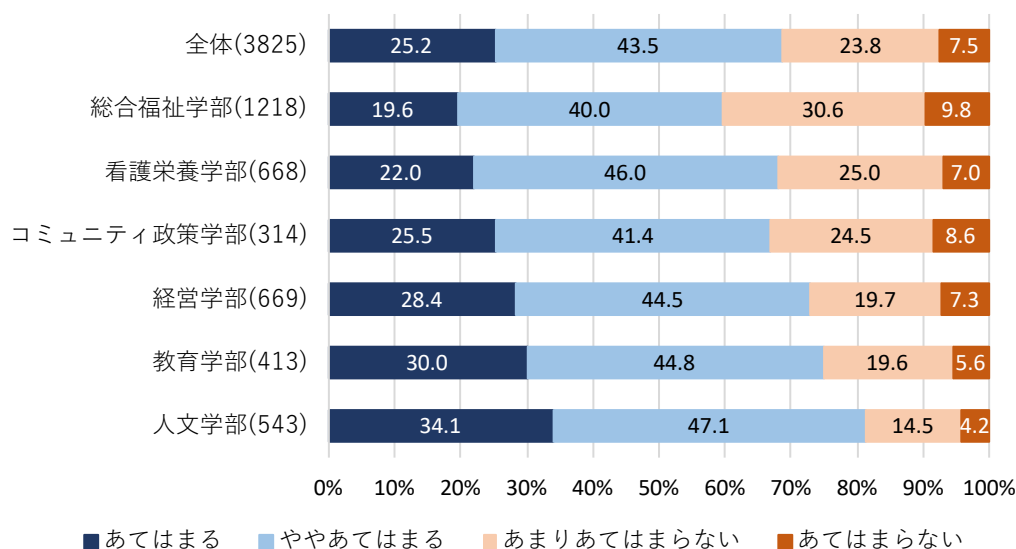


図 8-7 学生と職員の距離が近く、相談しやすい（学部別）

(8)-2. 学習内容・学習環境

「専門的な学習が充実している」が強みと感じる学生 86.0%

7) 「公務員や教員、国家試験等の対策講座等が充実している」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「公務員や教員、国家試験等の対策講座等が充実している」を「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 79.5%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 85.0%、総合福祉学部 84.8%、看護栄養学部 82.8%、コミュニティ政策学部 81.6%、経営学部 71.6%、人文学部 68.3%であった。

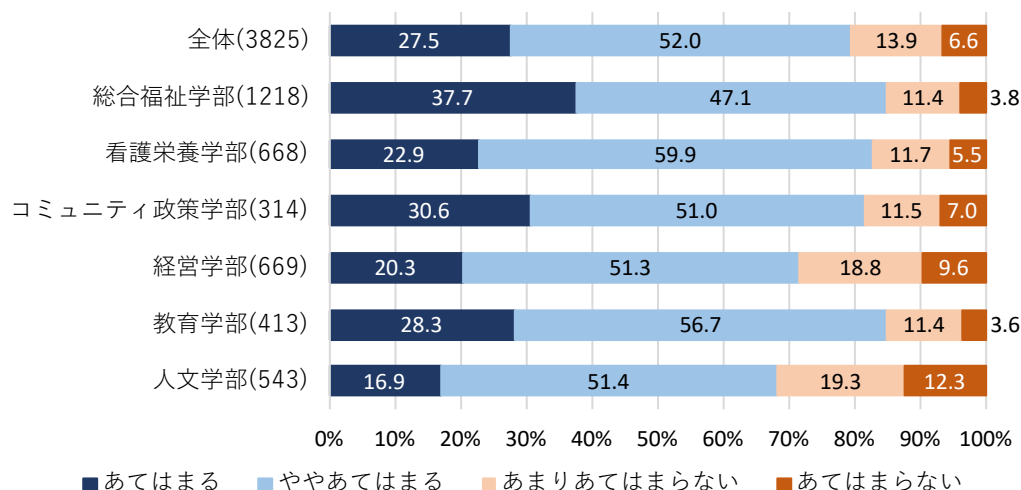


図 8-8 公務員や教員、国家試験等の対策講座等が充実している（学部別）

8) 「教室内での講義だけでなく、実践的な学びができる」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「教室内での講義だけでなく、実践的な学びができる」を「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 78.3%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 88.7%、総合福祉学部 79.1%、看護栄養学部 79.0%、コミュニティ政策学部 77.7%、人文学部 77.2%、経営学部 71.0%であった。

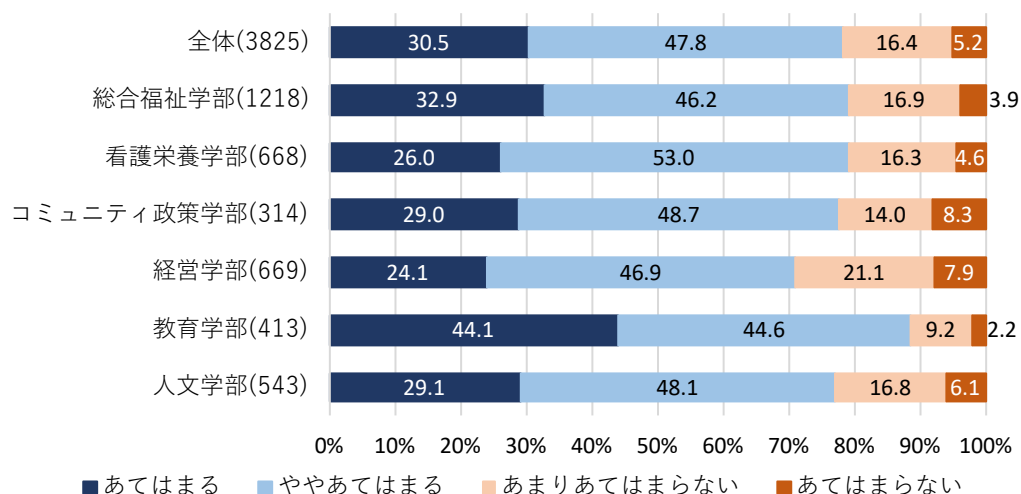


図 8-9 教室内での講義だけでなく、実践的な学びができる（学部別）

9) 「専門的な学習が充実している」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「専門的な学習が充実している」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 86.0%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 90.4%、教育学部 89.8%、看護栄養学部 89.0%、人文学部 84.9%、経営学部 78.0%、コミュニティ政策学部 76.4%であった。

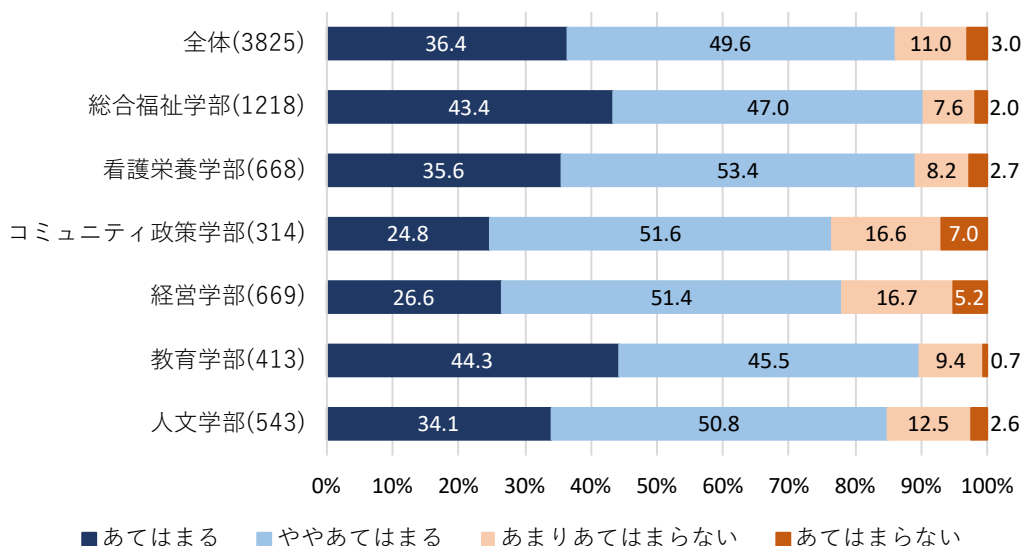


図 8-10 専門的な学習が充実している（学部別）

10) 「アクティブラーニングやグループワークが多い」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「アクティブラーニングやグループワークが多い」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 77.5%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 80.4%、看護栄養学部 79.1%、人文学部 79.0%、経営学部 78.5%、総合福祉学部 75.9%、コミュニティ政策学部 71.0%であった。

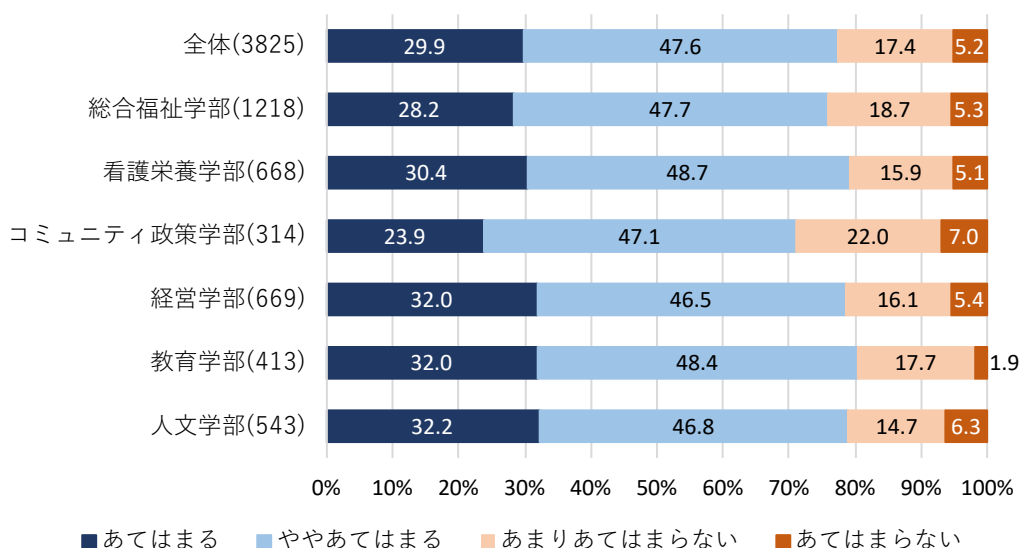


図 8-11 アクティブラーニングやグループワークが多い（学部別）

11) 「正課外授業や学外研修、海外研修等の多種多様な学修プログラムがある」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「正課外授業や学外研修、海外研修等の多種多様な学修プログラムがある」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で74.4%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 83.7%、経営学部 77.2%、総合福祉学部 76.5%、コミュニティ政策学部 72.9%、人文学部 69.7%、看護栄養学部 66.8%であった。

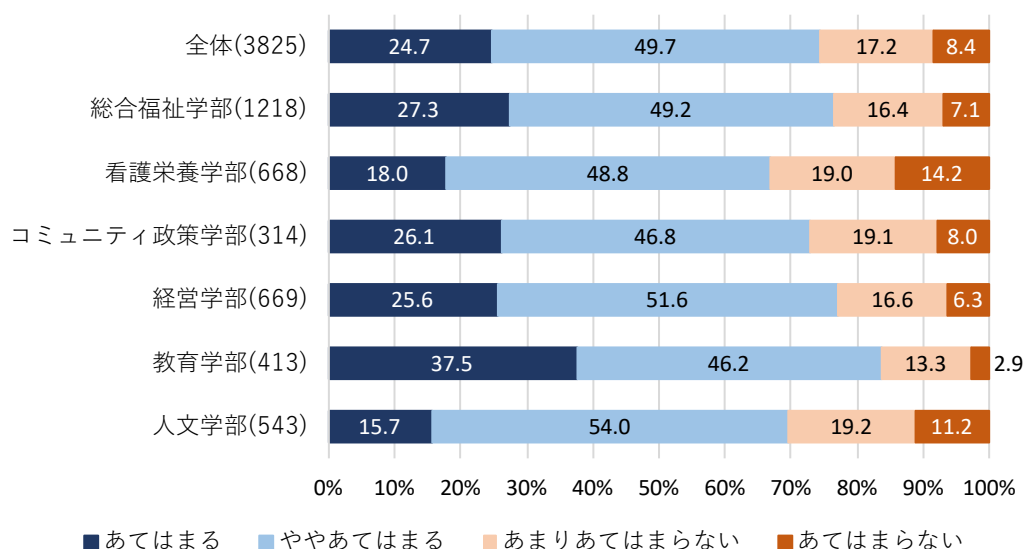


図 8-12 正課外授業や学外研修、海外研修等の多種多様な学修プログラムがある（学部別）

12) 「障がいがある学生も学びやすい環境である」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「障がいがある学生も学びやすい環境である」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で75.1%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 88.0%、コミュニティ政策学部 81.5%、看護栄養学部 69.5%、人文学部 68.5%、経営学部 66.6%、教育学部 63.5%であった。

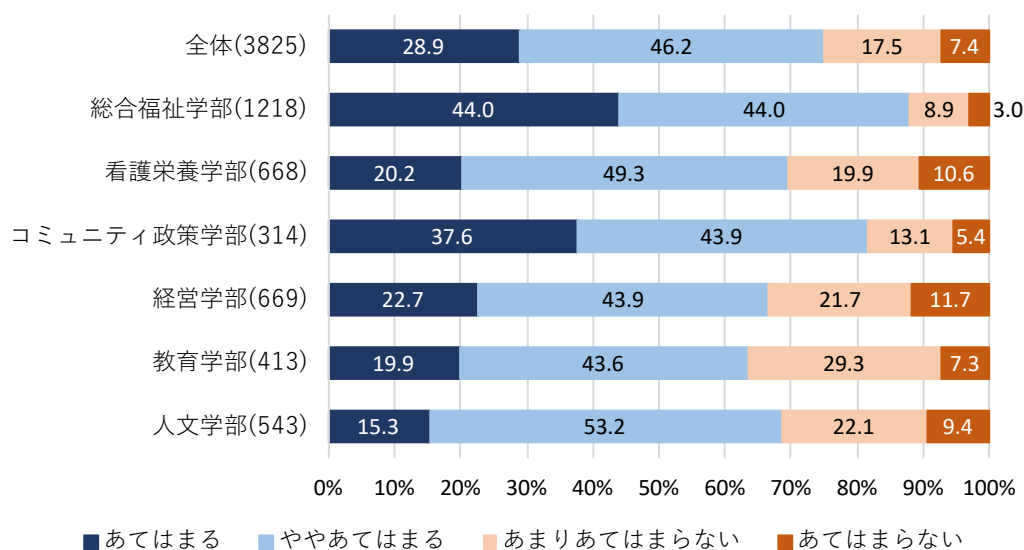


図 8-13 障がいがある学生も学びやすい環境である（学部別）

(8)-3. 学生・友人・サークル

「多くの学生が親切、優しい、温かい」が強みと感じる学生 89.3%

13) 「多くの学生が親切、優しい、温かい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「多くの学生が親切、優しい、温かい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 89.3%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 92.4%、教育学部 91.0%、看護栄養学部 89.6%、人文学部 87.1%、経営学部 85.6%、コミュニティ政策学部 85.4%である。全体的に「ややあてはまる」よりトップボックスである「あてはまる」の割合が高く、非常に高評価であるといえる。

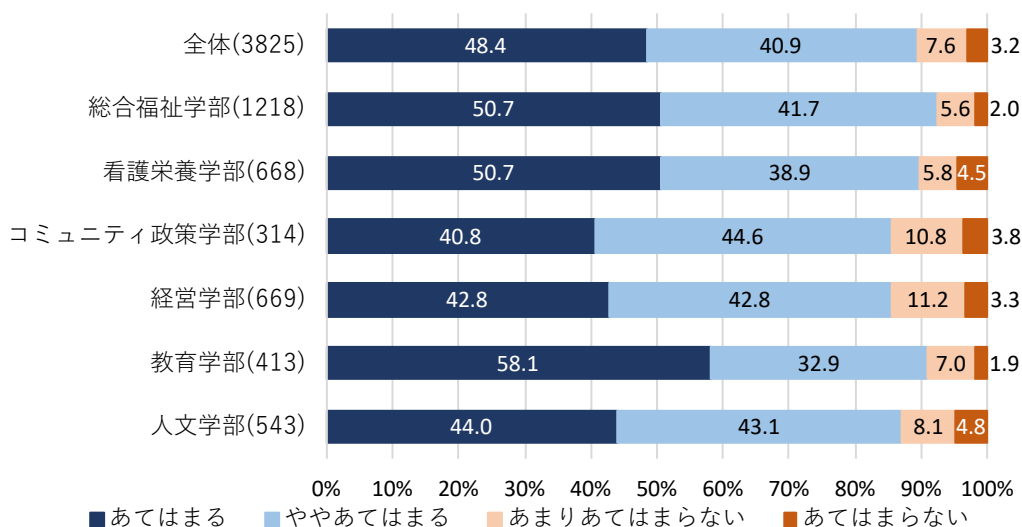


図 8-14 多くの学生が親切、優しい、温かい（学部別）

14) 「仲間や友人から得られる学びが大きい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「仲間や友人から得られる学びが大きい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 84.5%であった。

学部別では、高い順に、教育学部 90.3%、看護栄養学部 87.6%、総合福祉学部 86.1%、人文学部 84.0%、経営学部 78.6%、コミュニティ政策学部 77.7%である。

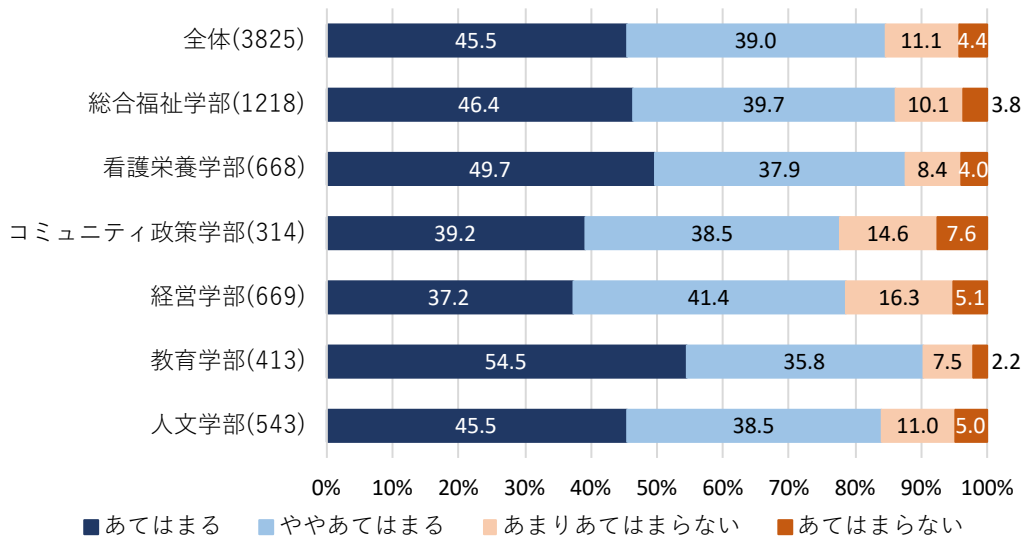


図 8-15 仲間や友人から得られる学びが大きい（学部別）

15) 「サークルが充実している」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「サークルが充実している」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 58.0%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 68.0%、教育学部 64.1%、コミュニティ政策学部 64.1%、経営学部 52.8%、人文学部 48.4%、看護栄養学部 45.7%であった。学部の差は比較的大きく、総合福祉学部、教育学部、コミュニティ政策学部が「あてはまる」側の回答が 6 割を超えるのに対し、看護栄養学部、人文学部では「あてはまらない」側の回答が過半数であった。

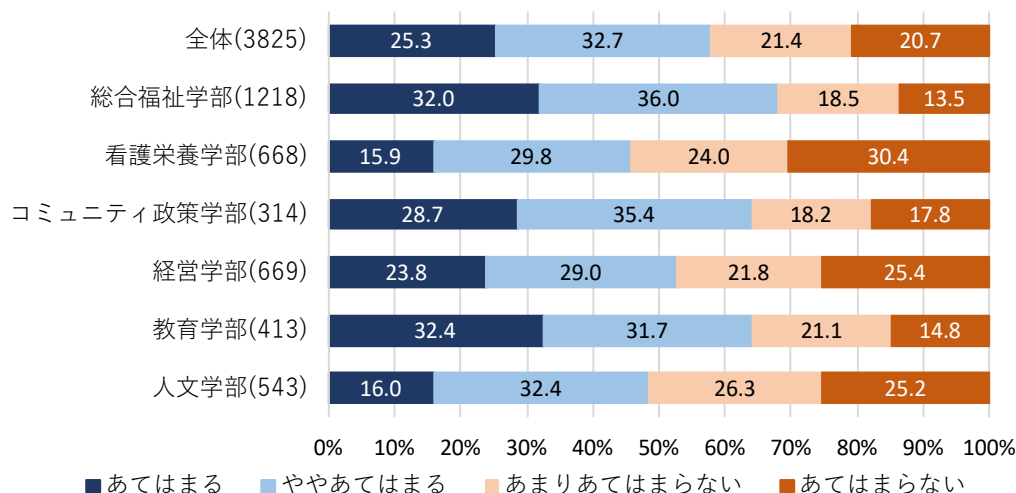


図 8-16 サークルが充実している (学部別)

(8)-4. キャンパス・雰囲気・建学の精神

「校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている」は 87.2%

16) 「キャンパスが広すぎず利用しやすい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「キャンパスが広すぎず利用しやすい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 80.2%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 85.6%、看護栄養学部 82.8%、教育学部 80.4%、コミュニティ政策学部 80.2%、経営学部 76.7%、人文学部 69.1%であった。

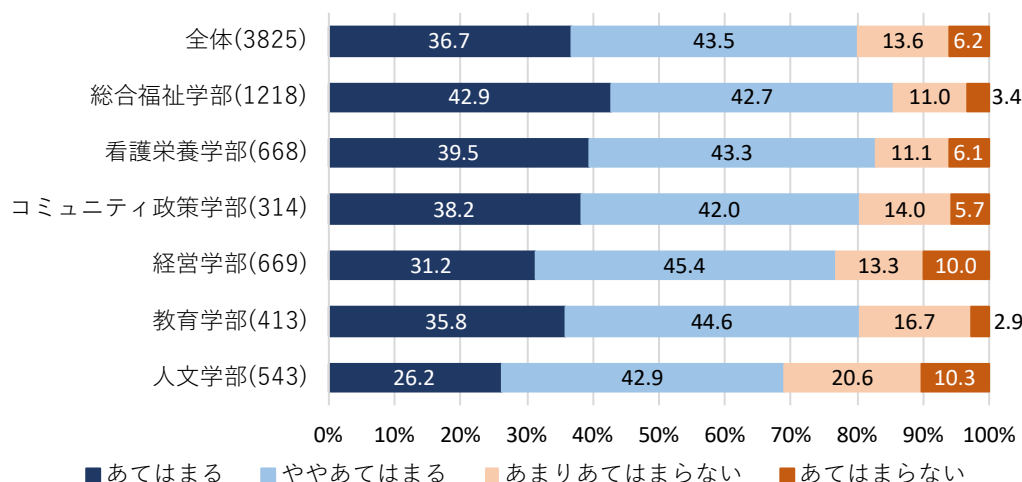


図 8-17 キャンパスが広すぎず利用しやすい (学部別)

17) 「学食が安くておいしい」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「学食が安くておいしい」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 66.8%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 77.6%、コミュニティ政策学部 76.1%、人文学部 62.9%、教育学部 61.0%、経営学部 59.9%、看護栄養学 55.9 部%であった。

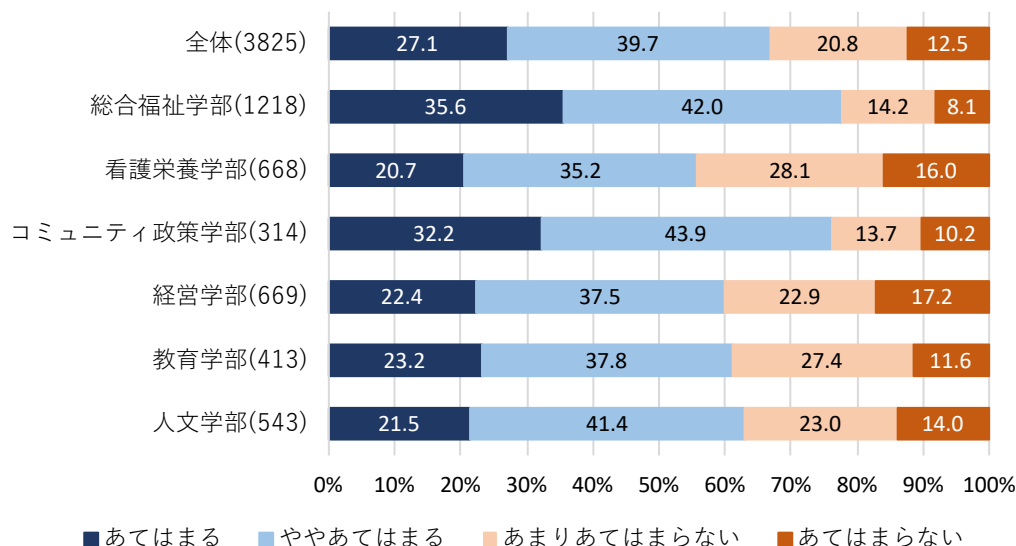


図 8-18 学食が安くておいしい（学部別）

18) 「校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 87.2%であった。

学部別にみると、高い順に、看護栄養学部 93.7%、人文学部 92.1%、総合福祉学部 90.2%、コミュニティ政策学部 87.3%、教育学部 80.4%、経営学部 75.5%であった。

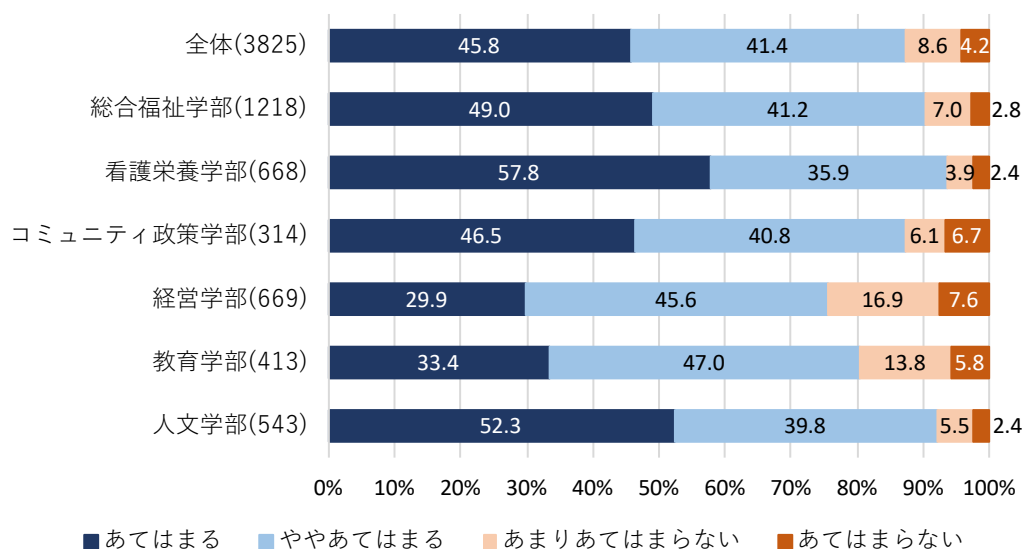


図 8-19 校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている（学部別）

19) 「リラックスできる空間が多い」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「リラックスできる空間が多い」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 68.6%であった。

学部別にみると、高い順に、看護栄養学部 72.3%、人文学部 72.2%、コミュニティ政策学部 70.4%、総合福祉学部 70.2%、経営学部 62.5%、教育学部 62.2%であった。

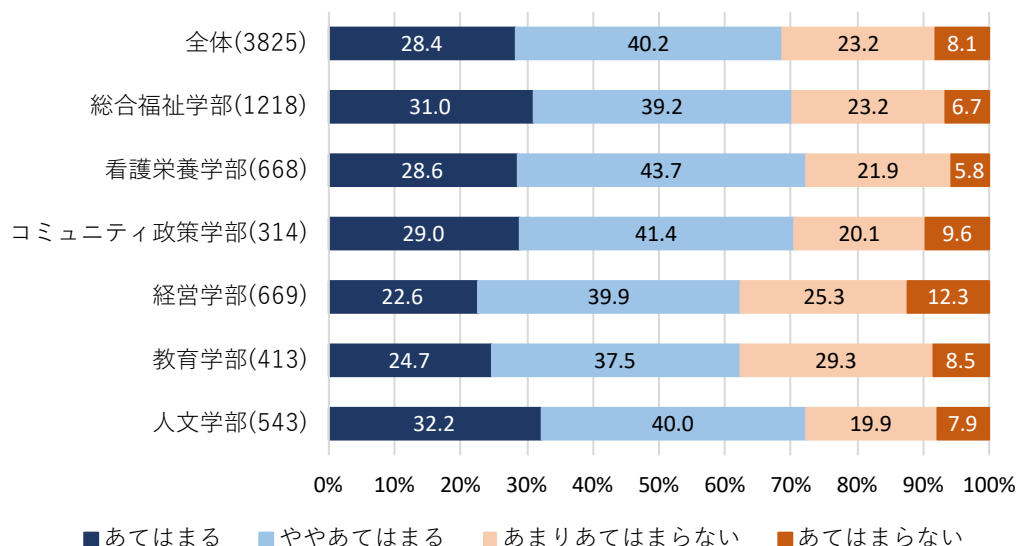


図 8-20 リラックスできる空間が多い (学部別)

20) 「建学の精神「利他共生」にもとづいた教育が実践されている」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「建学の精神『利他共生』にもとづいた教育が実践されている」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 84.9%であった。

学部別にみると、高い順に、看護栄養学部 86.3%、総合福祉学部 86.2%、教育学部 85.7%、人文学部 85.7%、経営学部 82.1%、コミュニティ政策学部 80.6%であった。すべての学部が 8 割以上であり、差はほとんどない。

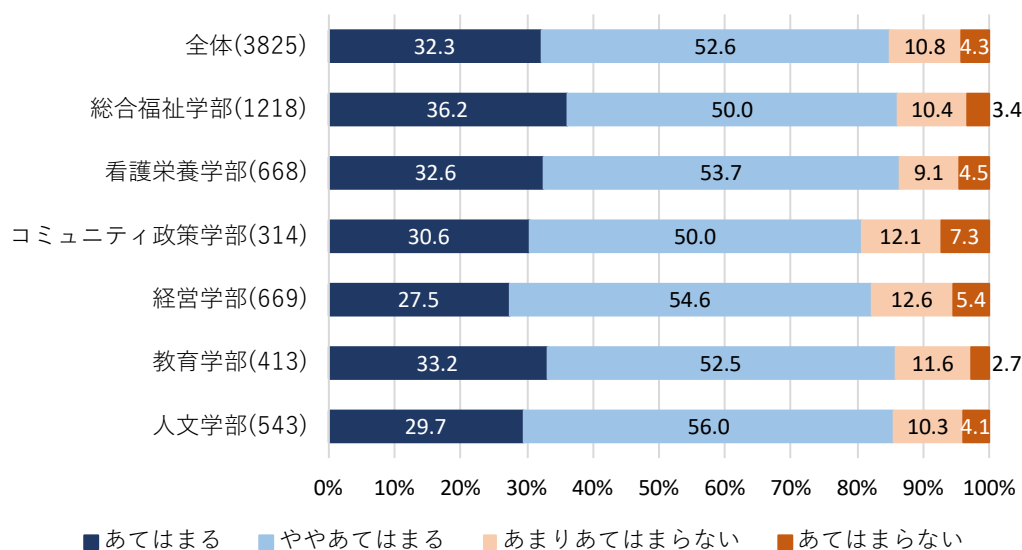


図 8-21 建学の精神「利他共生」にもとづいた教育が実践されている (学部別)

21) 「建学の精神「利他共生」を理解できてきた」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「建学の精神『利他共生』を理解できてきた」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で82.9%であった。

学部別にみると、高い順に、総合福祉学部 84.6%、人文学部 84.5%、看護栄養学部 84.4%、教育学部 83.3%、経営学部 79.7%、コミュニティ政策学部 76.1%であった。

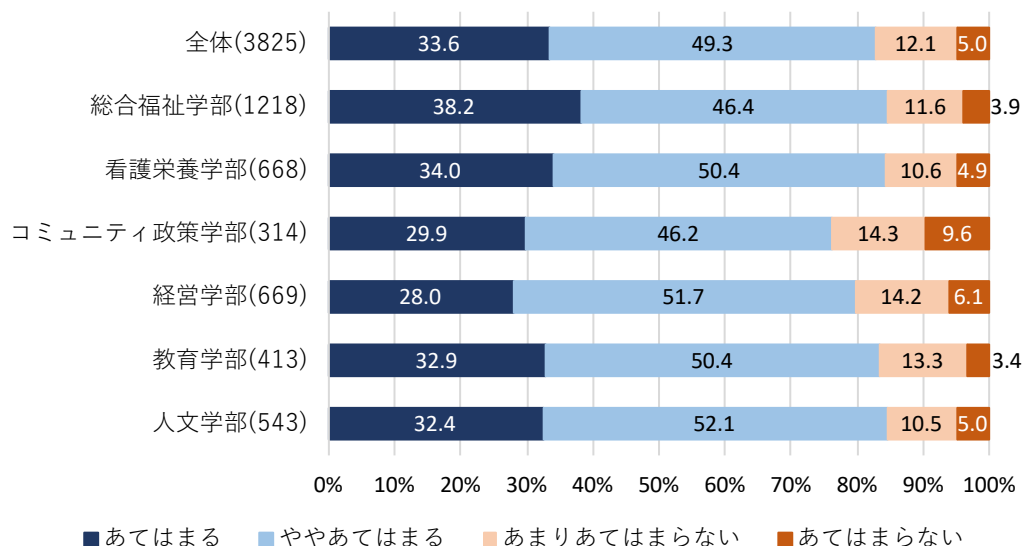


図 8-22 建学の精神「利他共生」を理解できてきた（学部別）

22) 「学内全体がアットホームな雰囲気である」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「学内全体がアットホームな雰囲気である」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で77.7%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 81.8%、人文学部 80.1%、総合福祉学部 78.6%、看護栄養学部 76.8%、経営学部 74.5%、コミュニティ政策学部 73.9%であり、ほとんど差はない。

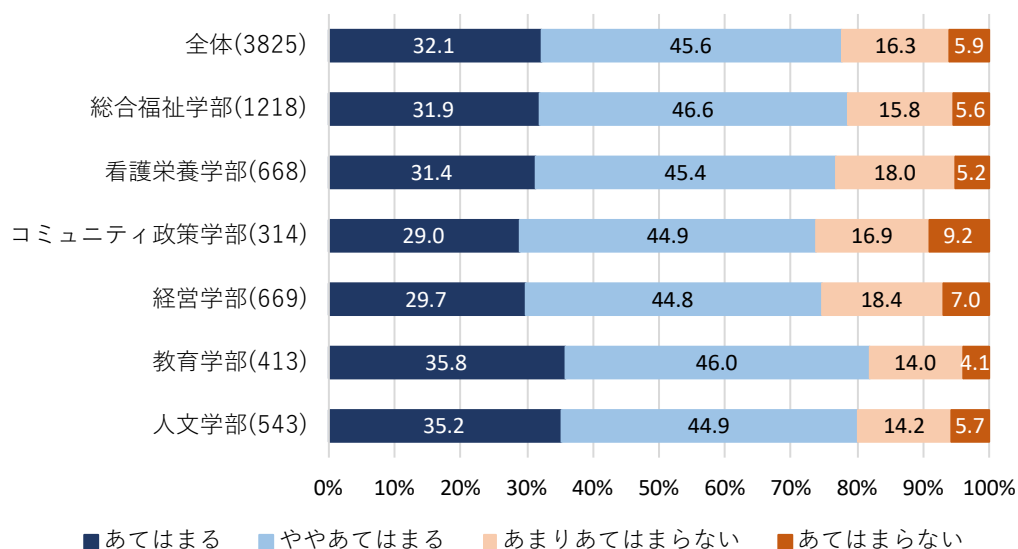


図 8-23 学内全体がアットホームな雰囲気である（学部別）

23) 「ボランティアの募集等の情報が充実している」

強みや良い点、高校生等に薦めたい点として、「ボランティアの募集等の情報が充実している」を「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体で 83.1%であった。

学部別にみると、高い順に、教育学部 92.0%、総合福祉学部 90.0%、コミュニティ政策学部 84.7%、人文学部 80.5%、看護栄養学部 79.0%、経営学部 70.7%であった。

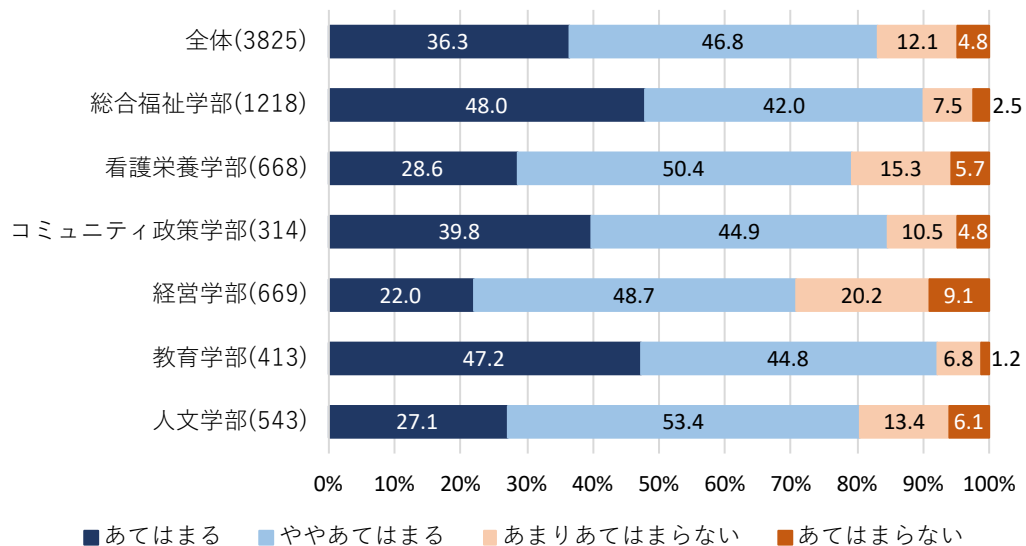


図 8-24 ボランティアの募集等の情報が充実している（学部別）

(9) 淑徳大学、学生生活の総合満足度

淑徳大学に対し、81.3%が全体的に満足と評価

1) 淑徳大学満足度

「あなたは全体的に、淑徳大学をどう評価していますか」という問いに対し、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では81.3%であった。

学部別では、総合福祉学部 86.6%、看護栄養学部 76.7%、コミュニティ政策学部 78.6%、経営学部 74.4%、教育学部 85.5%、人文学部 81.8%であり、学部により若干のバラツキがあるが、いずれの学部においても満足度が高いといえる。前回調査に比べ、大学全体では11.3%増加した。学部ごとにみても、すべての学部で満足側の割合が増えており、その増分は、総合福祉学部 11.2%、看護栄養学部 9.2%、コミュニティ政策学部 10.5%、経営学部 8.3%、教育学部 15.3%、人文学部 23.2%であった。

なお、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生の割合は、大学全体では18.7%、総合福祉学部 13.5%、看護栄養学部 23.4%、コミュニティ政策学部 21.3%、経営学部 25.6%、教育学部 14.5%、人文学部 18.2%である。(図 9-1)

学年別の満足度割合をみると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、1年次 85.7%、2年次 84.0%、3年次 73.9%、4年次 79.5%である。満足度評価は、1年次でもっとも高く、2年次、3年次と徐々に下がるが、4年次になると3年次よりも高くなっている。(図 9-2)

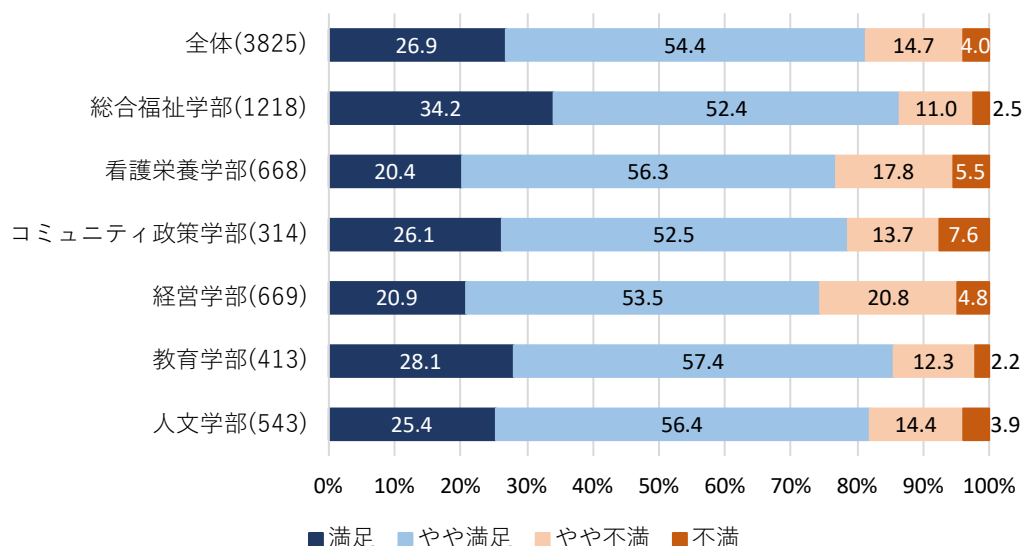


図 9-1 淑徳大学満足度（学部別）

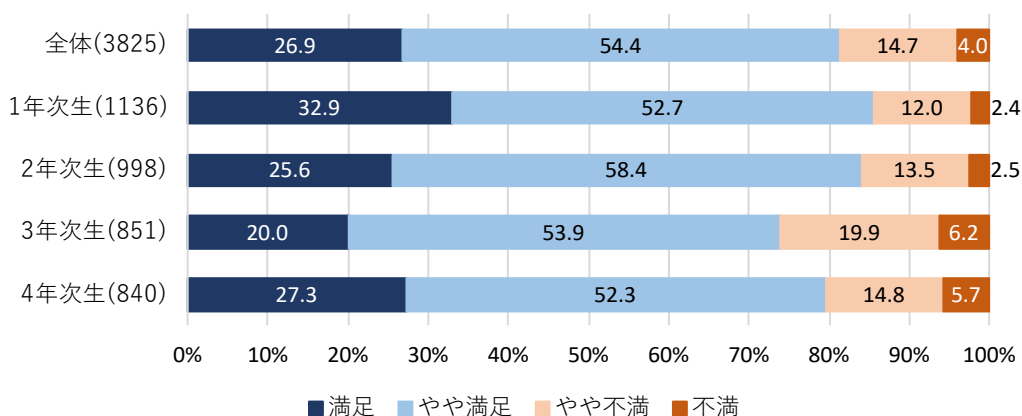


図 9-2 淑徳大学満足度（学年別）

2) 学生生活満足度

「あなたは全体的に、自分の学生生活をどう評価していますか」という問いに対し、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では72.0%である。

学部別にみると、高い順に、教育学部75.8%、総合福祉学部74.1%、看護栄養学部73.2%、人文学部72.4%、経営学部67.4%、コミュニティ政策学部65.6%である。学部により若干のバラツキがあるが、いずれの学部においても6割を超える学生が「満足」「やや満足」と回答している。

なお、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生の割合は、大学全体では28.0%、総合福祉学部25.9%、看護栄養学部26.8%、コミュニティ政策学部34.4%、経営学部32.6%、教育学部24.2%、人文学部27.6%である。(図9-3)

学年別の満足度割合をみると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、1年次73.5%、2年次72.0%、3年次66.9%、4年次75.2%であり、4年次がもっとも高い。1年次、2年次、3年次と徐々に評価が下がり、4年次になると評価が高くなるという傾向は、大学に対する満足度と同様である。(図9-4)

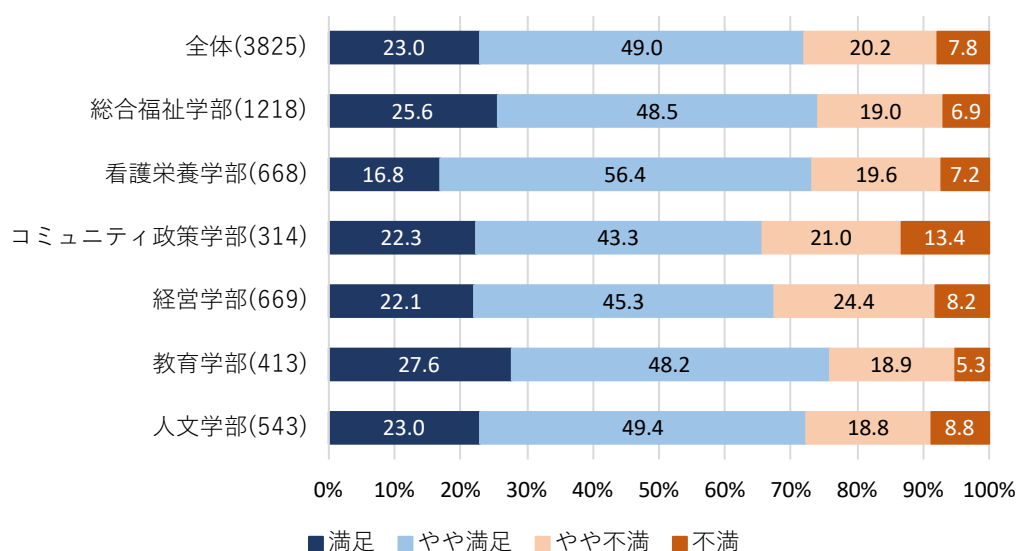


図9-3 学生生活満足度（学部別）

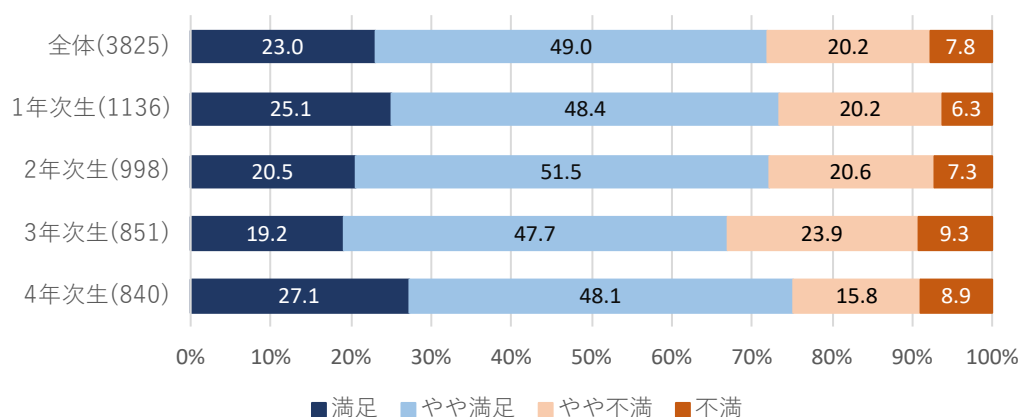


図9-4 学生生活満足度（学年別）

(10) 淑徳大学への要望や意見（自由記述回答より）

大学への要望、意見について自由回答の設問を設けた。有効回答者 3,825 人のうち「要望、意見」の自由回答数は 945 人（24.7%）であった。

回答者数の学部別内訳は、総合福祉学部 225 人（18.5%）、看護栄養学部 210 人（31.4%）、コミュニティ政策学部 74 人（23.6%）、経営学部 171 人（25.6%）、教育学部 122 人（29.5%）、人文学部 143 人（26.3%）で、看護栄養学部の割合が高かった。

記述された内容の今回の特徴として、今回の調査がコロナ渦の影響で大学も学生も様々な対応・対策を強いられている中で実施されたことを反映し、コロナに関連する意見が目立ったことがあげられる。具体的内容は、次の 4 点に集約される。

1 点目は「施設（施設管理を含む）、設備、備品に関すること」である。

もっとも多く記載されていたのは、前回調査に引き続き「スクールバス」に関する要望・意見で、バスの運行本数、運行時間や運行間隔、バス停留所の場所に関する意見である。スクールバス内の「密」状態がコロナ感染のリスクを高めていることを心配し改善を求める意見も多くみられた。

次に多いのは「食堂・学食」に関するもので、席が足りない、値段が高い、メニューを見直してほしいなどの意見があった。学食での感染予防対策や感染リスクに関する意見もみられた。

また、建物間の距離の遠さに関する意見、購買の品揃えや価格に対する意見、自習スペースやフリースペースを望む意見、インターネット環境に関する意見、喫煙所に関する意見、グラウンドに関する意見などがあった。

2 点目は「教育全般に関すること」である。授業の内容・方法に関すること、オンライン授業の内容やシステムに関する意見、オンラインと対面が混在する状況に対する意見、オンライン授業での双方向性を求める意見、課題の質・量に関する意見、その他の事務手続きや事務連絡に関すること、カリキュラムや時間割に関すること、学生の授業中の態度に関することなどであった。

3 点目は「教員、職員に関すること」であり、教職員の学生への対応や関わり方、オンライン授業を実施するにあたっての教職員間の連携などについての記載があった。

4 点目は「その他」の意見である。学費が高いとする意見、コロナ渦の状況変化を踏まえた学費・施設維持費の減額を求める意見、サークルに関する意見、学生のマナーの問題、大学からの連絡についての意見などがあった。

また、本学への要望や意見という設問の意図からは外れるが、本学への入学を後悔している、退学を考えているという意見も見られた一方で、本学に入学して良かったという意見も散見された。

Ⅲ. 要望・意見に対する「各キャンパスの回答」

学生生活実態調査の自由記述欄への対応について

(千葉キャンパス)

総合福祉学部長 大 橋 靖 史
コミュニティ政策学部長 鏡 諭
千葉事務局長 長 澤 正 志

「第8回学生生活実態調査」の結果のうち、自由記述で記載して頂いた「大学への要望や意見」に対する回答は以下の通りです。学生みなさんが記載してくれた要望や希望の全てについて対応することは難しいのですが、千葉キャンパスとしては可能な限り、できるところから改善を図っていきたいと考えております。

また、一方で今回のアンケート内容において、学生の皆さんのマナーについても多数の意見を頂戴しました。授業中や生活態度、スクールバスなどでの言動など、学生の皆さんにとっても不快と思われる意見が多数あったことを受け、これらについても、大学として社会人基礎力や生きる力を身に付けるべく指導を徹底してまいりたいと考えております。

今回は、自由記述を大きく以下の7つに分類し、各項目に意見を集約して対応策を記載いたしました。

1. 学食・購買他、施設設備などへの意見

① 学食など

「メニューを増やして欲しい」という意見を多くいただきました。特に 2021 年度はコロナ禍にあり、テイクアウトメニューに限定せざるを得ない社会的状況にありましたので、メニューを工夫することも難しい状況にありました。今後、食堂利用が通常利用へと戻る時に向けて、メニューの工夫については学食業者と交渉したいと考えております。

また、「食堂の座席数をもっと増やして欲しい」との意見もいただきました。この点についてもコロナ禍である状況を鑑み、通常利用時より座席数を削減しての利用とせざるを得ませんでした。コロナが落ち着き社会生活が通常へと戻りましたら、座席数も元に戻せると思いますので、それまでは現状の設置数での利用に協力ください。

② 施設・設備など

施設・設備に関する意見が最も多くありました。具体的には、自動販売機の設置場所、学生が自由に使用出来るスペース、Wi-fi、トレーニングルームの使用等、様々な要望や意見を伺いました。既にトレーニングルームにつきましては、広く学生に開放できるよう準備を進めています。使用の際にはルールに則り使用してください。また、Wi-fi 工事も実施出来る範囲で既に実施済みであり、3号館別館にラーニングコモンズを設置するなど、学生が使用出来る学習スペースの増設にも取り組んでまいりました。ネット環境に関しても回線速度をより速くするため、次年度に容量を増やす予定です。

施設・設備については、学生生活において安全で快適な場所として提供できるよう、今後も修繕や改修を加えながら計画を進めて参ります。この他、学生生活が過ごしやすいものとなるよう皆さんの意見を踏まえ、出来るところから学内施設・設備について改善を手がけていきたいと思いますが、既に取り組み実績があることについても理解して欲しいと思います。なお、学生の皆さんには、大学の施設・設備は公共物であることを再認識頂き、大切に取り扱うよう協力をお願いします。

購買部については、営業時間や商品数についての意見をいただきました。コロナ禍であるため、利用学生数も一定数に止まることとなり、また、店舗スペースに限りもあります。こうした条件を踏まえ、変更可能な点があるかについて、店舗と協議していくようにします。

③ スクールバスなど

スクールバスについて一番多い意見が、バスの運行方法（時刻や本数）に関する内容でした。この背景には、コロナ禍であったため、バスの中が密に感じるということから「本数を増やして欲しい」との意見が多かったように思います。コロナ禍であることから、乗車人数を制限してきましたが、学生の中には、「もっと乗れるのに」と思う学生もいれば、「密に感じるからもう少し乗車人数を減らして欲しい」と思う学生もいたことと思います。

しかし、バスの台数には限りがあり、乗車できる人数についてはコロナの状況も未だ影響はしているため、可能な範囲で利便性を高めていきたいと思います。なお、乗車マナーに関しては不快に思っている学生もおります。乗車時での大きな声での会話は控える等引き続き協力をお願いします。

また、千葉駅行きのスクールバスの要望やバス停を千葉キャンパス・千葉第二キャンパス用に2箇所設置して欲しいとの意見もいただきましたが、これら新たなスクールバス経路やバス停の設置につきましては、千葉市との協議が必要となります。現状、千葉市からは、蘇我駅前のバス停で乗車待ちをしている学生のマナーが悪いということで、撤去を求められており、これ以上のバス停の増設の要望に応えることは難しい状況であることを理解ください。

2. 学生生活などへの意見

学生生活他、学生厚生関係などへの意見としては、もっと友人を作るきっかけとなるイベントの開催、車通学、学生団体・サークル活動に関連する内容が多くありました。コロナ禍にあるため、十分な学生団体・サークル活動への勧誘活動等が展開出来ず、学生団体・サークルへ入るタイミングを逸してしまった学生もいることと思います。大学としては、学生団体・サークルへの入部機会となるよう、これまでも活動紹介の時間やチラシの配付活動時間の提供を行ってきています。2021年度の龍澤祭はオンライン・一部対面で実施されましたが、その際にも学生団体・サークルの活動紹介を各参加団体が行ってくれましたので、興味関心のある学生団体・サークルに接点を持つように学生の皆さんも協力ください。学生団体やサークルと接点を持ちたいが「どうしたらよいか分からない」という場合は、学生サポートセンター（学生厚生担当）に聞いてみるとよいでしょう。また、車通学についての要望も複数いただきました。しかし、学内に学生用の駐車場を確保することは現実的に難しい状況ですので理解ください。

この他、「学生が相談するシステムがあることは理解しているが、活用しづらい」との意見もありました。学生の相談相手としては、アドバイザー教員が一番身近な存在になるのではないかと思います。大学組織に相談するという手前で、アドバイザー教員に一言、相談してみてください。その後、適宜、必要な部署

にアドバイザー教員が繋いでくれると思います。

なお、大学生活が楽しいといった意見も多数寄せられました。大学は、学生が、お互いを尊重し合いながら成長していくための、自主的な活動を支援していく教育機関です。学生のみなさんの学生生活がより良いものとなるよう、学生の皆さんとの対話を大切にしたいと思っていますので、困っている状況がある場合は、アドバイザー教員にでも学生サポートセンターにでも、相談しやすいと感じた教職員に相談をして欲しいと思います。

3. 学費他、管理運営への意見

コロナ禍の影響から、オンライン授業も多いのに「学費が高い」などの意見が多くありました。関東地域の大学比較を行うと総学生数にもよりますが、本学の場合、真ん中よりは上のようなようです。ただ、オンライン授業に切り替えるために、本学も新たな設備を導入するなどし、学生の学習環境の維持に努めてきました。教室での対面授業を行っていないからといって、授業環境の維持にかかる費用が減少していることはありません。大学の施設・設備の維持管理をめぐっては、例年、一定の額が必要となることは、コロナ禍にあっても変わることはありません。また、コロナ禍での学生への緊急支援策として、全学生を対象とした「緊急学生支援金の支給」や「緊急学費減免制度」を行ってまいりました。大学として、引き続き学費に応じた教育内容や支援体制を充実すべく努力して参りたいと思いますが、「コロナ禍であるから大学の費用負担が少なくなるはずである」ということではないことも理解ください。

4. 教職員、事務局などへの意見

教職員や事務局などへの意見としては、学生指導・支援に対して少数意見ではありましたが、改善を希望する意見がありました。この意見を踏まえ、今後の指導体制の改善を図っていきたいと思います。その一方、「教職員が親身に相談にのってくれて有りがたかった」「教職員が親切に対応してくれるので淑徳大学で良かった」との意見もいただきました。

今後も、学生と真摯に向き合えるよう教職員一同努めていきたいと思います。

また、「S-Navi の配信数が多すぎる」との意見もいただきました。各部署から学生に情報を提供する必要性から、情報を受け取る学生の中には情報過多と感じている学生がいることだと思いました。この点、改善方法があるか検討していきたいと思っておりますが、各部署から情報発信をする必要性があることも理解ください。

5. 授業他、教務関係等への意見

今回、2番目に多く意見をいただいたのは、授業他、教務関係等への意見でした。コロナ禍にあり遠隔授業も実施されたことから、遠隔授業の内容の質について、Panopto に関して、課題の状況についての意見が多数寄せられました。千葉キャンパスにおいては、学長方針に基づき、授業に関する実施方針等について各教員（非常勤講師の先生方を含みます）に対して周知しておりますが、学生の皆さんから寄せられた貴重なご意見を踏まえ、引き続き、遠隔授業についても対面授業に相当する教育効果を維持できるよう対応して参ります。

また、Panopto による出欠に関する意見が寄せられました。現在のところ、学生サポートセンターや情報センターを中心に、システムの対応等を鋭意行っているところです。各授業において S-Navi 上の出欠登録について疑義がある場合は、ご自身で Panopto 内の視聴（完了）率を確認の上、授業担当教員に対して、学生の皆さんからメールにより問い合わせるようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の状況に応じて授業形態の変更等をせざるを得ないため、全ての授業が対面で授業を実施できることになるまでには、もう少しの期間が必要となることが予想されます。学生の皆さんから、「遠隔授業と対面授業の両立により、通常の対面授業のみの時より課題が増えて大変になっている」や「遠隔授業では授業内容が理解しにくい」との意見が寄せられたことについては、今後とも教員間で共有していきたいと思っております。また、対面授業についても、学生の皆さんがより積極的に学修に取り組める内容となるよう、引き続き検討をして参ります。

6. キャリア支援などへの意見

キャリア支援については、「キャリア支援の窓口を増やして欲しい（予約が取れない）」や「千葉県以外の就職活動の情報提供をもっと行って欲しい」との意見をいただきました。予約については、相談日時に余裕を持って申し込みをしてもらうなど、学生の皆さんにも協力してもらえると有りがたいです。また、千葉県以外の就職活動の情報提供を欲している学生がいることは大学としても理解しています。その情報を欲している学生に適宜情報を届ける事が出来るよう配慮しておりますので、そうした学生は、まず、キャリア支援センターにその旨を伝えて欲しいと思います。

7. その他の意見

今回の調査の自由回答記述には、大学への改善要望の意見のみならず、本学での学びに感謝をしているとする声が多数ありました。具体的には、資格取得のための講座の開設など大学に感謝をする意見が寄せられています。また、学部・キャンパスの枠を超えた学びを求め、他学部・他キャンパスとの学生との繋がりを求める意見も寄せられており、本学でより深い学びを得たいとする姿も見られる機会となりました。大学は少子高齢化に向け様々な取り組みを開始しております。グローバル社会における国際交流をはじめ、地域連携、地域貢献などを含め、学生の皆さんがこれから生きていく社会の中にもっとたくさんの活躍の場を作り、将来に活かしていただけるようサービスラーニングやボランティア活動などの機会を広げてきました。

昭和 40 年（1965 年）、淑徳大学は社会福祉学部社会福祉学科の単科大学として設置されて以降、現在は、6 学部 11 学科、大学院 2 研究科 3 専攻、総学生数約 4,700 名の中規模大学に成長しております。時代のニーズに応えながら形を変えてきましたが、「利他共生」という根本理念はまったく変わっていません。皆さんが卒業後、淑徳大学の卒業生であることを自負し、自信をもって大学名を語れる大学にしていくため、たゆまない努力と改革を今後も行っていきたいと考えています。

おわりに

学生の皆さんの意見やご要望を真摯に受け止め、大学における様々な取り組みを開始いたします。大学

の教職員だけでは対応しきれない部分においては、協力業者の方々へも支援を依頼し、改善・改革に向け対応して行きたいと考えております。「第8回学生生活実態調査」は、日々学生が感じている学生生活への思いに加え、コロナ禍の学校生活という視点から感じている困難さを確認することができました。これまでであれば当然のことでありました対面授業の実施が困難となり、学生もその対応に大変であったと感じています。

また、学生の皆さんからの自由記述に記載された大学側への改善要望の多くは、「こうなったら大学がより良く変わるのではないか」との趣旨によるものであったと思います。私たち教職員は、学生の皆さんから寄せられた意見を踏まえ、教職協働のもと、可能なことについては、出来るところから改善に向けた取り組みを進めて参りたいと思います。そのためには、学生の皆さんには大学の「思い（教育方針）」を理解していただき、協力をお願いする場面も出てくることと思います。その際には、協力いただけますようお願い致します。

学生生活実態調査の自由記述欄への対応について

(千葉第二キャンパス)

看護栄養学部長 茂野 香 お る
事務部長 櫻井 一 雄

「第8回学生生活実態調査」の結果のうち、自由記述で記載して頂いた「大学への要望や意見」に対する回答は以下の通りです。学生みなさんが記載してくれた要望や希望の全てについて対応することは難しいのですが、千葉第二キャンパスとしては可能な限り、できるところから改善を図っていきたいと考えております。

今後、皆さんからの意見や要望をもとに、以下のとおり、対応を検討してまいりたいと思います。学生の皆さんにおいては、引き続きご自身の夢や進路実現のため、これからも日々の学修に励んでいただきたいと思います。

今回は、自由記述を大きく以下の5つに分類し、各項目に意見を集約して対応策を記載いたしました。

千葉第二キャンパスとして集計した結果、今回の自由記述に意見を記載されていた方は210名でした。意見内容は複数の項目で意見があったため、内容を精査し、以下の項目ごとに分類（分類の集計は以下の通り）しました。これ以外に、「特に無い」又は「満足している」とお答え頂いた方は、今回の集計からは除外しております。

	項 目	意見件数	備 考
1.	施設・設備等への意見	319	
2.	授業他、教務関係への意見	35	
3.	学生生活等への意見	17	
4.	学費他、管理運営への意見	9	
5.	教職員、事務などへの意見	9	
	計	389	

※一人で複数項目の意見を出された方もいましたので、意見掲載者数と意見件数に差異があります。

1. 施設・設備などへの意見

① スクールバスに関して

今回、1番多かった記述がスクールバス運行への意見でした。バスの運行本数・混雑した密な車内・乗車時のマナーの悪さや乗車待ちの状況など苦言が寄せられています。その中でも一番多い意見は、バスの運行方法（ダイヤグラムや運行本数など）や、混雑に関する内容でした。バスの運行についてはコロナ禍の中、対面授業との関係で、一時的に混雑する状況がありましたが、時間割とバスダイヤを調整した結果、

現在は乗車定員の6割程度で運行しています。

お寄せいただいた意見を踏まえ、今後、運行形態・ダイヤおよび路線変更（千葉市との協議が必要）など、改善に向けた検討を進め、スクールバスの台数や乗車人数に限りはありますが、可能な限り利便性を高めて参りたいと思います。

なお、蘇我駅のスクールバス停において、1列で整列し、通行する方の邪魔にならないように、また、乗車マナーに関しては不快に思っている学生もおりますので、乗車時での大きな声での会話は控える等引き続き協力をお願いします。

② 学食などへの意見

「学食の座席数が足りない」「スペースが狭い」「値段が高い」「自動販売機の増設を希望する」「自動販売機での取扱商品を健康食品などに変えてほしい」などの意見を多く頂きました。マスクを外しての会話は感染リスクが高いため、黙食と食事後の速やかな退席（次の授業教室への移動）をお願いしています。ご協力いただければ幸いです。また、食事内容に対しても、学生アンケートの実施や学食業者に相談の上、今後はメニューの工夫や時間の掛からない軽食の提供なども順次対応します。

なお、自動販売機の「増設」「取扱商品を健康食品に変えてほしい」ですが、こちらについても、学生の皆さんのニーズを確認の上、業者と調整を進めます。

③ 施設の使用について

「コロナ禍なのに使用できる場所が限定されているので、多くの場所を開放して密にならないようにしてほしい」「使っていない教室や自習室を開放してほしい」「教室内のパーテーションを無くしてほしい。黒板が見えない」等の意見がありました。使用場所を制限しているのは、新型コロナウイルスによる感染者がいた際に、周囲にいる学生の皆さんの健康を守るとともに、感染を可能な限り広がらせないようにするためです。ご理解・ご協力いただきたくお願いします。また、教室内のパーテーションにつきまして、黒板（画面）が見づらいなどご不便をおかけしていますが、今後、新型コロナウイルス感染症が終息に向かえばパーテーションの除去を考えます。

2. 学生生活などへの意見

「スクールバス内やロッカー等でマナーの悪い学生が多い」との意見がありました。その他にもお困りのことがあればアドバイザーや学生相談室に相談してください。大学は学生皆さんの自主性を重んじる場所であり、その主体性や創造性を育む場所でもあります。個々を重視し、お互いが信頼しあい尊重し合える環境作りを考えてまいります。学生の皆さまも一人一人がマナーを守って、公共スペースを気持ちよく利用できるようにご協力ください。

コロナ禍で、体調に支障をきたしている方については、対面または ZOOM などを使ったアドバイザー面談や、学生相談の機会を設けています。心のケアについても、その対応をしております。

3. 学費他、管理運営への意見

「学費が高い」「学費が高い分それなりの教育・設備を期待する」「行かなかった実習の費用は戻らないのか」「登校しない日も多く施設を使ってもいないのに、余ったお金は何に使っているのか」等の意見が多くありました。大学として、引き続き学費に応じた教育内容や支援体制を充実すべく努力して参りたいと思います。また、コロナ禍での学生への緊急支援策として、全学生を対象とした「緊急学生支援金の支給」や「緊急学費減免制度」を行ってまいりました。

学費には、授業料、施設維持費等がありますが、いずれも学生が卒業するまでに納める費用の総額を所定在籍年数に等分して納入していただいているものです。したがって、「利用料」という考え方には立っていません。たとえば、施設を利用していない時でも、修繕、保守管理等の経費は発生しますし、学園（大学）の持続的発展に向けた、より良い教育（研究）環境の整備といった将来計画のための原資も必要です。このことはまた、現在使用されている施設設備等が、かつて在籍した学生・生徒の学費等の集積に依っていることからご理解いただけるものと思います。

また、実習に関しては、現地に行くことができず、代替えの方法をとらざるを得ないことが多々ありました。その場合でも、イメージがつくように実習先に出向き、さまざまな場面の映像を撮らせていただき、実習科目履修者の皆さんに映像を提供しています。通常の実習でもなかなか入れない現場の様子などが鮮明に理解できたと思います。また、実習施設の指導者とリモートでつなぎ報告を行ったり、タブレットの画面越しに患者さんや施設の利用者の方々と会話する場面を設けたりするなど、遠隔であっても実習のリアルさに極力近づける工夫をしています。実習費に関してはその際の謝礼や遠隔機器の購入等、さまざまな用途に使用しています。ご理解いただきますようお願いいたします。

4. 教職員、事務局などへの意見

教職員や事務局の対応についての要望および改善について意見がありました。その一方、「教職員が親身に相談にのってくれて有りがたかった」や「教職員が親切に対応してくれるので淑徳大学で良かったと思った」との意見もいただきました。今回頂いた意見に真摯に向き合い、学生本位の支援と対応による学生サービスと満足度の向上に努めます。

なお、1号館1階の落し物ボックス付近には、「学生の声」ボックスを設置しています。毎学期に行う授業アンケートや4年に1回行う学生生活実態調査では吸収できない授業の在り方や支援体制等について、「学生の皆さんの意見・要望等を常時間くことができる」ように設置されています。学生の皆さんがより良い授業や学生生活を受けられるように忌憚のない意見や要望をお寄せいただきたいと思います。

情報提供や皆さんへの対応は公平性を心がけて行なってまいります。

5. 授業他、教務関係等への意見

「課題が多い」「授業中の私語がうるさい」「先生の授業方法や対応の改善を希望する」などの意見がありました。教員間において今回の意見や要望等について共有し、話し合う機会を作り、その結果を公表して改善します。教育向上委員会では、教員間の授業参観等を行い、より学生がわかりやすい授業が受けられるように取り組んでいます。授業展開や方法も異なるため、難しいところもありますが、有意義で確実

に到達目標を達成できる授業展開を進めたいと思います。授業資料については、可能な限り「Google・Classroom」に掲載するなどの工夫をしてみたいと思います。

おわりに

2020 年 1 月以降、COVID-19 感染拡大により、学生の皆様におかれましては多くの制限の中で学生生活を送ってこられ、大変不自由な思いをされていることと思います。

これは、看護学科・栄養学科を擁する本学部においては新型コロナウイルス感染症が学内で流行しないよう、細心の注意を払っていたためです。一度クラスターが発生してしまうと、実習施設から受入れを拒否されることもあり、そのようなことにならないための選択でした。何卒ご理解いただきたく、お願いいたします。

今回の学生生活実態調査において、様々なことが確認できました。また、たくさんの大学側への意見や要望を頂きました。私たち教職員は、出来るところから様々な取り組みを進めてまいります。そのためには、学生の皆さんからこうした協力取り組みへの参画も不可欠になります。できるところからで大丈夫ですので、今後も引き続きご協力いただけますようお願い致します。

学生生活実態調査の自由記述欄への対応について

(埼玉キャンパス)

経営学部長	千葉千恵子
教育学部長	山田晋治
埼玉事務局長	小野寺利幸

「第8回学生生活実態調査」の結果のうち、自由記述で記載していただいた「大学への要望や意見」に対する回答は以下の通りです。学生みなさんに記載していただいた要望や希望の全てについて対応することは難しいのですが、埼玉キャンパスとしては可能な限り、できるところから改善を図っていきたいと考えております。

今回は、自由記述を大きく以下の5つに分類し、各項目に意見を集約して対応策を記載いたしました。

1. スクールバス（本数・停留所）について

スクールバスの運行数は、現在、過去の学生生活実態調査の声を反映して、週末を除いてみずほ台線5台・東所沢線4台で運行しております。また、曜日や試験期間、各種行事等の際には臨時増便する等の対応も行っております。1限の授業開始時刻に合わせた増便についてもご意見をいただきましたが、本年度後期より、乗車について実態調査を行った結果、70%を超える乗車率にはなっていないことを確認しております。みなさんには、計画運行のために早めに乗車場に到着され、時差による登校にご協力をお願いするとともに、授業開始時刻間際に到着する便についてはどうしても込み合う傾向にありますので、ゆとりを持った対応をお願いします。

また、併せて、令和元年度より、バスの運行に対し大幅な変更を行いました。コロナ禍となり、十分な対応ができていなかったことと思います。その結果、本年度後期より、実証実験を踏まえてバスダイヤの見直し等を図っております。

みずほ台バス停の移動についてもご意見をいただきました。現在のみずほ台バス停は平成30年度にみずほ台病院横からの移動となっております。これに伴い、渋滞を避ける運行ルートとなり、以前よりも若干ですが短い時間で大学に到着できるようになっております。しかし、駅からバス停が遠くなったことも事実です。

スクールバスの停留場は公共機関のバス停留所とは異なり、私有車を一時的に停車させ、乗降をする場所をお借りして設置しています。現在のみずほ台線の停留所は駅周辺の「西みずほ台商店会」から、公道での停留使用の許可をいただき利用させていただいているところです。

これらの事情から、みずほ台バス停の移転については難しい状況です。今後も安心・安全で快適なスクールバスの運行について研究してまいります。

2. 食堂・購買・売店について

前回の調査から引き続き、食堂・購買・売店はみなさんからの要望が多い項目でした。学生食堂の座席数は、シルクロード約 220 席、学生ホール約 100 席、2 号館学生ホール約 110 席、合計約 430 席を設置しておりました。現在は、新型コロナウイルス感染対策の観点から、全体の 2 割程度、座席数を減らしており、ご不便をおかけしております。

決まった時間帯で同時に食事をする環境としては十分とはいえない状況かもしれませんが、限られたキャンパス環境の中でより有効に利用できるよう今後も整備に向け検討してまいります。学生のみなさんも利用に当たっては譲り合いなどご協力ください。

食事の内容・メニュー・生協の食品については、安全、健康に配慮したものを重視して提供しております。その他の商品、メニュー開発、値段他についても、今後生協とともに検討してまいります。

3. コロナ感染予防対策について

コロナ禍において安心・安全なキャンパスライフを過ごしていただくために、次のような対策を行っております。

- 1) 組織的かつ迅速な対応のために安全対策実施本部会議を定期的に（月 1 回）実施。また必要に応じ臨時的に開催し、対応を協議し、実施。
- 2) 検温所（サーモカメラ検温機）を設置し検温実施証の自動発券機を採用。併せて主要場所に、赤外線対応顔認証検温器を設置。
- 3) 各所にパーテーションを設置し、飛沫感染対策を実施。
- 4) 全館約 60 か所に消毒液、トイレに除菌スプレアの設置。
- 5) 学生対応窓口等に 10 台の最新型空気清浄機を設置。
- 6) フェイスシールドの配布、教室壇上に飛沫感染シールドの設置。
- 7) ワクチン接種、感染予防対策等、学生・保護者等に必要な情報の告知。

今後も感染防止対策を徹底することに万全を期してまいります。みなさんの協力が何よりも必要となりますので、よろしくお願いいたします。

併せて、コロナ禍における、「行事決定が遅い」とのご意見をいただきました。本キャンパスでは、国・埼玉県の指導と併せて、独自に対応してまいりました。その中でも、学校行事は学生生活の中で重要なものと位置づけ、「実施しない」を簡単に決めるのではなく、「実施できる方法はないか」を模索してまいりました。その結果、結論を出すための時間がかかってしまったことは事実です。入学式もそうですが卒業式に至っては、埼玉キャンパスだけ、保護者の参加が出来るようにいたしました。大学生活最後の行事で、保護者の方の思いや卒業生の思いに少しでも寄り添い応える方法を取らせていただいております。今後についても、感染状況にもよりますが、今まで通り、「実施しない」を簡単に決めるのではなく、「実施できる方法はないか」を模索しながら検討してまいります。

4. パソコン等の利用について

① パソコン等の利用について

学内には、各教室および情報室、図書館に約 330 台のデスクトップ P C が設置されています。この内、学生の皆さんが利用できるパソコンは、約 280 台です。今年から、図書館における貸出用ノート P C 約 61 台が最新機種にリプレイス（更新）されています。また、コロナ禍に対応すべく P C ロッカーを設置し 23 台を設置し、新規に最新型ノート P C を導入しています。

今般、特に情報室におけるデスクトップ P C についてのご意見を多数いただきました。これらについても、将来的にリプレイス（更新）の計画を立て、実施してまいります。

② 学内 L A N 等について

コロナ禍となり、大学としてもネットワーク環境の脆弱性を認識しております。本年 7 月より学内ネットワークの再構築を進めておりますが、まだ完成に至っておりません。「繋がりにくい」、「途中で切れる」は教育環境下にあってはならないことだと認識しております。建物内に限りますが、何処にいても、無線 L A N が使用できるよう整備を進めてまいります。

③ 情報センターの活用について

本年 4 月より、大学情報センターを開設いたしました。P C や情報機器、授業に関わることの相談デスクも開設しております。お困りの節は、お気軽にご相談いただきますようお願いいたします。

5. 学生の学習及び学生生活について

① 授業中の私語等への対応について

「授業中の私語やスマートフォンの利用をもっと厳しく注意してほしい」という意見がございました。これは、意欲的に授業に臨む学生の学ぶ権利を奪う行為です。担当教員は私語をやめない学生を教室の外へ出す処置も可能です。大学としては全教員に、厳しく対応するお願いをしています。しかし、気になる状況が続く場合は、学生総合相談支援室か学事部に連絡してください。速やかに対応を検討いたします。

② 事務局に関することについて

職員の対応や窓口受付時間についてのご意見をいただきました。職員は、学生のみなさんが、大学生としての自覚を持ち、社会人として自立するためのサポートに努め、みなさんが安心感、信頼感及び満足感を得られる対応を目指し、今回いただいた意見を真摯に受け止め、対策に努めてまいります。また、公平かつ丁寧で親切な対応を心掛け、学生のみなさんが利用しやすい環境の事務局となるように努力してまいります。

ただし、これらはすべてを許容するという意味ではなく、社会人の先輩として、人として指導させていただくこともサポートの一つだと考えておりますことを申し添えたいと存じます。

キャリア支援についても複数のご意見をいただきました。総合キャリア支援室では、キャリアカウンセラーが常駐しており、3・4 年次の就職活動の際だけでなく、1 年次から将来のことについて相談できる場所となっております。また、企業の求人票や進路について考えるための本・新聞などを自由に閲覧する

ことができます。都度、学内セミナーやイベントを企画・実施しております。S-N a v i で案内告知しておりますので、大いに活用していただければと思います。

③ 施設設備・環境整備について

1) 3号館トイレリニューアルについて

「3号館トイレが暗くて使用しにくい」というご意見をいただいております。大学としても、検討・計画しており、本年7月～9月に、全面改修工事を実施し、「明るく使用しやすい」トイレを目指し、全面リニューアルしました。LED照明の設置で照度を高めるとともに、木目調の壁面を施し、便器の洋式化や手洗い場の非接触化など、今般の感染症対策等の観点にも留意しました。

2) 体育館改修工事について

昨年、体育館の床面の改修工事を行い、安全で快適な環境作りを行いました。併せて、本年は、一部、雨漏りなどの状況があり、本年7月より改修・補修工事を実施しております。コロナ禍で使用、利用できない状況がありましたが、快適な環境作りを目指してまいりたいと思います。

3) キャンパスの環境整備について

今般、いただいたご意見をもとに、必要に応じて出来るところから環境整備等に着手してまいりたいと考えております。学生のみなさんの声を大切に、真摯に受け止め、キャンパスにおける学生生活が有意義に過ごせる環境・場所作りに取り組んでまいりたいと思います。

おわりに

今回の学生生活実態調査において、様々なことが確認できました。また、たくさんの大学側への意見や要望をいただきました。そうした学生のみなさんからの自由記述は、「もっと良くなってほしい」との願いであったと思います。私たち教職員は、こうした意見をもとに教職協働のもと、出来る限り速やかに取り組を進めてまいります。

学生のみなさんには、ときにこうした取り組みについて、積極的な参画をお願いすることがあるかと思っています。もちろん、みなさんができるところからで構いません。引き続き、ご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

学生生活実態調査の自由記述欄への対応について

(東京キャンパス)

人文学部長 星 野 英 樹
東京事務局長 上 田 哲 夫

「第 8 回学生生活実態調査」の結果のうち、自由記述で記載して頂いた「大学への要望や意見」に対する回答は以下の通りです。学生のみなさんが記載してくれた要望や希望の全てについて対応することは難しいのですが、東京キャンパスとしては可能な限り、できるところから改善を図っていきたいと考えております。

今回の調査では、特に、昨年度来続くコロナ禍におけるみなさんの学生生活に関するご意見を頂けたことは、今後の大学の運営に重要な意味を持っていると思います。感染症対策と対面授業、遠隔授業とその教育方法の充実など、本キャンパスにおきましては全力で取り組んでまいりましたが、みなさんのご意見を活かしつつ、今後もより一層充実した教育を展開したいと考えています。

今回は、自由記述を 4 項目に分類し、各項目に意見を集約して対応策を記載いたしました。

1. 施設・設備（学食・図書館等）などへの意見

① 図書館

図書館に関しては「教室から遠い」「出張図書館的なことをしてほしい」「図書館などの資料取り寄せ料金を無料にして欲しい」「電子書籍を増やしてほしい」「日曜日も開館してほしい」などの意見がありました。図書館が教室から遠いというご意見はこれまでも頂いておりますが、これは東京キャンパス自体が前野町の住宅地の中に散在しているという制約によるもので、簡単に解決できるものではありません。そのような中ですが、現在は学生が借りた書籍を図書館まで行かなくても返却できるよう「図書返却ボックス」を設置しています。これまでは 1 号館と 4 号館の 2 ヶ所に設置されていましたが、2021 年 6 月には新たに 6 号館にも設置するなど、できる限りの利便性向上に努めています。また、図書館に行かなくても図書館で新しく購入した書籍の情報が入手できるよう、他の校舎に新着図書の掲示を行い情報提供に努めています。これらも活用頂ければ幸いです。今後も、学生のみなさんが少しでも図書館が利用しやすくなるよう取り組んで行きます。個々人の資料取り寄せ料金は有料となりますが、必要な書籍がありましたら、是非、図書リクエストをしてみてください。購入の検討もいたします。電子書籍については、本学図書館でも随時購入するよう努めております。一度、蔵書を点検してみてください。これからも増やして行くつもりです。日曜日の開館については、授業日以外の開館となると、職員の手配や光熱費などのコストが新たに発生しますが、それに対してどれだけ学生さんに来て頂けるのか考える必要があります。学生のみなさんにとって、新たな図書を購入し蔵書を充実させるのがよいのか、新規購入の図書を減らしても日曜日に開館するのがよいのかなど、様々な観点からの検討が必要です。これからも学生のみなさんの声に耳を傾けながら、最善の方法を模索して行きます。

② ICT 環境

「7 号館と図書館に Wi-Fi を通して頂きたいです」「Wifi を強くして欲しい」「PC 室の PC の起動が遅い」という意見がありました。各教室の Wi-Fi 環境や PC 室の PC に関しましては、情報センターとも協力し、順次整備を進めて行く予定です。

③ 学食・売店

学食に関しては、コロナ禍のなかで制限している飲食スペースについて「飲食スペースをふやして欲しい」「無料飲料スペースを早く開放して欲しい」「食堂のもともとのメニューを出して欲しい」「学食がプラスチック容器に変わっているが、環境のことを考えて食器にしてほしい」などの意見を頂きました。コロナ禍の中、大学としては学生のみなさんの安全を第一に考えて対応しています。まずこの点をご理解頂ければと思います。飲食スペースにつきましては、これからも感染症の拡大状況を勘案しつつ、感染防止対策をしっかりととりながら、可能な限りスペースを増やすよう検討して行きます。また、全面開放までは時間がかかるとお思いますので、食事が終了した方はすぐに席を譲って頂くなど、学生のみなさんにも協力して頂きながら飲食スペースの確保を行って行きたいとお思います。また、メニューや食器、売店の商品の拡充については、今後の感染状況も注視しつつ、食堂業者と相談しながら、適宜最善の対応を考えて行きます。

④ 喫煙所

「喫煙所の場所は、煙を吸いたくない人のことを配慮してほしい」「喫煙所が近いので授業を受けている最中にタバコの臭いがするときがあります。換気のため窓を開けるのは仕方ないですが、集中できないことがあります」という意見がありました。喫煙所の設置場所につきましては、学生のみなさんが気持ちよく大学生活が送れるよう検討して行きます。少しお時間を頂ければと思います。

2. 学生生活などへの意見

① サークル活動

サークル活動に関してはコロナ禍での制限があったために「サークルが早くやりたいです」「少人数利用ならサークル等で使える施設の貸し出しの許可が取れるようにして欲しい」「サークル等で録音や演劇の練習をしたいのに施設が十分に使えないのが不満」などの意見がありました。サークルの活動再開については、安全対策実施本部が定期的に状況判断を行っており、フェーズに合わせて感染症対策の徹底を前提に、順次再開しています。サークルの施設利用については、安全対策実施本部が定期的に状況判断を行っており、利用可能な施設もあります。現状に合わせ、使用可能な施設を利用してください。なお、PC ルームは授業で使っていない時間帯は、予約表に記入することで使用可能です。また、共有スペースの 6 号館学食、5 号館学生ホールはご自由にご利用頂けます。また、「サークルを増やしてほしい」という意見もありました。サークルの設立は大歓迎です。是非、学生主体で積極的に所定の手続きを行い、サークルを増やしてください。なお、「講義やサークルなど、他キャンパスとの交流をしたかった」という積極的な意見を頂きました。現在は、コロナウイルス感染症によってなかなか実現するのは難しいですが、感染状況を見ながら、検討していきます。

② その他

2021年7月には一人暮らしの学生対象のイベントを実施し、「充実した時間を過ごすことができました」という感想を頂きました。今後も楽しい学生主体イベントを開催できるよう取り組んで参ります。希望や要望があれば、ぜひ学事部までお寄せください。「ボランティアの種類をもう少し増やして欲しい」という意見もありました。感染症の状況を見極めながら、少しずつ再開したいと思っています。

3. 授業他、教務関係等への意見

① 授業方法について

コロナ禍のなか、遠隔授業の実施、また対面授業再開に際しての感染症対策への対応など、授業方法については学生のみなさんだけでなく、教員・職員皆はじめて経験することばかりでした。東京キャンパスでは、全学方針に則ったうえで、東京都や地域の感染状況を踏まえ、安全対策実施本部を立ち上げ、新型コロナウイルス感染症の状況のほか、授業内容、教室の収容定員、感染症対策の有無などから総合的に判断し、長時間にわたる議論を経た上で、方針を定めてきました。コロナ禍での授業の方法について、本調査では「オンライン講義に対して不満が募る」「コロナ感染リスクが最も高いので、オンライン授業にして欲しい」「コロナ禍で毎日都内に通うのは正直怖い」など学生のみなさんから相反するご意見が寄せられました。遠隔と対面の授業を両立させるために、教職員も多くの課題に取り組み、また、教職員同士の研修（FD）を何度も開催し、専任・非常勤問わず、お互いの教育方法を不断に振り返るため努力を続けてきました。学生のみなさんも、様々な授業方法に対応するとともに、自らの得意・不得意を判断しながら、科目履修の際に、シラバスなどを読んで遠隔と対面のバランスを取るなど工夫して頂ければと思います。なお、「対面授業を行なっているのに授業によって課題の量が多くて、オンデマンドの課題もあるので大変です」という意見もありました。こちらもどのような授業前・授業後の課題の出し方が適切か、FDを通じて教職員間で今後検討して行きます。なお、個別の授業の方法についてのご意見は各学期で実施する「授業アンケート」へのご回答も検討頂ければと思います。

② 授業関連

東京キャンパスでは感染症対策として「健康観察記録ノート」を導入しています。これに対して「健康観察記録ノートをなくしてほしい」「S-navi 等とデータを紐付けしてデジタル管理できないのだろうか」というご意見を頂きました。健康観察記録ノートは入構チェックのみだけでなく、学生のみなさんがノートに記録することにより、日々ご自身の体調管理に留意して頂くための意識醸成としても活用しております。2021年度対面授業再開にあたり、そのような目的からデータ管理ではなく冊子という媒体で一人一冊配布することとなりました。一人一人の心がけが、東京キャンパスで過ごすみなさん、ひいては社会全体の感染対策に繋がります。キャンパスで学ぶ全員の健康のためにも、ご理解・ご協力をお願いいたします。

教室内については、「アクリル板があり、縦に長い教室だと前のスクリーンが反射で全くみえません」という情報がありました。キャンパス内で情報共有いたしたいと思います。ありがとうございました。

時間割について「必修科目を1限と5限にしないでほしい」という意見もありましたが、時間割については年度、学年、学科、必修/選択科目等、様々な条件のもと、決定しています。学生のみなさんの個々の状況により、それぞれご要望が異なると思いますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

4. 教職員、事務局などへの意見

「事務職員が冷たく、問い合わせに対して不親切」「対応が雑」というご意見がありました。窓口対応時にご不快な思いをされましたとのこと、申し訳ございません。ご意見を真摯に受け止め、丁寧で誠実な対応を行うよう、今後も努めて参ります。

また、「学生と教員が話せる機会を増やしてほしい」という意見もありました、前期、後期とも「オフィスアワー」を毎週設定していますので、各教員に事前に確認し面談、相談の時間を活用していただければと思います。

5. キャリア支援などへの意見

「キャリア関係のイベント・ガイダンスを昼休み以外の時間にも開催して欲しい」「キャリア支援室にメディア関係のキャリアについてもっと情報がほしい」「ガイダンスの事務連絡をはやくして欲しい」などの意見がありました。キャリア支援ガイダンスについては、極力全学生が参加出来る時間帯を考慮し、授業時間帯との重複がないよう設定しています。今後は、当日参加出来なかった学生に対する講座のオンデマンド配信等も検討して参ります。また、メディア関連の業界理解の一環として、マスコミ系インターンシップを実施していましたが、コロナ禍となり昨年度、今年度は実施を見送りました。状況が落ち着きましたらインターンシップを再開する予定ですので、そちらへの参加をご検討ください。事務連絡につきましては、年間のキャリア支援ガイダンススケジュールを大学 HP に掲示しており、また、新学年のオリエンテーションでも配布をしております。是非、年度のはじめに年間スケジュールをご確認ください。スケジュールや実施方法の変更につきましては、実施の二週間前を目途に周知が出来るよう、徹底して行きます。

おわりに

この二年間のコロナ禍での学生生活は学生のみなさん、教職員ともに、これまで経験しなかったことで、学生のみなさんには授業・学生生活の面でご不便をおかけすることとなってしまいました。今回の学生生活実態調査を行うことによって、学生のみなさんの様々なご意見を伺うことができましたので、今後、これらを活かしながら、よりよい学生生活を送って頂けるよう、教職員一丸となってしっかりと取り組んで行きたいと思っています。そのためには、学生のみなさんの様々な取り組みへの積極的協力も不可欠です。学園祭実行委員やアドスタッフ、図書委員等の大学行事や委員会活動にも是非参加して頂きたいと思います。今後も引き続き、ご協力くださいますようお願いいたします。

IV. 「第 8 回淑德大学学生生活実態調査」 調査票

画面リンク 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

主催：淑徳大学学生生活実態調査委員会

学生生活に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いいたします。



【プライバシーポリシー】

本学では、平成5年より4年ごとに学生生活実態調査を実施しており、
今年は8回目になります。

この調査は、淑徳大学で学ぶ皆さんが、どのような学生生活を送っているのかを明らかにし、
大学の設備や厚生施設、教職員の対応などを改善していくことを目的としています。

調査の趣旨をご理解の上、ぜひご協力をお願いします。

回答の結果は全て統計的に処理されますので、
個人が特定される形で公表されたり、
この回答の結果によりあなたが何らかの不利益を受けたりすることは絶対にありません。

C1 100%

設問は最大全14問あります。10分程度で回答できると思います。
回答は、あてはまる各選択肢を選択するか、
具体的な記入を求める設問は直接記入してお答えください。

ここでご改ページ

Q1
あなたの所属の学部・学科について、該当するものを選んでください。

① 総合福祉学部

① 社会福祉学科

② 教育福祉学科

③ 実践心理学科

④ コミュニティ政策学科

⑤ 看護学部

⑤ 看護学科

⑥ 栄養学科

⑦ 経営学部

⑦ 経営学科

⑧ 観光経営学科

⑨ こども教育学科

⑩ 歴史学科

⑪ 表現学科

ここでご改ページ

Q2
あなたの学年について、該当するものを選んでください。

① 1年生

② 2年生

③ 3年生

④ 4年生

⑤ その他

ここでご改ページ

Q3
あなたの性別について、該当するものを選んでください。

① 男

② 女

③ その他

④ 答えたくない

ここでご改ページ

Q4
あなた自身のことについて
淑徳大学を選んだ動機について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）

① 所属する学科・コースの専門的な勉強がしたかった

② 専門以外の科目も勉強できと思った

③ 免許や資格を取得できと思った

④ 将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった

⑤ 実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた

⑥ 自分の勉強したい科目がある

⑦ 伝統や建学の精神に魅力を感じた

⑧ 海外留学・研修に魅力を感じた

⑨ サークル活動や課外授業に魅力を感じた

⑩ キャンパスの施設、設備が気に入った

⑪ 就職率が高い、もしくは就職先が良い

⑫ オープンキャンパスに参加し印象良かった

⑬ 高校や予備校の先生にすすめられた

⑭ 友人や先輩にすすめられた

⑮ 家族や親類にすすめられた

⑯ 自分の学力に合っていた

⑰ 自宅から通学できる

⑱ その他 (必須入力)

ここでご改ページ

Q5
あなたにとっての瀬徳大学の志望順位について、あてはまるものを選んでください。

① 第1志望だった
② 第2志望だった
③ 第3志望以下だった

..... ここまで改ページ

Q6
現在、あなたはアルバイトをしていますか。

① している
② していない

..... ここまで改ページ

Q7
大学の授業のある期間（4月～7月）の、週あたりの平均アルバイト時間はどれくらいですか。

① 10時間未満
② 10時間以上～20時間未満
③ 20時間以上～30時間未満
④ 30時間以上

..... ここまで改ページ

Q8
アルバイト代は月額で約いくらですか。
※複数のアルバイトをしている場合は合計額でお答えください。

① 1万円未満
② 1万円以上～4万円未満
③ 4万円以上～7万円未満
④ 7万円以上～10万円未満
⑤ 10万円以上

..... ここまで改ページ

Q9
あなたの情報環境や生活について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

① スマートフォンをもっている
② 自分専用のパソコンがある
③ 自分専用のタブレットがある
④ 家族と共有のパソコンがある
⑤ 家族と共有のタブレットがある
⑥ 自宅に常時接続のネット回線（有線・無線）がある
⑦ 自宅では新聞を購読している
⑧ テレビのニュースをよく見ている
⑨ 部活・サークルに加入している
⑩ 大学にハラスメントの相談窓口があることを知っている
⑪ 授業期間中は、ひとり暮らし（学生寮等を含む）である

① あてはまる
② あてはまらない

..... ここまで改ページ

Q10
あなたの日常生活の習慣や学習、友人関係等について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

① 朝食を毎日食べている
② 運動の習慣がある
③ 喫煙の習慣がある
④ 飲酒の習慣がある
⑤ 大学の成績はよい方だと思う
⑥ 同じ学科の同学年の人と比べて、勉強時間は長い方だと思う
⑦ 大学を退学・休学したいと思ったことがある
⑧ S-Naviのメールは必ず目をととしている
⑨ 大学に入学者、新しい友人ができた
⑩ 大学内の友人関係に悩みがある
⑪ 大学内に悩みごとを相談できる友人がいる
⑫ 大学内に悩みごとを相談できる教職員がいる

① あてはまる
② ややあてはまる
③ あまりあてはまらない
④ あてはまらない

..... ここまで改ページ

Q11

大学の教育環境や設備・サービスについて

大学の教育環境などの満足度について、以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。
(なお、設備やサービスなどに関して、あなたがこれまで一度も利用していない場合は、「該当しない」を選択してください。)

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/20

1

授業の時間割

▼

2

履修指導・履修相談

▼

3

遠隔授業の受講のしやすさ

▼

4

教員の学生への対応

▼

5

オフィス・アワーの利用しやすさ

▼

6

事務局職員の学生への対応

▼

7

図書館・図書室の開館時間

▼

8

図書館・図書室の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）

▼

9

パソコンが設置されている教室の利用時間

▼

10

利用できるパソコンの台数

▼

11

食堂の快適さ

▼

12

学生が自由に使えるスペース

▼

13

購買・売店の使いやすさ

▼

14

サークル部室（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ

▼

15

グラウンド（更科・生実町・埼玉・坂戸）の使いやすさ

▼

16

スクールバス（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ

▼

17

保健相談室（千葉・埼玉・東京）・保健室（千葉第二）の利用のしやすさ

▼

18

学生相談室（千葉・千葉第二・東京）・学生総合相談支援室（埼玉）の利用のしやすさ

▼

19

キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の利用のしやすさ

▼

20

キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の支援プログラムや就職イベント

▲

①

満足

②

やや満足

③

やや不満

④

不満

⑤

該当しない

ここ改ページ

Q12

大学への評価

淑徳大学の強みや良い点、高校生等に薦めたい点について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

① 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/23

(1) 教員や職員について

1

教員が熱心であり親身に関わってくれる

▼

2

教員の指導が手厚く、授業がわかりやすい

▼

3

学生と教員の距離が近く、相談しやすい

▼

4

職員が熱心であり親身に関わってくれる

▼

5

職員の対応が細やかであり、サポートが丁寧である

▼

6

学生と職員の距離が近く、相談しやすい

▼

(2) 教育全般について

7

公務員や教員、国家試験等の対策講座等が充実している

▼

8

教室内での講義だけでなく、実践的な学びができる

▼

9

専門的な学習が充実している

▼

10

アクティブラーニングやグループワークが多い

▼

11

正課外授業や学外研修、海外研修等の多種多様な学修プログラムがある

▼

12

障がいがある学生も学びやすい環境である

▼

(3) 学内の友人・サークルについて

13

多くの学生が親切、優しい、温かい

▼

14

仲間や友人から得られる学びが大きい

▼

15

サークルが充実している

▼

(4) 建物・設備・備品について

16

キャンパスが広すぎず利用しやすい

▼

17

学食が安くおいしい

▼

18

校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている

▼

19

リラクセスできる空間が多い

▼

(5) 淑徳大学の理念等について

20

建学の精神「利他共生」にもとづいた教育が実践されている

▼

21

建学の精神「利他共生」を理解できてきた

▼

22

学内全体がアットホームな雰囲気である

▼

23

ボランティアの募集等の情報が充実している

▲

①

あてはまる

②

ややあてはまる

③

あまりあてはまらない

④

あてはまらない

ここ改ページ

- 74 -

Q13

総合評価

あなたの全体的な評価について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

▶ 前一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/2

1

あなたは全体的に、淑徳大学をどう評価していますか

▼

2

あなたは全体的に、自分の学生生活をどう評価していますか

▲

①

満足

②

やや満足

③

やや不満

④

不満

.....✂

ここで改ページ

.....

Q14

淑徳大学への要望や意見を自由に書いて下さい。（全角500文字以内）

0/500文字

.....✂

ここで改ページ

.....

アンケートは以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送 信

内容に関するお問い合わせ：淑徳大学学生生活実態調査委員会

学生生活に関するアンケート

選択肢記号の説明

- ☐ 複数選択（チェックボックス）
- ☐ 単一選択（ラジオボタン）
- ☐ 単一選択（プルダウン）

SAR

Q1

あなたの所属の学部・学科について、該当するものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 社会福祉学科
- ☐ 2. 教育福祉学科
- ☐ 3. 実践心理学科
- ☐ 4. コミュニティ政策学科
- ☐ 5. 看護学科
- ☐ 6. 栄養学科
- ☐ 7. 経営学科
- ☐ 8. 観光経営学科
- ☐ 9. こども教育学科
- ☐ 10. 歴史学科
- ☐ 11. 表現学科

SAR

Q2

あなたの学年について、該当するものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 1年生
- ☐ 2. 2年生
- ☐ 3. 3年生
- ☐ 4. 4年生
- ☐ 5. その他【FA】

Q2_5FA

SAR

Q3

あなたの性別について、該当するものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 男
- ☐ 2. 女
- ☐ 3. その他
- ☐ 4. 答えたくない

MAC

Q4

淑徳大学を選んだ動機について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった
- ☐ 2. 専門以外の科目も勉強できと思った
- ☐ 3. 免許や資格を取得できと思った
- ☐ 4. 将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった
- ☐ 5. 実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた
- ☐ 6. 自分の勉強したい科目がある
- ☐ 7. 伝統や建学の精神に魅力を感じた
- ☐ 8. 海外留学・研修に魅力を感じた
- ☐ 9. サークル活動や課外授業に魅力を感じた
- ☐ 10. キャンパスの施設、設備が気に入った
- ☐ 11. 就職率が高い、もしくは就職先が良い
- ☐ 12. オープンキャンパスに参加し印象が良かった
- ☐ 13. 高校や予備校の先生にすすめられた
- ☐ 14. 友人や先輩にすすめられた
- ☐ 15. 家族や親類にすすめられた
- ☐ 16. 自分の学力に合っていた
- ☐ 17. 自宅から通学できる
- ☐ 18. その他【FA】

Q4_18FA

SAR

Q5

あなたにとっての淑徳大学の志望順位について、あてはまるものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 第1志望だった
- ☐ 2. 第2志望だった
- ☐ 3. 第3志望以下だった

SAR

Q6

現在、あなたはアルバイトをしていますか。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. している
- ☐ 2. していない

SAR

Q7

大学の授業のある期間（4月～7月）の、週あたりの平均アルバイト時間はどれくらいですか。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 10時間未満
- ☐ 2. 10時間以上～20時間未満
- ☐ 3. 20時間以上～30時間未満
- ☐ 4. 30時間以上

SAR

Q8

アルバイト代は月額で約いくらですか。
※複数のアルバイトをしている場合は合計額でお答えください。

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. 1万円未満
- ☐ 2. 1万円以上～4万円未満
- ☐ 3. 4万円以上～7万円未満
- ☐ 4. 7万円以上～10万円未満
- ☐ 5. 10万円以上

MTS

Q9

あなたの情報環境や生活について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

- | | |
|-------|-------------------------------|
| Q9S1 | 1. スマートフォンを持っている |
| Q9S2 | 2. 自分専用のパソコンがある |
| Q9S3 | 3. 自分専用のタブレットがある |
| Q9S4 | 4. 家族と共有のパソコンがある |
| Q9S5 | 5. 家族と共有のタブレットがある |
| Q9S6 | 6. 自宅に常時接続のネット回線（有線・無線）がある |
| Q9S7 | 7. 自宅では新聞を購読している |
| Q9S8 | 8. テレビのニュースをよく見ている |
| Q9S9 | 9. 部活・サークルに加入している |
| Q9S10 | 10. 大学にハラスメントの相談窓口があることを知っている |
| Q9S11 | 11. 授業期間中は、ひとり暮らし（学生寮等を含む）である |

選択肢リスト

- ☐ 1. あてはまる
- ☐ 2. あてはまらない

MTS

Q10

あなたの日常生活の習慣や学習、友人関係等について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q10S1	1. 朝食を毎日食べている
Q10S2	2. 運動の習慣がある
Q10S3	3. 喫煙の習慣がある
Q10S4	4. 飲酒の習慣がある
Q10S5	5. 大学の成績はよい方だと思う
Q10S6	6. 同じ学科の同学年の人と比べて、勉強時間は長い方だと思う
Q10S7	7. 大学を退学・休学したいと思ったことがある
Q10S8	8. S-Naviのメールは必ず目をとおしている
Q10S9	9. 大学に入学後、新しい友人ができた
Q10S10	10. 大学内の友人関係に悩みがある
Q10S11	11. 大学内に悩みごとを相談できる友人がいる
Q10S12	12. 大学内に悩みごとを相談できる教職員がいる

選択肢リスト

- 1. あてはまる
- 2. ややあてはまる
- 3. あまりあてはまらない
- 4. あてはまらない

MTS

Q11

大学の教育環境などの満足度について、以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。
(なお、設備やサービスなどに関して、あなたがこれまで一度も利用していない場合は、「該当しない」を選択してください。)

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q11S1	1. 授業の時間割
Q11S2	2. 履修指導・履修相談
Q11S3	3. 遠隔授業の受講のしやすさ
Q11S4	4. 教員の学生への対応
Q11S5	5. オフィス・アワーの利用しやすさ
Q11S6	6. 事務局職員の学生への対応
Q11S7	7. 図書館・図書室の開館時間
Q11S8	8. 図書館・図書室の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）
Q11S9	9. パソコンが設置されている教室の利用時間
Q11S10	10. 利用できるパソコンの台数
Q11S11	11. 食堂の快適さ
Q11S12	12. 学生が自由に使えるスペース
Q11S13	13. 購買・売店の使いやすさ
Q11S14	14. サークル部屋（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ
Q11S15	15. グラウンド（更科・生実町・埼玉・坂戸）の使いやすさ
Q11S16	16. スクールバス（千葉・千葉第二・埼玉）の使いやすさ
Q11S17	17. 保健相談室（千葉・埼玉・東京）・保健室（千葉第二）の利用のしやすさ
Q11S18	18. 学生相談室（千葉・千葉第二・東京）・学生総合相談支援室（埼玉）の利用のしやすさ
Q11S19	19. キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の利用のしやすさ
Q11S20	20. キャリア支援センター（千葉）・総合キャリア支援室（埼玉）・キャリア支援室（千葉第二・東京）の支援プログラムや就職イベント

選択肢リスト

- 1. 満足
- 2. やや満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. 該当しない

MTS

Q12

淑徳大学の強みや良い点、高校生等に薦めたい点について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q12S1	1. 教員が熱心であり親身に関わってくれる
Q12S2	2. 教員の指導が手厚く、授業がわかりやすい
Q12S3	3. 学生と教員の距離が近く、相談しやすい
Q12S4	4. 職員が熱心であり親身に関わってくれる
Q12S5	5. 職員の対応が細やかであり、サポートが丁寧である
Q12S6	6. 学生と職員の距離が近く、相談しやすい
Q12S7	7. 公務員や教員、国家試験等の対策講座等が充実している
Q12S8	8. 教室内での講義だけでなく、実践的な学びができる
Q12S9	9. 専門的な学習が充実している
Q12S10	10. アクティブラーニングやグループワークが多い
Q12S11	11. 正課外授業や学外研修、海外研修等の多種多様な学修プログラムがある
Q12S12	12. 障がいがある学生も学びやすい環境である
Q12S13	13. 多くの学生が親切、優しい、温かい
Q12S14	14. 仲間や友人から得られる学びが大きい
Q12S15	15. サークルが充実している
Q12S16	16. キャンパスが広すぎず利用しやすい
Q12S17	17. 学食が安くおいしい
Q12S18	18. 校舎や施設が綺麗、清潔、清掃が行き届いている
Q12S19	19. リラックスできる空間が多い
Q12S20	20. 建学の精神「利他共生」にもとづいた教育が実践されている
Q12S21	21. 建学の精神「利他共生」を理解できてきた
Q12S22	22. 学内全体がアットホームな雰囲気である
Q12S23	23. ボランティアの募集等の情報が充実している

選択肢リスト

- 1. あてはまる
- 2. ややあてはまる
- 3. あまりあてはまらない
- 4. あてはまらない

MTS

Q13

あなたの全体的な評価について以下の項目からそれぞれあてはまるものを選んでください。

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q13S1	1. あなたは全体的に、淑徳大学をどう評価していますか
Q13S2	2. あなたは全体的に、自分の学生生活をどう評価していますか

選択肢リスト

- 1. 満足
- 2. やや満足
- 3. やや不満
- 4. 不満

FAL

Q14

淑徳大学への要望や意見を自由に書いて下さい。（全角500文字以内）

▲ 設問文を折りたたむ

Q14FA

おわりに

1993 年以来 4 年ごとに行われてきました学生生活実態調査は、今回で 8 回目となりました。今回の調査にあたっては、「授業アンケート」や「学修行動調査」など、全学統一の形で実施されてきています調査内容との重複をできるだけ避けるようにしました。また、調査項目の検討では、「淑徳の強み」の見える化やコロナ禍での学生の生活実態を把握する、遠隔授業の情報把握として、パソコン等の保有状況を把握するなどの視点から見直しを図り、大学生活の状況、大学生活の悩み、学生生活への満足度、大学への要望・意見など、具体的な調査項目を作成しました。

調査の実施では学生が回答しやすいように、株式会社マクロミルのオープンリサーチ・システムを使用し、Web 調査により実施いたしました。特に、今回の調査では初めて、携帯電話からでも回答ができるように改善し、回答率の目標を 8 割以上としました。一方、回答者数の確保が心配されるため、授業等の際に何度となく、学生に対して調査実施についての案内並びに協力の要請を行うなど、学生の方々には繰り返し回答を促すこともいたしました。その結果、有効回答率は 6 学部で 3,825 人（80.4%）となり、回答率の目標を達成することができました。回答に協力していただいた学生の皆さんと、調査実施にご協力いただいた教職員の皆さまに心より感謝申し上げる次第です。

多数の学生から回答をいただけたことから、本報告書の内容は、本学の学生生活を正しく反映している可能性が高いものとなったと思われます。今後の学生生活改善のため、全学、学部、学科それぞれのレベルでの取り組みに、役立てていただけることを願っております。なお、本報告書は選択式回答の結果と、自由回答の意見や要望に対しての「各キャンパスの回答」を掲載しております。自由回答の一つひとつについては、その数が膨大であり紙面の都合により割愛しております。

最後に、限られた時間の中で、調査票の作成および報告書の執筆に多大なご尽力をいただいた第 8 回学生生活実態調査委員会の委員諸氏に、心より感謝申し上げる次第です。

第 8 回淑徳大学学生生活実態調査委員会

委員長 加藤 尚裕

第8回 淑徳大学学生生活実態調査委員会

委員長 加藤 尚裕 副学長、教育学部 教授
副委員長 渋谷 哲 大学政策専門委員、総合福祉学部 教授
副委員長 山本 功 学長特別補佐、コミュニティ政策学部教授

委員 黒川 雅子 総合福祉学部 教授
田中 秀子 看護栄養学部 教授
蘇武 伸吾 教育学部 教授
村松 弘一 人文学部 教授
松崎 滋 千葉キャンパス 学事部 課長補佐
加藤 尚彦 千葉第二キャンパス 事務部 課長補佐
ヤマカワ レイコ 埼玉キャンパス 学事部
江島 一弥 東京キャンパス 学事部 部長
中西 規之 IR推進室 課長
荒木 俊博 大学改革室 課長補佐

第8回 淑徳大学学生生活実態調査報告書

発行 2021（令和3）年11月30日
発行者 第8回 淑徳大学学生生活実態調査委員会
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200
電話 043-265-7331

印刷 製本 株式会社 白鷗社
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-14-10